

建築改修工事特記仕様書													
工事概要													
工事名称	東京芸術大学赤レンガ2号館改修工事												
工事場所	東京都台東区上野公園12-8 東京芸術大学上野団地構内												
完成期限	平成22年 3月15日(月)												
工事の種類・規模等	<table border="1"> <tr> <td>棟名称</td> <td>赤レンガ2号館</td> </tr> <tr> <td>工種</td> <td>模様替</td> </tr> <tr> <td>構造・階数</td> <td>B2(レンガ造)</td> </tr> <tr> <td>建築面積</td> <td>(186)㎡</td> </tr> <tr> <td>延べ面積</td> <td>(372)㎡ (屋根裏面積186㎡)</td> </tr> <tr> <td>模様替内容</td> <td>耐震補強 内装改修</td> </tr> </table>	棟名称	赤レンガ2号館	工種	模様替	構造・階数	B2(レンガ造)	建築面積	(186)㎡	延べ面積	(372)㎡ (屋根裏面積186㎡)	模様替内容	耐震補強 内装改修
棟名称	赤レンガ2号館												
工種	模様替												
構造・階数	B2(レンガ造)												
建築面積	(186)㎡												
延べ面積	(372)㎡ (屋根裏面積186㎡)												
模様替内容	耐震補強 内装改修												
( )の数値は、当該既設建物の面積とする。													
工作物等	庇 外部階段												

一般特記事項

総則	<p>1.この工事の請負者は、国立大学法人東京芸術大学工事請負契約要項別記第1号の工事請負基準、現場説明書、図面61枚(特記仕様書含む)、公共建築工事標準仕様書(統一基準)(建築工事編)(平成19年版)、公共建築改修工事標準仕様書(統一基準)(建築工事編)(平成19年版)、工事記録写真撮影要領に基づき工事を施工する。</p> <p>2.特記仕様書の適用方法            (1)印を付した事項は、○印を付した事項のみ適用する。            (2)表中の数字、文字又は記号を記入する事項は、記入してある事項のみ適用する。            (3)_____で抹消した章及び項目の当該特記事項は、すべて適用しない。ある事項のみ適用する。            (4)特記された材料、製造所、製品名、施工業者等の取扱いは、特記されたもの又は同等以上のものとする。ただし同等以上のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。            (5)左欄の( )、〈 〉内の数値は、下記の各該当番号を示す。            ( )-公共建築工事標準仕様書(統一基準)(建築工事編)(平成19年版)            〈 〉-公共建築改修工事標準仕様書(統一基準)(建築工事編)(平成19年版)</p>
----	--

建築基準法に基づき定められた区分等	建築基準法に基づき定められた区分等 風速 $V_0 = 34 \text{ m/s}$ 地表面粗度区分 ・ I ・ II ○ III ・ IV 積雪区分 建告第1455号 別表(24) 東京都
-------------------	---

1章 一般共通事項

<p>&lt;1.3.3&gt; &lt;1.3.4&gt; 電気保安技術者 工事用電力 保安責任者</p>	<p>この工事現場に下記のいずれかの電気保安技術者及び工事用電力保安責任者を選任する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目名</th> <th>電気保安技術者</th> <th>工事用電力保安責任者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 電気事業法及びその他関係法令による</td> <td>/</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者</td> <td>・</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>3 1級電気工事施工管理技士以上の資格を有する者</td> <td>・</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>4 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者</td> <td>・</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>5 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者</td> <td>・</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>6 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者</td> <td>・</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>7 第1種電気工事士の資格を有する者</td> <td>・</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>8 2級電気工事施工管理技士以上の資格を有する者</td> <td>・</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>9 第2種電気工事士(旧電気工事士)以上の資格を有する者</td> <td>・</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>10 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学(実験を含む)に関する科目を修めて卒業した者</td> <td>・</td> <td>/</td> </tr> </tbody> </table>	項目名	電気保安技術者	工事用電力保安責任者	1 電気事業法及びその他関係法令による	/	○	2 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	・	○	3 1級電気工事施工管理技士以上の資格を有する者	・	○	4 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	・	/	5 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	・	○	6 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	・	○	7 第1種電気工事士の資格を有する者	・	○	8 2級電気工事施工管理技士以上の資格を有する者	・	○	9 第2種電気工事士(旧電気工事士)以上の資格を有する者	・	○	10 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学(実験を含む)に関する科目を修めて卒業した者	・	/
項目名	電気保安技術者	工事用電力保安責任者																																
1 電気事業法及びその他関係法令による	/	○																																
2 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	・	○																																
3 1級電気工事施工管理技士以上の資格を有する者	・	○																																
4 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	・	/																																
5 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	・	○																																
6 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	・	○																																
7 第1種電気工事士の資格を有する者	・	○																																
8 2級電気工事施工管理技士以上の資格を有する者	・	○																																
9 第2種電気工事士(旧電気工事士)以上の資格を有する者	・	○																																
10 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学(実験を含む)に関する科目を修めて卒業した者	・	/																																

<1.3.5>  
施工の条件

平成21年12月10日より平成22年3月15日のうち約7日間は入学試験等のため作業を制限することがある。

根切り作業を開始するに当たり、東京芸術大学理蔵文化財発掘調査団主任調査員立会いの上で人力根切りによるスポット調査を実施し、その後の作業を進めるものとする。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----

<1.3.8>  
発生材の処理等

引渡しを要するもの	-----
特別管理産業廃棄物	-----
現場において再利用を図るもの	1) 木製梁・根太・床板 2) 基礎の積束(鉄骨柱下部に復元、残りはごみ内に保管) 3) 鉄骨柱 4) 建具の一部
再生資源化を図るもの	1) コンクリート 2) コンクリート及び鉄から成る建設資材 3) 木材

「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年法律第104号)に基づき適切に処理を行う

その他法令に基づき構外搬出適法処分を行う

-----  
-----  
-----

<1.3.11>  
施工中の環境保全等  
低騒音型・低振動型建設機械の使用

本工事においては、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関わる規定」(平成9年7月31日建設省告示第1536号 最終改正平成13年4月9日 国土交通省告示大487号)に基づき国土交通大臣が型式指定を行った低騒音型・低振動型建設機械を使用するものとする。ただしこれにより難い場合は、監督職員と協議の上、必要書類を提出するものとする。  
 低騒音型建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督職員に提出するものとする。

排出ガス対策型建設機械	<p>本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日建設省経機発第249号 最終改正平成14年4月1日国総施第225号)に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、又はこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策型機械と同等と見なす。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。            排出ガス対策型建設機械、又は排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は、施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督職員に提出するものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バックホウ</td> <td rowspan="5">ディーゼルエンジン(エンジン出力7.5kw以上、260kw以下)を搭載したものに限る</td> </tr> <tr> <td>トラクタショベル(車輪式)</td> </tr> <tr> <td>ブルドーザ</td> </tr> <tr> <td>発動電動機(可搬式、溶接兼用機を含む)</td> </tr> <tr> <td>空気圧縮機(可搬式)</td> </tr> <tr> <td>油圧ユニット(基礎工事用機械で独立したもの)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ローラ類(ロードローラ、クローラ、振動ローラ)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ホイールクレーン</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	備考	バックホウ	ディーゼルエンジン(エンジン出力7.5kw以上、260kw以下)を搭載したものに限る	トラクタショベル(車輪式)	ブルドーザ	発動電動機(可搬式、溶接兼用機を含む)	空気圧縮機(可搬式)	油圧ユニット(基礎工事用機械で独立したもの)		ローラ類(ロードローラ、クローラ、振動ローラ)		ホイールクレーン	
種類	備考														
バックホウ	ディーゼルエンジン(エンジン出力7.5kw以上、260kw以下)を搭載したものに限る														
トラクタショベル(車輪式)															
ブルドーザ															
発動電動機(可搬式、溶接兼用機を含む)															
空気圧縮機(可搬式)															
油圧ユニット(基礎工事用機械で独立したもの)															
ローラ類(ロードローラ、クローラ、振動ローラ)															
ホイールクレーン															

ディーゼル車排出ガス規制に適合した車両

- 請負者は本工事現場で使用し、又は使用される関係車両(以下本工事関係車両という)が、当該工事場所のディーゼル車排出ガス規制条例(以下「排出ガス規制条例」という。)の適用を受ける場合は、これに適合した車両を使用しなければならない。
- 請負者は、本工事の施工に先立ち、本工事関係車両の「ディーゼル車排出ガス規制に適合する車両の使用」について、排出ガス規制条例の遵守を施工計画書に記載しなければならない。
- 請負者は、本工事関係車両にディーゼル車を使用する場合には、車検証のコピーを保管し、本工事関係車両を把握しなければならない。
- 請負者は、取締りにより本工事関係車両に違法行為等があった場合には、直ちに監督職員に報告しなければならない。
- 請負者は、資機材の搬出入等において、資材納入業者に排出ガス規制条例を遵守させるものとする。

<1.6.2>  
技能士

工種	技能検定の職種
鉄筋工事	◎鉄筋施工
コンクリート工事	・左官 ◎型枠施工
鉄骨工事	・とび
ブロック・ALCパネル工事 PCカーテンウォール工事	・ブロック建築ALCパネル施工 ・PCカーテンウォール施工
防水工事	・防水施工
石工事	・石材施工
タイル工事	・タイル張り
木工事	・建築大工
屋根、とい工事	・建築板金 ・スレート施工
金属工事	・内装仕上げ施工(鋼製下地)
左官工事	・左官
建具工事	・サッシ施工 ・ガラス施工
塗装工事	・塗装
内装工事	・内装仕上げ施工(床、天井仕上げ等)・表装
植栽工事	・造園

<1.6.4>  
一工程の施工の確認及び報告

施工の確認及び報告を行う工程	備考
根切り完了時	床付け面の確認
既存仕上等の撤去(耐震補強部分)	躯体目荒し完了の段階

<1.6.9> 化学物質の濃度測定	<p>ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン等の揮発性有機化合物の室内濃度の測定            工事の施工完了後、引き渡しをするまでの間に、下表の測定室等の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、指針値以下であることを確認し、報告する。</p> <p>測定室等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>棟名称</th> <th>階</th> <th>室名</th> <th>採取本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※上記の室について、それぞれ1棟体につき2回採取を行い測定する。</p> <p>測定物質、測定方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>指針値※</th> <th>測定方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホルムアルデヒド</td> <td>100 μg/m<sup>3</sup> (0.08 ppm) 以下</td> <td>・ジメチルホルムジアン誘導体固相吸着/溶媒抽出法で採取し、高速液体クロマトグラフ法によって行う。 ・その他( )</td> </tr> <tr> <td>トルエン</td> <td>260 μg/m<sup>3</sup> (0.07 ppm) 以下</td> <td>・次の内のいずれかの測定方法とする。 固相吸着-溶媒抽出法で採取し、ガスクロマトグラフ質量分析法によって行う。</td> </tr> <tr> <td>キシレン</td> <td>870 μg/m<sup>3</sup> (0.20 ppm) 以下</td> <td>固相吸着-加熱脱着法で採取し、ガスクロマトグラフ質量分析法によって行う。</td> </tr> <tr> <td>エチルベンゼン</td> <td>3800 μg/m<sup>3</sup> (0.88 ppm) 以下</td> <td>容器採取法で採取し、ガスクロマトグラフ質量分析法によって行う。</td> </tr> <tr> <td>スチレン</td> <td>220 μg/m<sup>3</sup> (0.05 ppm) 以下</td> <td>・その他( )</td> </tr> </tbody> </table> <p>※両単位の換算は、25℃の場合による。</p> <p>試料採取方法            試料採取は室内及び外気の各1箇所を2回づつとし、対象室内を30分換気後に対象室内を5時間以上密閉し、その後概ね30分間採取の濃度(μg/m<sup>3</sup>)を表す。採取の時刻は揮発性有機化合物濃度の日変動で最大となることが予想される午後2時~3時頃に設定するのが望ましい。室外についても室内と同様の条件で平行して採取する。試料採取は室の中央付近の少なくとも壁から1m以上離れた高さ1.2~1.5mの位置を試料採取位置として設定する。外気の試料採取は外壁及び空調吸排気口から2~5m離れた、室内の測定高さと同等の高さの所を試料採取位置として設定する。</p> <p>測定結果が上回った場合の措置            測定結果が指針値を上回った場合は、監督職員と協議する。</p> <p>&lt;1.8.2&gt; 完成図</p> <p>完成後提出する完成図等の種類及び提出部数は、次による。            完成図 提出部数 2部</p> <p>完成図の種類及び記入内容は次による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>記入内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〈表1.8.1〉による</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>完成図の様式等は次による。            作成方法 原図サイズ等 製本(A3版)            C A Dデータ(DXF形式・MP2形式・JWW形式)</p>	棟名称	階	室名	採取本数																	種類	指針値※	測定方法	ホルムアルデヒド	100 μg/m <sup>3</sup> (0.08 ppm) 以下	・ジメチルホルムジアン誘導体固相吸着/溶媒抽出法で採取し、高速液体クロマトグラフ法によって行う。 ・その他( )	トルエン	260 μg/m <sup>3</sup> (0.07 ppm) 以下	・次の内のいずれかの測定方法とする。 固相吸着-溶媒抽出法で採取し、ガスクロマトグラフ質量分析法によって行う。	キシレン	870 μg/m <sup>3</sup> (0.20 ppm) 以下	固相吸着-加熱脱着法で採取し、ガスクロマトグラフ質量分析法によって行う。	エチルベンゼン	3800 μg/m <sup>3</sup> (0.88 ppm) 以下	容器採取法で採取し、ガスクロマトグラフ質量分析法によって行う。	スチレン	220 μg/m <sup>3</sup> (0.05 ppm) 以下	・その他( )	種類	記入内容	〈表1.8.1〉による					
棟名称	階	室名	採取本数																																												
種類	指針値※	測定方法																																													
ホルムアルデヒド	100 μg/m <sup>3</sup> (0.08 ppm) 以下	・ジメチルホルムジアン誘導体固相吸着/溶媒抽出法で採取し、高速液体クロマトグラフ法によって行う。 ・その他( )																																													
トルエン	260 μg/m <sup>3</sup> (0.07 ppm) 以下	・次の内のいずれかの測定方法とする。 固相吸着-溶媒抽出法で採取し、ガスクロマトグラフ質量分析法によって行う。																																													
キシレン	870 μg/m <sup>3</sup> (0.20 ppm) 以下	固相吸着-加熱脱着法で採取し、ガスクロマトグラフ質量分析法によって行う。																																													
エチルベンゼン	3800 μg/m <sup>3</sup> (0.88 ppm) 以下	容器採取法で採取し、ガスクロマトグラフ質量分析法によって行う。																																													
スチレン	220 μg/m <sup>3</sup> (0.05 ppm) 以下	・その他( )																																													
種類	記入内容																																														
〈表1.8.1〉による																																															

2章 仮設工事

<2.2.1>  
足場その他

枠組足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン(厚生労働省平成15年4月策定)により、設置については「手すり先行工法による場合の組立等の基準」による働きやすい安心感のある足場とし、改善措置機材による場合は手すり先行専用足場型と同等の機能を確保するものとする。

東京芸術大学施設課		課長	補佐	係長	係員
工事名称	東京芸術大学赤レンガ2号館改修工事	縮尺		図面枚数	平成21年9月 特一01
図面名称	特記仕様書-1				

5章 建具改修工事			
<5. 1. 3> 改修工法	種別 ・かぶせ工法 ○撤去工法 (○はつりによる撤去 ・油圧工具等による撤去)		
	<5. 3. 2> 性能及び構造 外部に面する鋼製建具の耐風圧性 S-4		
<5. 6. 2> 材質、形状及び寸法	建具用金物		
	スイングドア、スイングサッシの金物の種類	バックセット (mm)	製作所
	・モノロック		
	・本締め付きモノロック		
	○シリンダー本締め (レバーハンドルを含む)		
	・シリンダー本締め		
・空錠			
○押棒、押板		図示	
<5. 6. 4> 鍵	マスターキー ○作製する ・作製しない (教官室-玄関扉は逆マスター)  シリンダー形状 美和ロック㈱ PRシリンダー程度		

6章 内装改修工事			
<6. 8. 2> 材料	誘導用、注意喚起用床材 視覚障害者用タイル		
	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)
	点紙	22φ	5
	杉田エース㈱ JL22-S-Y程度		

<6. 10. 2> 材料	弾性ウレタン塗床仕上げの種類		
	○平滑仕上げ	・防滑仕上げ	・つや消し仕上げ

<6. 11. 2> 材料	フローリングの種類			
	単層フローリング	樹種	厚さ (mm)	大きさ (mm)
	○フローリングボード	・なら	・18	
	・フローリングブロック	○栗	○15	
			○303×303	
	・モザイクパーケット			

<6. 13. 2> 材料	せっこうボード、その他ボード及び合板張り		
	種類	規格、区分等	厚さ (mm)
	せっこうボード (GB-R)		9.5 (準不燃) 12.5 (不燃)
	シーリングせっこうボード (GB-S)		12.5 (不燃)
	強化せっこうボード		21 (不燃)
	化粧せっこうボード (GB-D)	普通・トラバーチ	9.5 (準不燃)
	ロックウール化粧吸音板 (DR)	内部用 普通	12.0 (不燃)
	化粧ケイ酸カルシウム板	6.0	
	多機能ケイ酸カルシウム板	6.0	

多機能ケイ酸カルシウム板は三菱マテリアル建材㈱モイス程度とする。

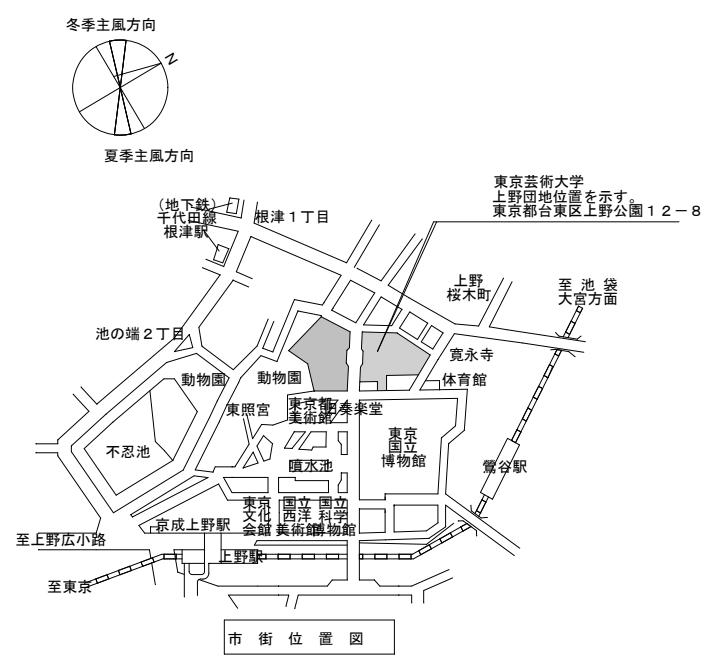
自然素材塗壁材	自然素材塗壁材は田中石灰工業㈱ タナクリーム内装用#200程度とする
流し台	製造所・製品名 サンウエーブ㈱ サンファーニ クリナップ㈱ クリンレディ ナステレンス㈱ ビュアッツ  木製キャビネット L=2100 IH2ロコンロ付 (オールメタル対応) 吊戸棚のみ (レンジフードなし)

### 7章 塗装改修工事

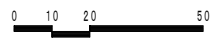
<7. 1. 3> 材料	塗料は、F☆☆☆☆製品のものとする。  防火材料の指定 ・屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 または、建築基準法に基づく基材同等の認定表示のあるものとする。 ・次の箇所は防火材料とする。
-----------------	--

### 8章 耐震改修工事

(3. 2. 3) 埋戻し及び盛土	種別 ・A種 ○B種 ・C種 ・D種
(3. 2. 5) 建設発生土の処理	構外搬出適法処分
コンクリートの品質	構造特記仕様書による。
<8. 1. 5> 鉄骨製作工場	構造特記仕様書による。
<8. 2. 1> 鉄筋	構造特記仕様書による。
<8. 2. 7> 鋼材	構造特記仕様書による。



音楽学部配置図 S = 1 / 2000



※根切りのための矢板、土留め、杭は人力根切りのため取りやめとする。				東京芸術大学施設課				課長	補佐	係長	係員
工事名称		東京芸術大学赤レンガ2号館改修工事						平成21年9月			
図面名称		特記仕様書-2		縮尺		1/2000		図面枚数		特-02	

改修後

外部仕上表

部 位	仕 上
屋 根	瓦葺き(既存のまま)
外 壁	レンガ積み (7)450 (既存のまま。ただし目地にすき間が生じている場合はエポキシ樹脂を、大きなすき間は樹脂セメント系材を充填のこと。)
基 礎	石積み基礎 (7)630(既存のまま、ただし床下換気口350φ不良箇所は取替)
建 具	外部側スチール建具(不良箇所補修。落下のおそれがある場合は落下防止措置をおこなうこと。)
軒樋・竖樋	銅製(不良箇所取替)

内部仕上表

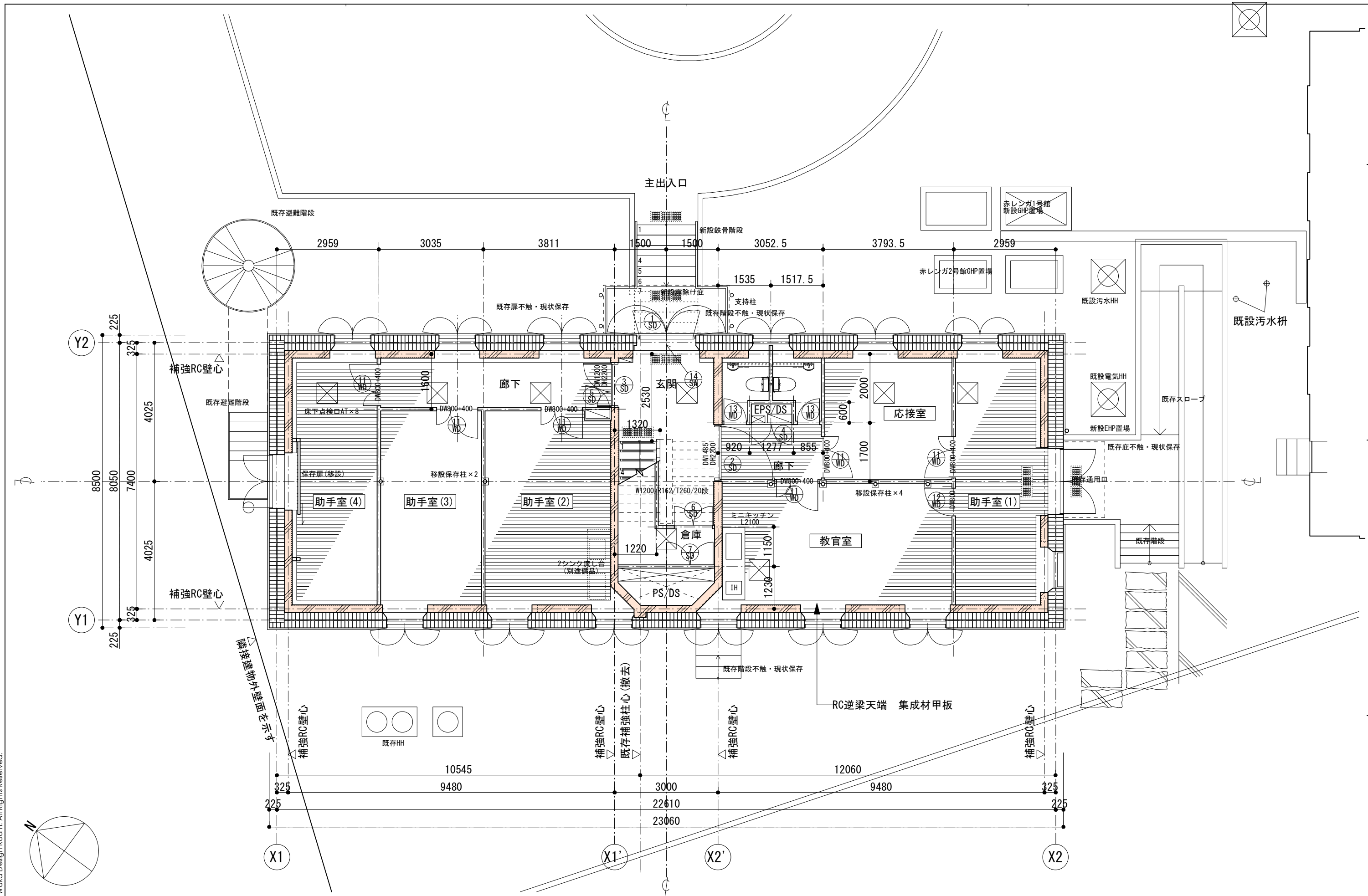
階	室 名	床	巾 木	壁	天 井	備 考
1 階	応接室	フローリングボードUC 厚15(コンクリート下地)	自然素材塗材(RC面) ビニル巾木(ボード面)	自然素材塗壁材塗 厚3(RC面・ボード面)	多機能ケイ酸カルシウム板 厚6 (LGS下地強化石膏ボード厚21×2下地)	CH=2,515 床点検口1か所、天井点検口1か所
	助手室 (1)~(4)	フローリングボードUC 厚15(コンクリート下地)	自然素材塗材(RC面) ビニル巾木(ボード面)	自然素材塗壁材塗 厚3(RC面・ボード面)	多機能ケイ酸カルシウム板 厚6 (LGS下地強化石膏ボード厚21×2下地)	CH=2,515 床点検口2か所、天井点検口4か所 保存柱移設(鉄骨75φ SOP仕上げ) 流し用ステンレス水切り 注意喚起用点字紙
	教官室	フローリングボードUC 厚15(コンクリート下地)	自然素材塗材(RC面) ビニル巾木(ボード面)	自然素材塗壁材塗 厚3(RC面・ボード面)	多機能ケイ酸カルシウム板 厚6 (LGS下地強化石膏ボード厚21×2下地)	CH=2,515 床点検口1か所、天井点検口1か所 保存柱移設(鉄骨75φ SOP仕上げ)、流し台 L=2100 流し用ステンレス水切り
	廊下	フローリングボードUC 厚15(コンクリート下地)	自然素材塗材(RC面) ビニル巾木(ボード面)	自然素材塗壁材塗 厚3(RC面・ボード面)	多機能ケイ酸カルシウム板 厚6 (LGS下地強化石膏ボード厚21×2下地)	CH=2,515 床点検口2か所
	倉庫	コンクリート金ごて仕上げ	素地(RC面) ビニル巾木(ボード面)	素地(RC面) 素地(ボード面)	素地(RC面)	床点検口1か所
	玄関	コンクリート金ごて仕上げ	打放し仕上げ(RC面) ビニル巾木(ボード面)	杉本実型枠打放し仕上げ(RC面) 自然素材塗壁材塗 厚3(ボード面)	多機能ケイ酸カルシウム板 厚6 (LGS下地強化石膏ボード厚21×2下地)	CH=2,765
	トイレ	コンクリート下地塗床仕上げ	塗床立上げ(RC面) ビニル巾木(ボード面)	化粧ケイカル板 厚6接着張り(RC面) 化粧ケイカル板 厚6(ボード面)	ロックウール化粧吸音板 厚12 (LGS下地強化石膏ボード厚21×2下地)	CH=2,250 LGS壁は上階床下まで立上げ
2 階	博士研究室	既存床板張り 厚45(新規根太取付) サンダー掛けの上 UC	自然素材塗材(RC面)	自然素材塗壁材塗 厚3	多機能ケイ酸カルシウム板 厚6	CH=2,500 移動間仕切り壁移設(取り外し前2階使用分、 アルミレール延長、フランス落とし追加3か所) 流し用ステンレス水切り 天井点検口1か所
	修士研究室	既存床板張り 厚45(新規根太取付) サンダー掛けの上 UC	自然素材塗材(RC面)	自然素材塗壁材塗 厚3	多機能ケイ酸カルシウム板 厚6	CH=2,500 移動間仕切り壁移設(取り外し前1階使用分) 流し用ステンレス水切り 天井点検口1か所
屋根裏	装演室	既存床板張り 厚45(既存根太取付) サンダー掛けの上 UC	自然素材塗材(RC面)	自然素材塗壁材塗 厚3	木造小屋組表し(既存のまま)	流し用ステンレス水切り
	文化財センター	既存床板張り 厚45(既存根太取付) サンダー掛けの上 UC	自然素材塗材(RC面) ビニル巾木(ボード面)	自然素材塗壁材塗 厚3(RC面・ボード面)	木造小屋組表し(既存のまま)	流し用ステンレス水切り
	資料室	既存床板張り 厚45(既存根太取付) サンダー掛けの上 UC	自然素材塗材(RC面) ビニル巾木(ボード面)	自然素材塗壁材塗 厚3(RC面・ボード面)	多機能ケイ酸カルシウム板 厚6	CH=2,250
	收藏庫	既存床板張り 厚45(既存根太取付) サンダー掛けの上 UC	自然素材塗材(RC面) ビニル巾木(ボード面)	自然素材塗壁材塗 厚3(RC面・ボード面)	多機能ケイ酸カルシウム板 厚6	CH=2,250
共通	階段	コンクリート金ごて仕上げ	打放し仕上げ(RC面)	杉本実型枠打放し仕上げ	コンクリート打放し仕上げ	SUSノンスリップ取付(ゴムタイヤ入り) 注意喚起用点字紙

※小屋裏部の清掃、図面にない取り合い部補修は本工事範囲とする。  
 ※間仕切り壁はフローリング張りを先行し、将来の間仕切り変更に対応できるようにする。  
 ※間仕切り壁はLGS下地石膏ボード2重張り(厚9.5+12.5)とする。  
 トイレに面するボード面のみLGS下地シーリング石膏ボード張り 厚12.5の上化粧ケイカル板張りとする。  
 ※コンクリート面の巾木は入巾木とする。  
 ※移設保存柱設置部床下には既存レンガ積み束(2か所)を復元し、残りのレンガはピット内に保管する。

※既存木製建具改修内容は既存平面図による。  
 ※床点検口はモルタル充填用SUS製600角、天井点検口はアルミ製600角とする。  
 ※天井開口補強数量を次に示す。

空調用	910×910	2か所
空調用	1015×640	2か所
空調用	740×600	2か所
照明用	1235×220	77か所
照明用	1235×150	2か所

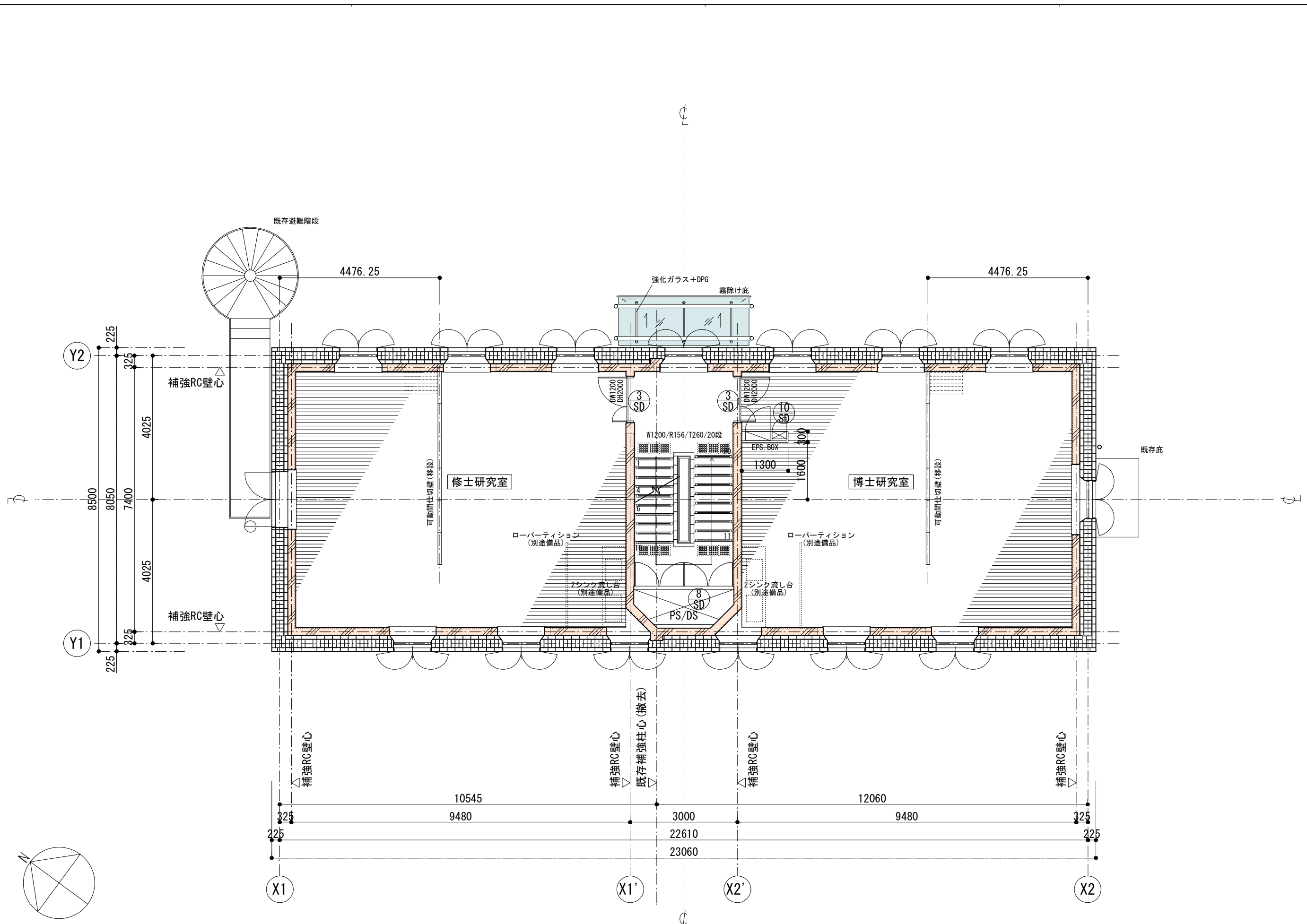
				東京芸術大学施設課				課長	補佐	係長	係員
工事名称		東京芸術大学赤レンガ2号館改修工事						平成21年9月			
図面名称		改修後仕上表				縮尺		図面枚数		A-O1	



Copyright 2009-2010 Waka Design Room. All Rights Reserved.

Comments&UpDate History

東京芸術大学施設課				Client/Purchaser 東京芸術大学		Project 東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事		Date 2009.09.30
課長	補佐	係長	係員					Scale 1/100
				Architect 東京芸術大学 美術学部 将来計画準備室 一級建築士 269493 君塚 和香		Job No. <b>GAR2</b>		Drawing No. <b>A-02</b>
						Title 改修後：1階平面図		Rev./Use 基本設計図



Copyright 2009-2010 Waka Design Room. All Rights Reserved.

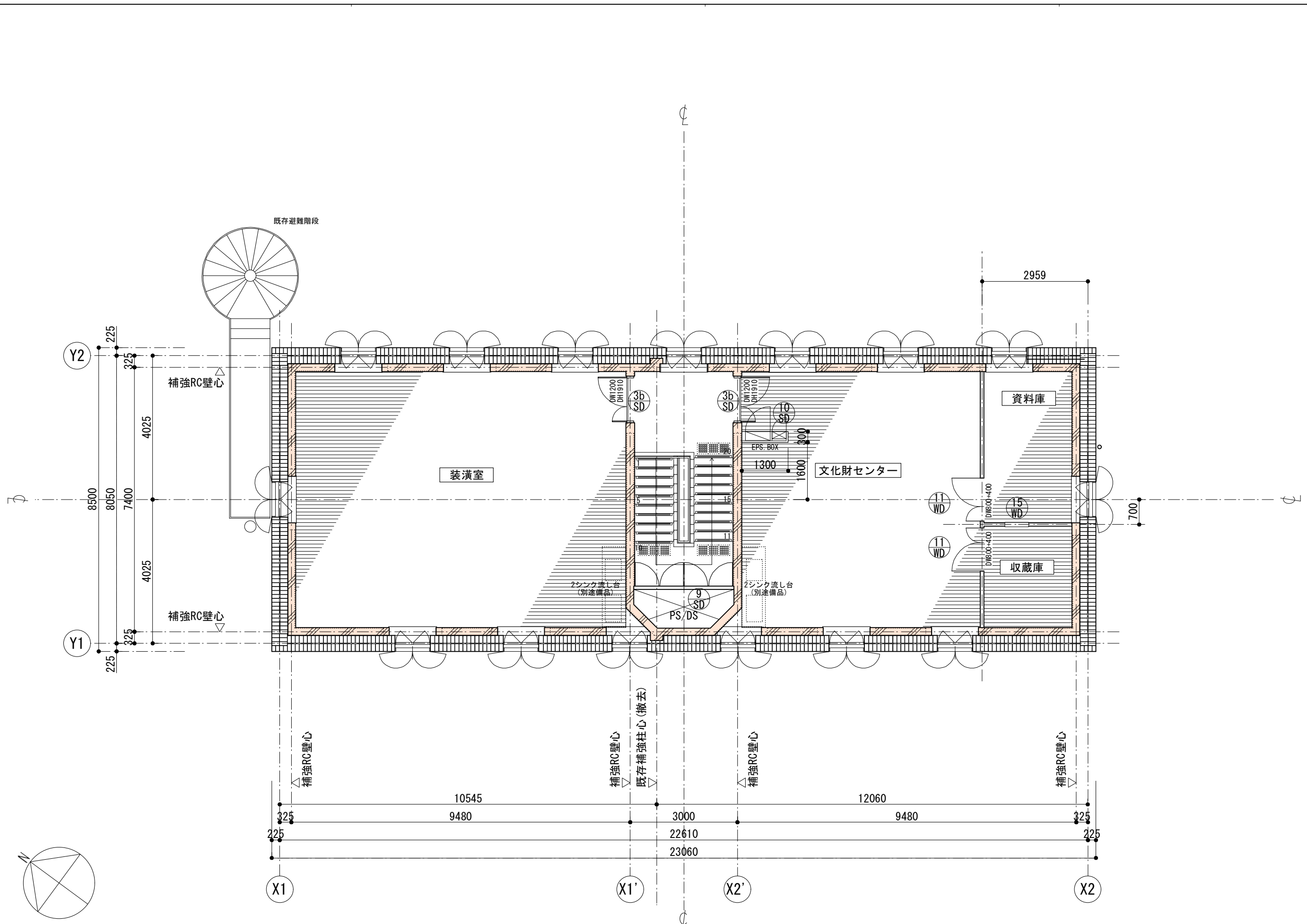
Comments&UpDate History

東京芸術大学施設課			
課長	補佐	係長	係員

Client/Purchaser	
東京芸術大学	
Architect	
東京芸術大学 美術学部 将来計画準備室 一級建築士 269493 君塚 和香	

Project	
東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	
Job No.	Title
<b>GAR2</b>	改修後：2階平面図

Date	2009.09.30
Scale	1/100
Drawing No.	<b>A-03</b>
Rev./Use	基本設計図



Copyright 2009-2010 Waka Design Room. All Rights Reserved.

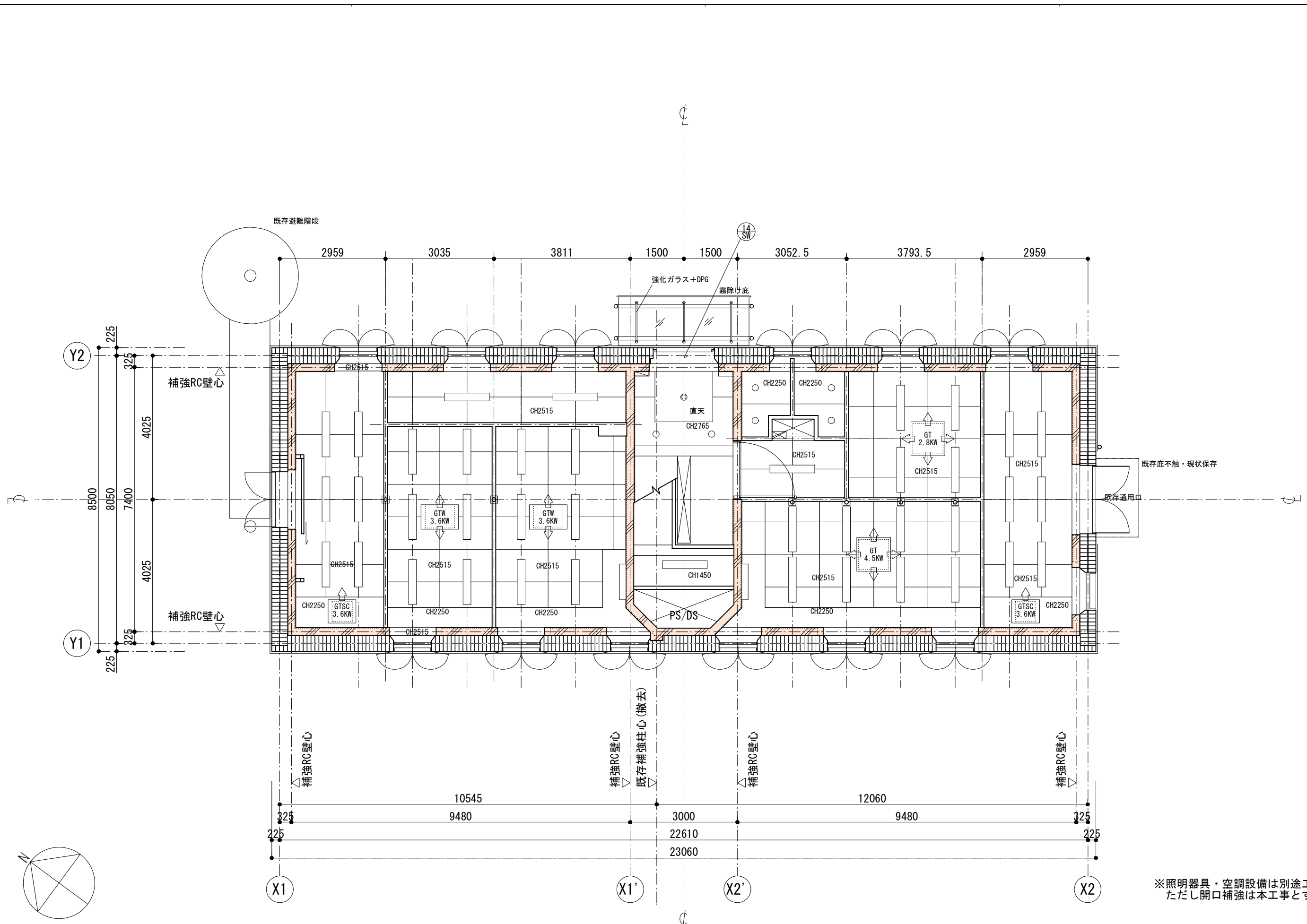
Comments&UpDate History

東京芸術大学施設課			
課長	補佐	係長	係員

Client/Purchaser	
東京芸術大学	
Architect	
東京芸術大学 美術学部 将来計画準備室 一級建築士 269493 君塚 和香	

Project	
東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	
Job No.	Title
<b>GAR2</b>	改修後：小屋裏階平面図

Date	2009.09.30
Scale	1/100
Drawing No.	<b>A-04</b>
Rev./Use	基本設計図



※照明器具・空調設備は別途工事とする。  
 ただし開口補強は本工事とする。

Copyright 2009-2010 Waka Design Room. All Rights Reserved.

Comments&UpDate History

東京芸術大学施設課			
課長	補佐	係長	係員

Client/Purchaser			
東京芸術大学			
Architect			
東京芸術大学 美術学部 将来計画準備室 一級建築士 269493 君塚 和香			

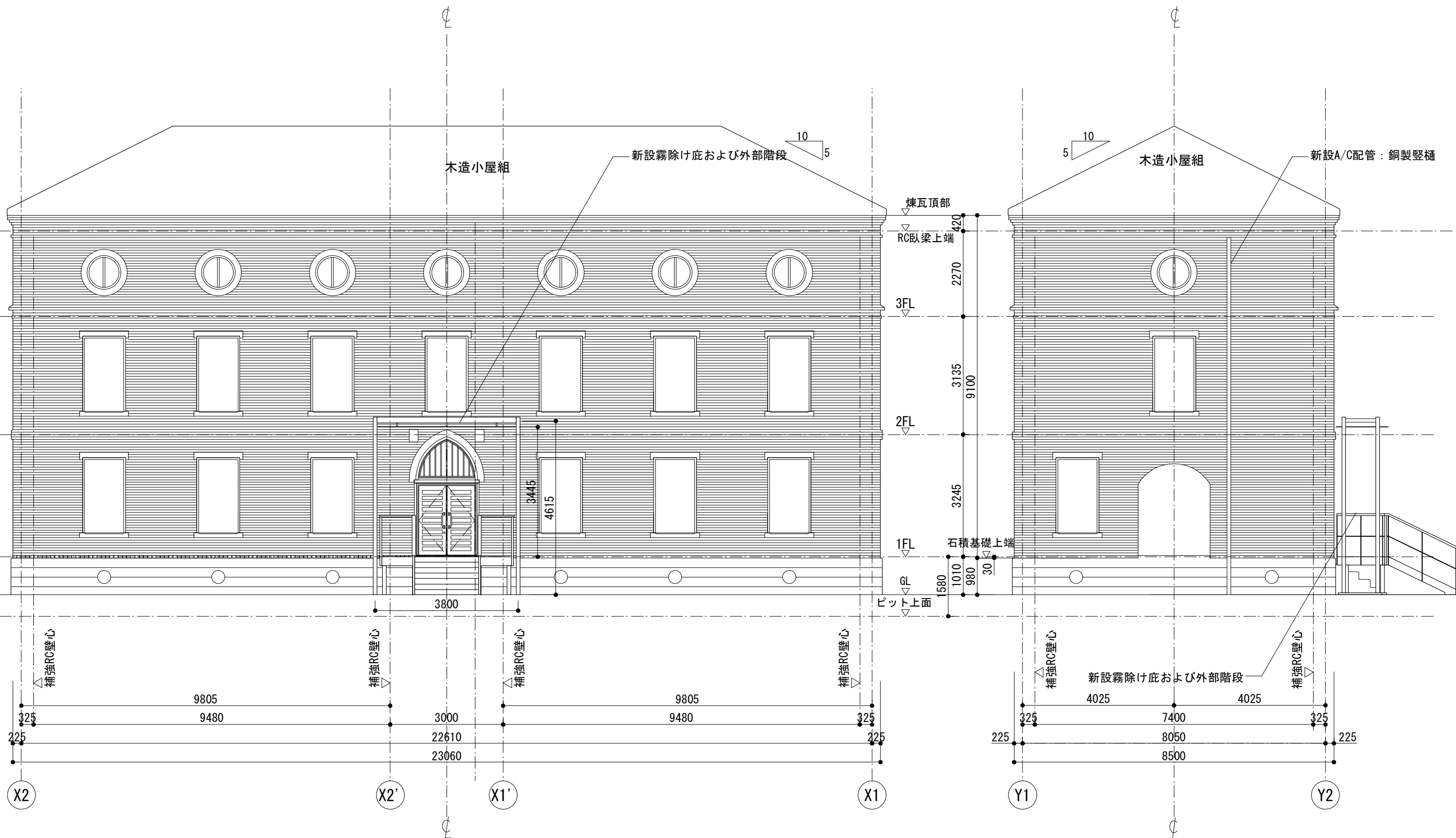
Project	
東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	
Job No.	Title
<b>GAR2</b>	改修後：1階天井伏図

Date	2009.09.30
Scale	1/100
Drawing No.	<b>A-05</b>
Rev./Use	基本設計図









北東立面図

※外部新設物以外は現況保存とし、躯体等への破損が無いように十分注意のこと

南東立面図

Comments&UpDate History

東京芸術大学施設課

Client/Purchaser

Project

Date 2009.09.30

課長	補佐	係長	係員
----	----	----	----

東京芸術大学

東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事

Scale 1/100

Architect

東京芸術大学 美術学部 将来計画準備室  
一級建築士 269493 君塚 和香

Job No.

**GAR2**

Title

改修後：立面図

Drawing No.

**A-08**

Rev./Use 基本設計図



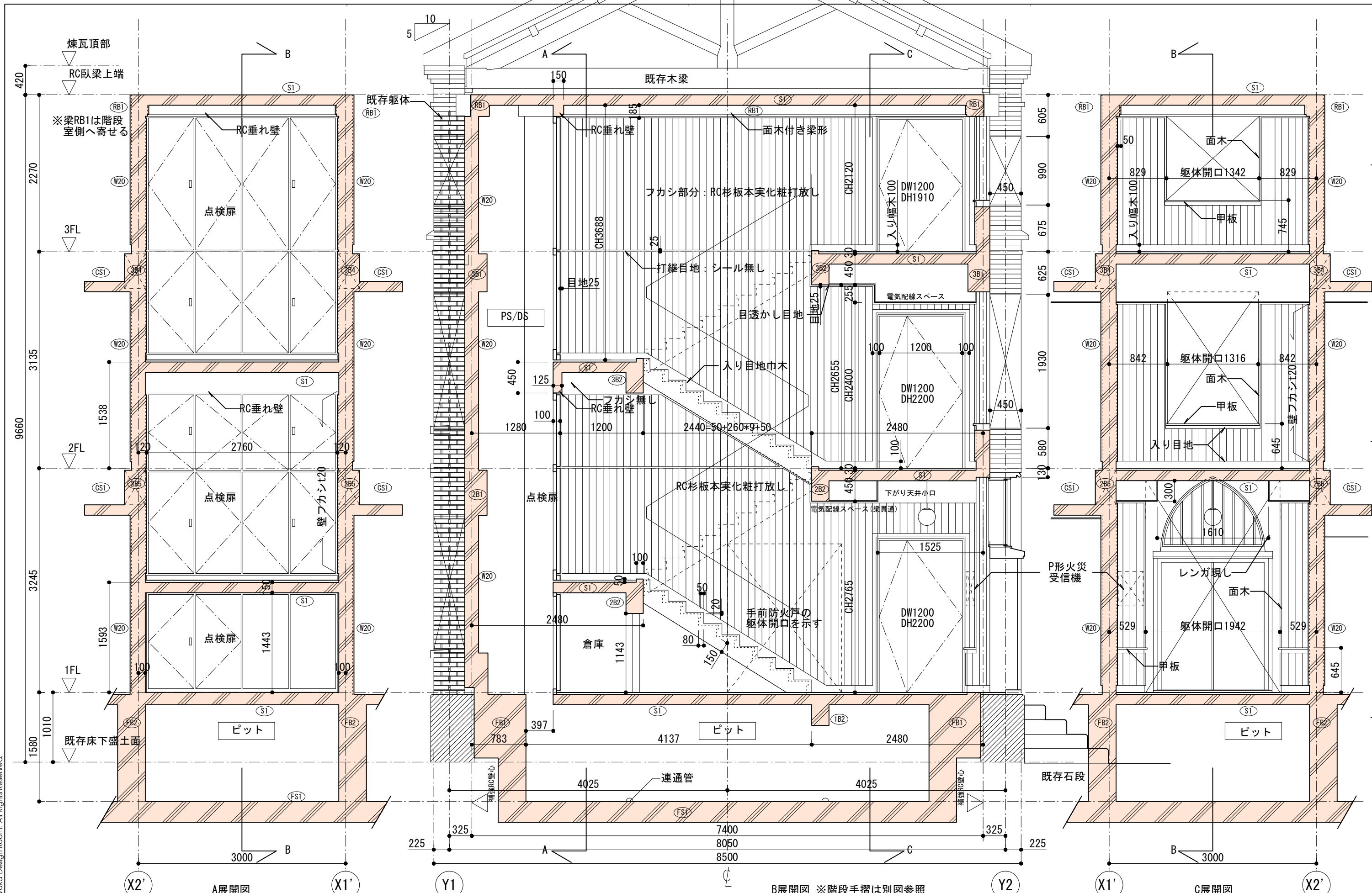
記号	数量	①SD 玄関扉	②SD 1F階段室扉	③SD ③SD 階段室扉 (左右勝手あり)	④SD 1F廊下EPS/分電盤扉	⑦SD ⑧SD ⑨SD	各1	
姿図								
枠	扉見込	40	40	40	40			
	沓摺 枠見込	80	200	200	120			
開閉方式	鋼製框戸		鋼製両面フラッシュ常時開放防火扉		鋼製両面フラッシュ防火扉		鋼製片面フラッシュ扉	
材料	スチール		スチール		スチール		スチール	
仕上	ウレタン塗装		防錆塗装+SOP		防錆塗装+SOP		防錆塗装+SOP	
ガラス/ガラリ	網入りガラスt6.8		-		網入りガラスt6.8+飛散防止フィルム貼り		-	
把手	引手ユニオン押棒T2053-01-001+ラッチ台座ULST500		彫り込みケースハンドル		レバーハンドル		点検扉用ケースハンドル	
錠前	シリンダー錠		シリンダー&サムターン錠		シリンダー&サムターン錠		シリンダー錠	
支持金物	丁番吊り(三枚)		軸吊り		丁番吊り(三枚)		軸吊り	
付属金物	ドアチェック, フック付き戸当たり, フランス落とし		煙感連動ドアキャッチ		ドアチェック, 戸当たり, 小扉フランス落とし		90度開放制限ストッパーバー, フランス落とし	
備考	既存アングル枠の交換・鉄扉調整とも		開放時に壁内面一納まり		-		-	
記号	数量	⑤SD 1F廊下EPS扉	⑥SD 1F階段下倉庫扉	⑩SD EPS.BOX				
姿図								
枠	扉見込	40	40	40				
	沓摺 枠見込	120	120	100				
開閉方式	鋼製片面フラッシュ扉		鋼製片面フラッシュ扉		鋼製片面フラッシュ扉+パネル		鋼製片面フラッシュ扉	
材料	スチール		スチール		スチール		スチール	
仕上	防錆塗装+SOP		防錆塗装+SOP		防錆塗装+SOP		防錆塗装+SOP	
ガラス/ガラリ	-		-		-		-	
把手	点検扉用ケースハンドル		レバーハンドル		点検扉用ケースハンドル		点検扉用ケースハンドル	
錠前	シリンダー錠		シリンダー錠		シリンダー錠		シリンダー錠	
支持金物	軸吊り		軸吊り		軸吊り		軸吊り	
付属金物	-		フランス落とし		90度開放制限ストッパーバー, フランス落とし		90度開放制限ストッパーバー, フランス落とし	
備考	-		アンダーカット10mm		-		エアタイトガasket、裏面ガラスウール全面張	

Comments&UpDate History	共通事項	東京芸術大学施設課	Client/Purchaser		Project	Date
	1 姿図は全て開かれる側から見たものとする	課長	東京芸術大学		東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	2009.09.30
	2 建具寸法は特記なき限り枠内寸法とする	補佐				Scale
	3 レバーハンドル、引手等の高さは床仕上り+900mmとする	係長				1/50
4 レバーハンドルのバックセットは55mmとする	係員	Architect		Job No.	Drawing No.	
5 D.C(ドアチェック)はインナー(コンシールド)タイプとする		東京芸術大学 美術学部 将来計画準備室		GAR2	A-10	
6 本学キーステムに則ったマスターキーを用いる		一級建築士 269493 君塚 和香		Title	Rev./Use	
				改修後: 建具表1	基本設計図	

記号	数量	⑬ 1F各室扉、PFH扉	8	⑫ 1F助手室扉	1	⑬ 1F便所扉 (左右勝手あり)	2	⑭ 1F玄関上明かり窓	1	⑮ PHF通気ガラリ	1
姿図											
枠	扉見込	三方枠		三方枠		三方枠		四方枠		三方枠	
	沓摺	SUS U304HL		SUS U304HL		SUS U304HL		SUS U304HL		沓摺なし	
	枠見込	40		40		40		50		40	
	沓摺	120		120		120		320		120	
開閉方式	木製両面フラッシュ扉		木製両面フラッシュ扉		木製両面フラッシュ扉		鋼製FIX窓		木製ガラリ扉 (固定)		
材料	シナ合板		シナ合板		シナ合板		-		-		
仕上	SOP		SOP		SOP		SOP		SOP		
ガラス/ガラリ	型ガラス明かり窓+飛散防止フィルム		-		型ガラス明かり窓		透明ガラス t6+飛散防止フィルム		-		
把手	レバーハンドル		レバーハンドル		レバーハンドル		-		-		
錠前	シリンダー+サムターン錠		シリンダー+サムターン錠		表示錠 (緊急用コイン開錠)		-		-		
支持金物	丁番吊り (三枚)		丁番吊り (三枚)		丁番吊り (二枚)		-		-		
付属金物	ドアチェック、フランス落とし、フック付き戸当り		ドアチェック、フック付き戸当り		戸当り		水切り板金 (ガルバリウム鋼板曲げ)		-		
備考	スチール枠SOP、アンダーカット10mm		スチール枠SOP、アンダーカット10mm		スチール枠SOP、アンダーカット10mm		押し縁		スチール枠SOP		
記号	数量										
姿図		[Blank]		[Blank]		[Blank]		[Blank]		[Blank]	
枠	扉見込	}		}		}		}		}	
	沓摺	}		}		}		}		}	
開閉方式											
材料											
仕上											
ガラス/ガラリ											
把手											
錠前											
支持金物											
付属金物											
備考											

Comments&UpDate History	共通事項	東京芸術大学施設課				Client/Purchaser		Project		Date
	1 姿図は全て開かれる側から見たものとする	課長	補佐	係長	係員	東京芸術大学		東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事		2009.09.30
	2 建具寸法は特記なき限り枠内寸法とする									Scale
	3 レバーハンドル、引手等の高さは床仕上り+900mmとする									1/50
	4 レバーハンドルのバックセットは55mmとする					Architect		Job No.		Drawing No.
	5 D.C (ドアチェック)はインナー(コンシールド)タイプとする					東京芸術大学 美術学部 将来計画準備室		GAR2		改修後: 建具表2
6 本学キーシステムに則ったマスターキーを用いる					一級建築士 269493 君塚 和香		Rev./Use		A-11 基本設計図	

Copyright 2009-2010 Waka Design Room. All Rights Reserved.



A展開図

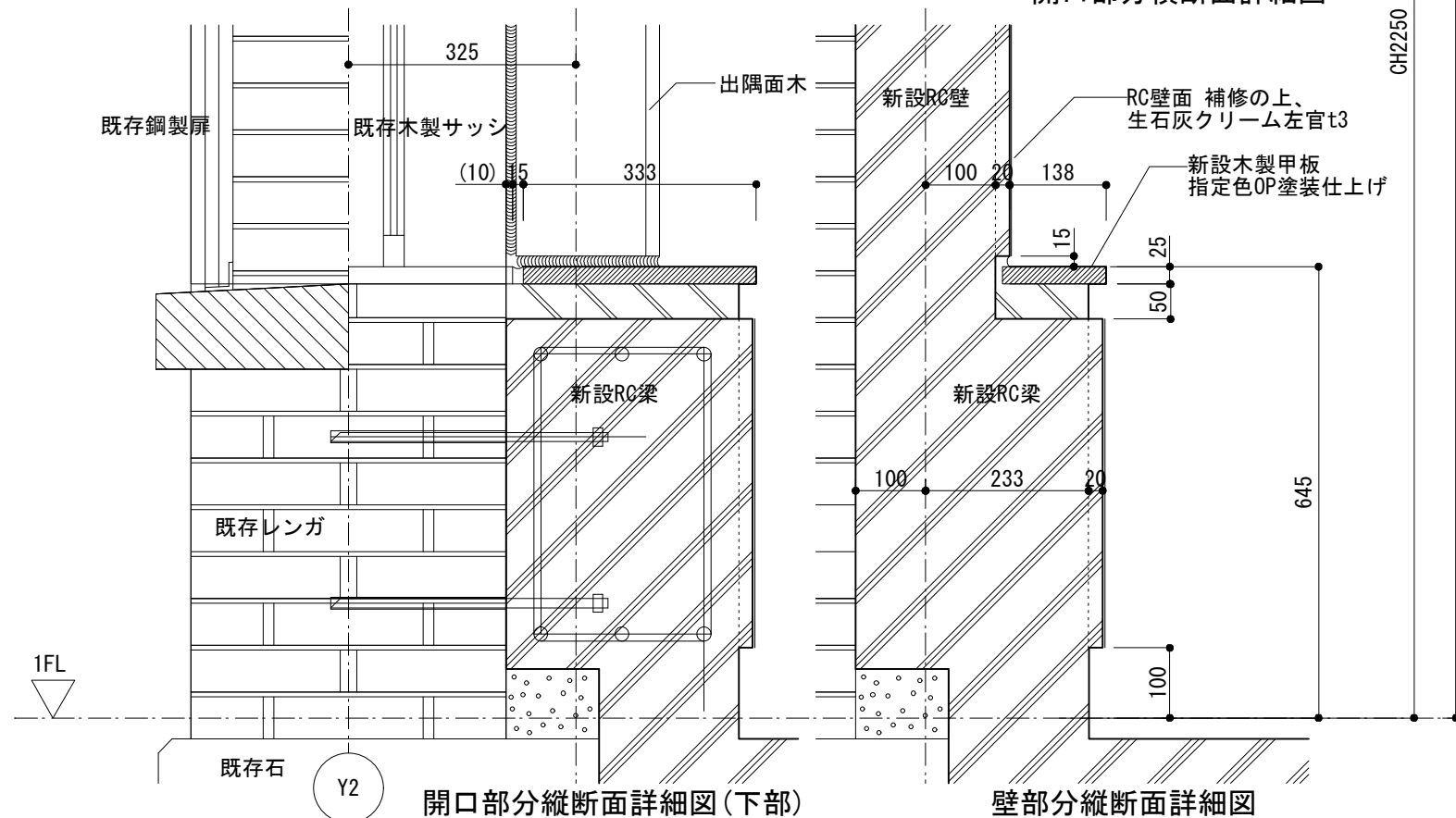
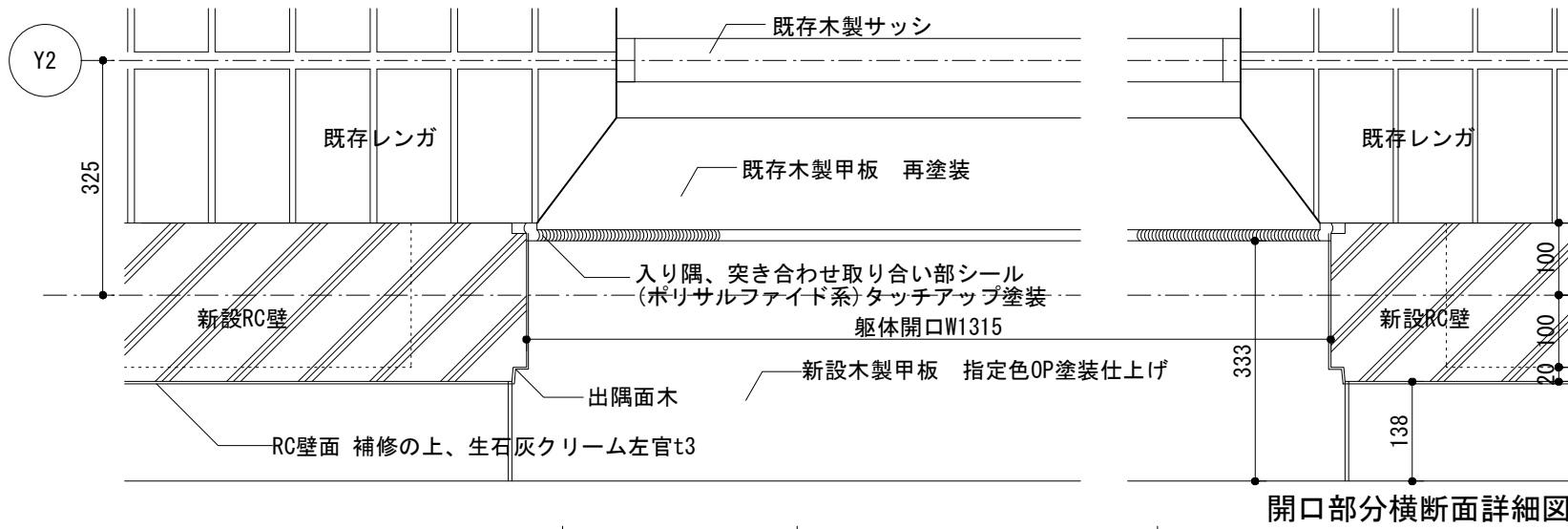
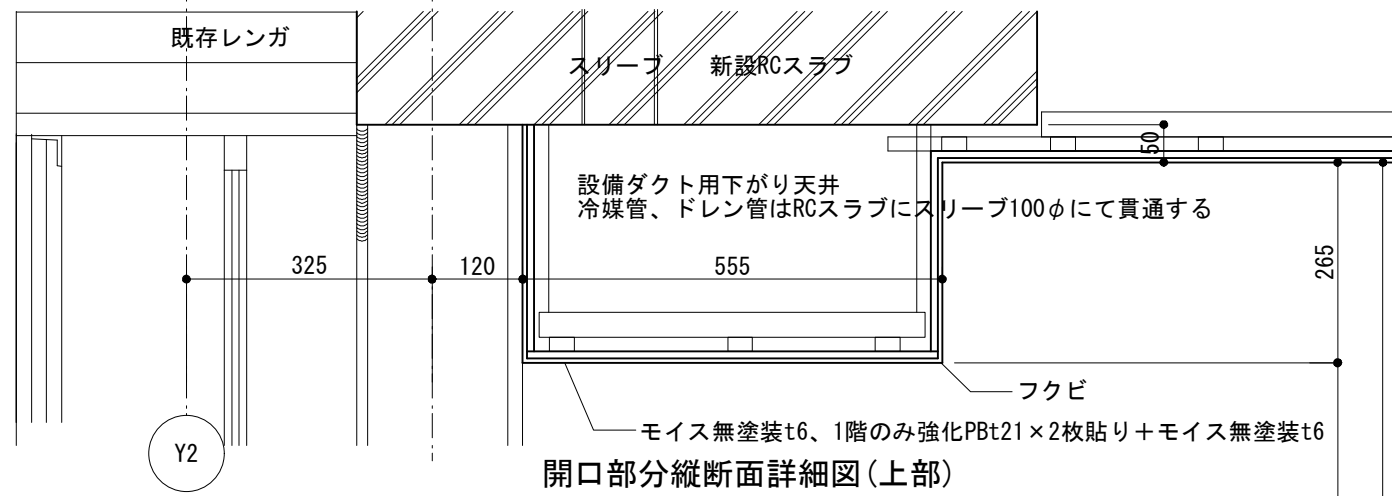
B展開図 ※階段手摺は別図参照

C展開図

Comments&UpDate History	東京芸術大学施設課				Client/Purchaser		Project		Date
	課長	補佐	係長	係員	東京芸術大学		東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事		2009.09.30
					Architect		Job No.		Scale
					東京芸術大学 美術学部 将来計画準備室 一級建築士 269493 君塚 和香		GAR2		1/50
							Title		Drawing No.
							改修後：階段室展開図		A-12
							Rev./Use		基本設計図

Copyright 2009-2010 Waka Design Room. All Rights Reserved.





※既存開口周りのモルタルはRC壁施工時に一旦ハツリ取り、RC打設後に壁仕上げと同時に補修の上、生石灰クリームt3左官

Copyright 2009-2010 Waka Design Room. All Rights Reserved.

Comments&UpDate History

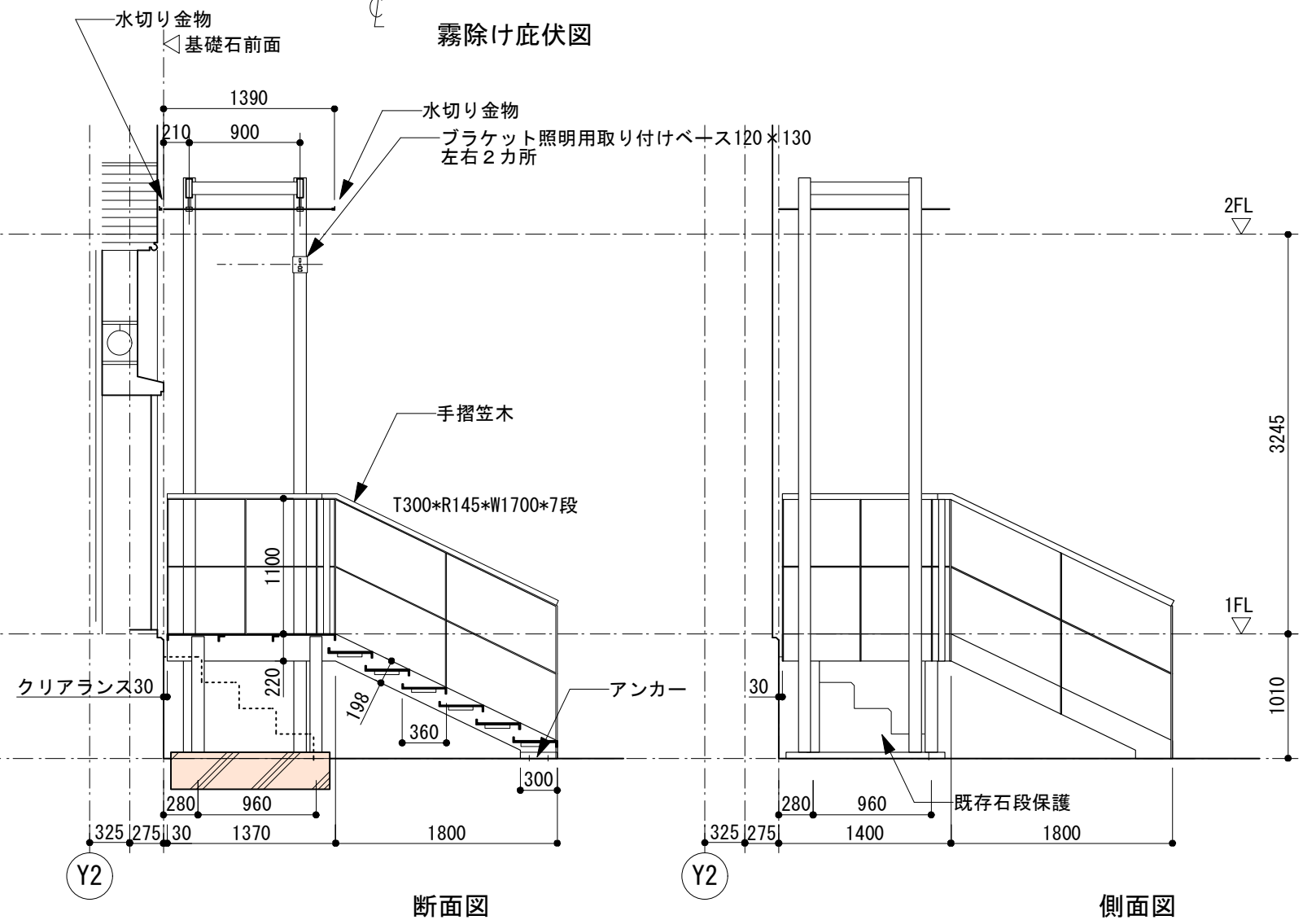
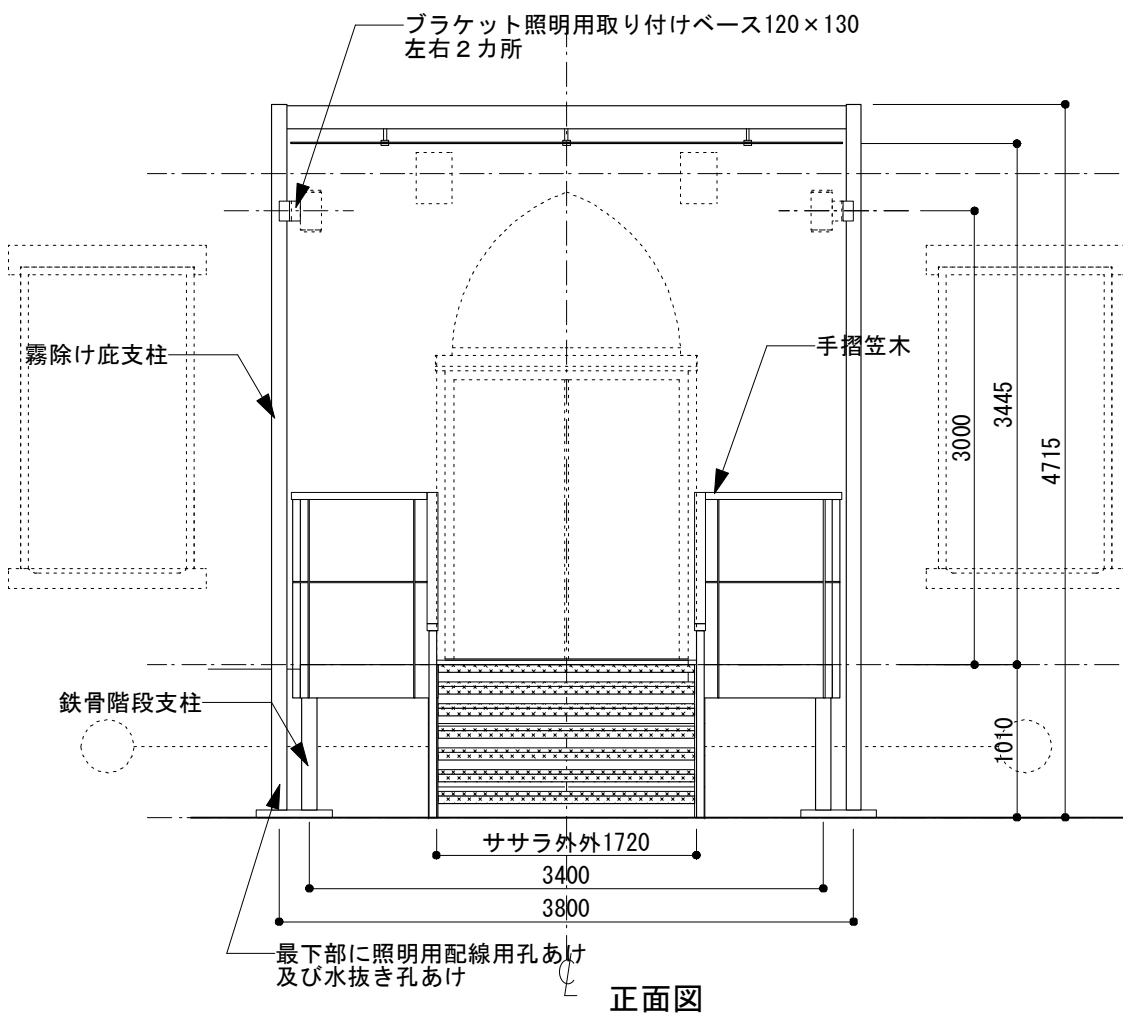
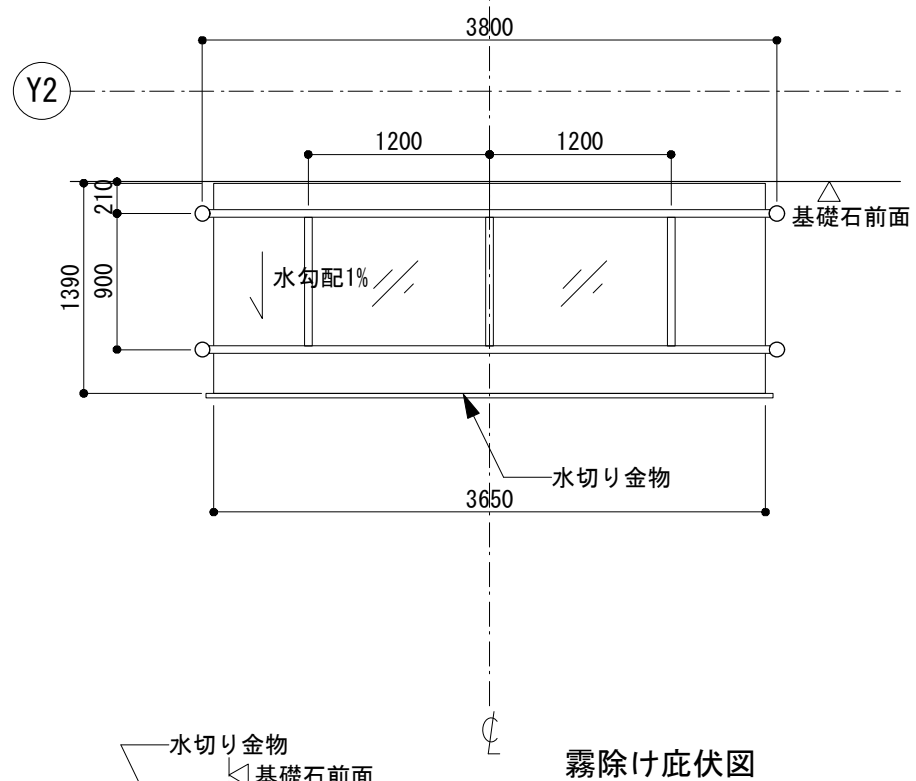
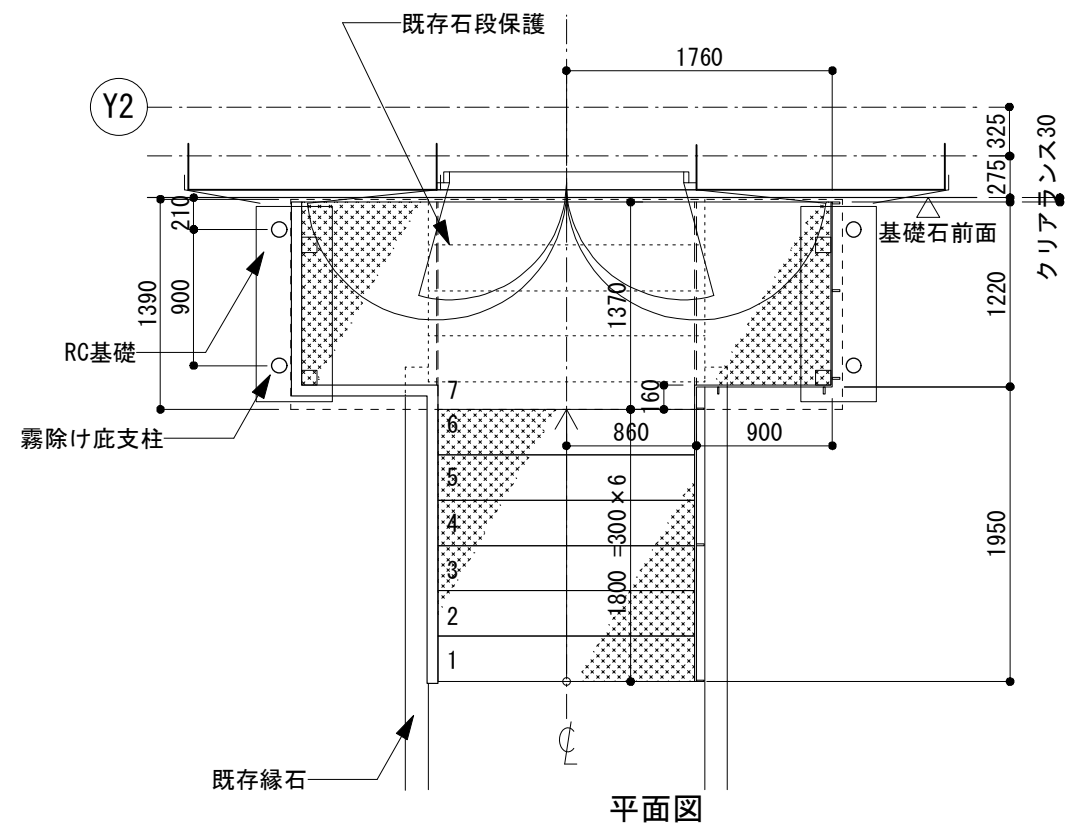
東京芸術大学施設課			
課長	補佐	係長	係員

Client/Purchaser	東京芸術大学
Architect	東京芸術大学 美術学部 将来計画準備室 一級建築士 269493 君塚 和香

Project	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事
Job No.	<b>GAR2</b>
Title	改修後：窓開口部詳細図

Date	2009.09.30
Scale	1/10
Drawing No.	<b>A-14</b>
Rev./Use	基本設計図





仕上げ材料  
 ■鉄骨階段 鋼材は溶接棒とも全てコールテン鋼  
 面材はサンドブラスト仕上げ  
 ササラ: W198、220 t9  
 手摺: FB 9×50  
 床板・段: チェッカープレート  
 W1700×D360+立上がり30+立ち下がり50 t6 曲げ加工  
 支柱: 角パイプ75×75×t4.2  
 床補強: アンクル50×50×t2.3  
 手摺笠木: 70×50 防錆塗装の上ウレタン塗装

■霧除け底 鋼材は全て溶融亜鉛メッキ+指定色ウレタン塗装  
 支柱: 100φ×t3.2  
 梁材: 50×150×t3.2、50×100×t3.2  
 DPG金物: 50φ SUS既製品  
 底板材: 強化ガラス t15 飛散防止フィルム貼り  
 水切り金物: アルミアングル 十手 30×30 接着

特記: 既存の躯体・外構造物とはクリアランスを確保し  
 工事による損傷を与えないように注意のこと

Comments&UpDate History	東京芸術大学施設課				Client/Purchaser	東京芸術大学		Project	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事		Date	2009.09.30
	課長	補佐	係長	係員	東京芸術大学			Scale	1/50		Job No.	GAR2
					東京芸術大学 美術学部 将来計画準備室 一級建築士 269493 君塚 和香			Title	改修後: 外部階段・霧除底詳細図		Architect	A-15
								Rev./Use	基本設計図			

既設

外部仕上表

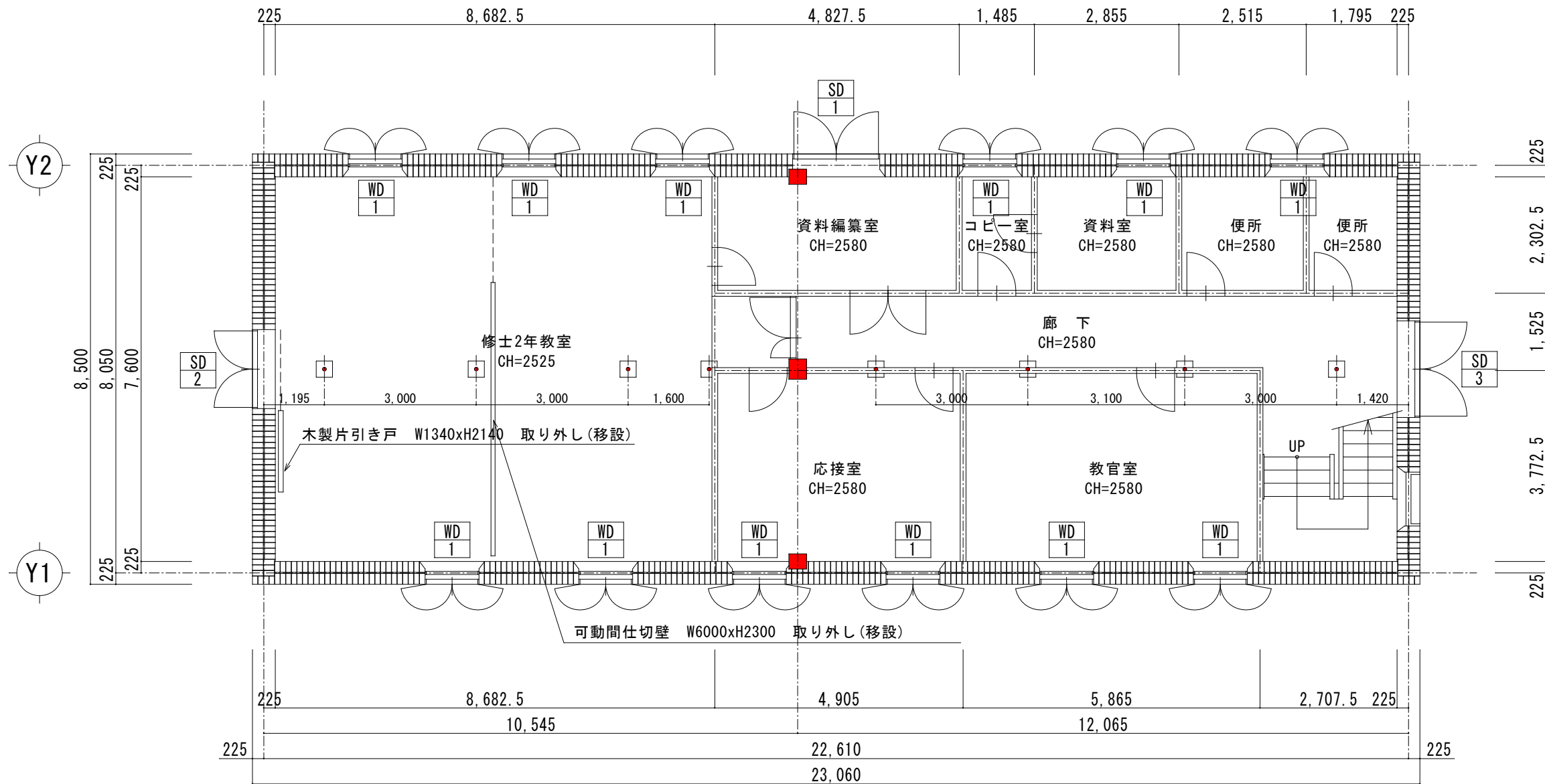
部 位	仕 上
屋 根	瓦葺き
外 壁	レンガ積み (7)450
基 礎	石積み基礎 (7)630
建 具	内部側：木製建具 外部側：スチール建具
軒樋・竪樋	銅製

内部仕上表

階	室 名	床	壁	天 井	備 考
1 階	教官室	木製板張りの上、合板厚4+ビニル床シート厚2.5	外壁部：プラスター塗り 内壁部：PB、EP塗り	化粧石膏ボード CH=2.580	流し台撤去
	応接室	木製板張りの上、合板厚4+ビニル床シート厚2.5	外壁部：プラスター塗り 内壁部：PB、EP塗り	化粧石膏ボード CH=2.580	流し台撤去
	修士2年教室	木製板張りの上、タタミ敷き	外壁部：プラスター塗り 内壁部：PB、EP塗り	化粧石膏ボード CH=2.525	流し台撤去
	資料編纂室	木製板張りの上、合板厚4+ビニル床シート厚2.5	外壁部：プラスター塗り 内壁部：PB、EP塗り	化粧石膏ボード CH=2.580	流し台撤去
	コピー室	木製板張りの上、合板厚4+ビニル床シート厚2.5	外壁部：プラスター塗り 内壁部：PB、EP塗り	化粧石膏ボード CH=2.580	
	資料室	木製板張りの上、合板厚4+ビニル床シート厚2.5	外壁部：プラスター塗り 内壁部：PB、EP塗り	化粧石膏ボード CH=2.580	
	便所（男・女） 廊下	木製板張りの上、合板厚4+ビニル床シート厚2.5 木製板張りの上、合板厚4+ビニル床シート厚2.5	外壁部：プラスター塗り 内壁部：PB、EP塗り PB、EP塗り	化粧石膏ボード 化粧石膏ボード	CH=2.580 CH=2.580
2 階	教官研究室	木製板張りの上、タタミ敷き	外壁部：プラスター塗り 内壁部：PB、EP塗り	化粧石膏ボード CH=2.515	流し台撤去
	博士教室	木製板張りの上、タタミ敷き	外壁部：プラスター塗り 内壁部：PB、EP塗り	化粧石膏ボード CH=2.515	流し台撤去
	踏込	木製板張りの上、木製小幅板張り	PB、EP塗り	化粧石膏ボード CH=2.570	
	廊下	木製板張りの上、木製小幅板張り	外壁部：プラスター塗り 内壁部：PB、EP塗り	化粧石膏ボード CH=2.570	
3 階	教室	木製板張りの上、タタミ敷き	プラスター塗り	木造小屋組表し	流し台撤去
	教室	木製板張りの上、薄縁敷き	プラスター塗り	木造小屋組表し	
	準備室	木製板張りの上、薄縁敷き	プラスター塗り	木造小屋組表し	
共通	階段	木製板張り	外壁部：プラスター塗り 内壁部：PB、EP塗り	木造小屋組表し	

※既存の木製板張りは厚45、壁は木下地石こうボード張り厚12.5、天井は木下地ボード厚9.5とする。  
 内装仕上げ材はすべて撤去し、木製床板・根太・梁、鉄骨柱は再利用する。  
 間仕切り壁に取り付く木製建具はすべて撤去。（図中に建具記号のないもの）  
 W800×H2000 片開き13箇所、 W1300×H2000 親子ドア1箇所、W1300×H2400 親子ドア1箇所  
 W1600×H2000 両開き1箇所、 W2700×H1800 4枚引き戸2箇所

記事	工 事 名 称				Architect	印	業務名 PROJECT 東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺 SCALE
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事							
				課長	補佐	係長	係員	年月日 DATE



木製片引き戸 W1340xH2140 取り外し(移設)

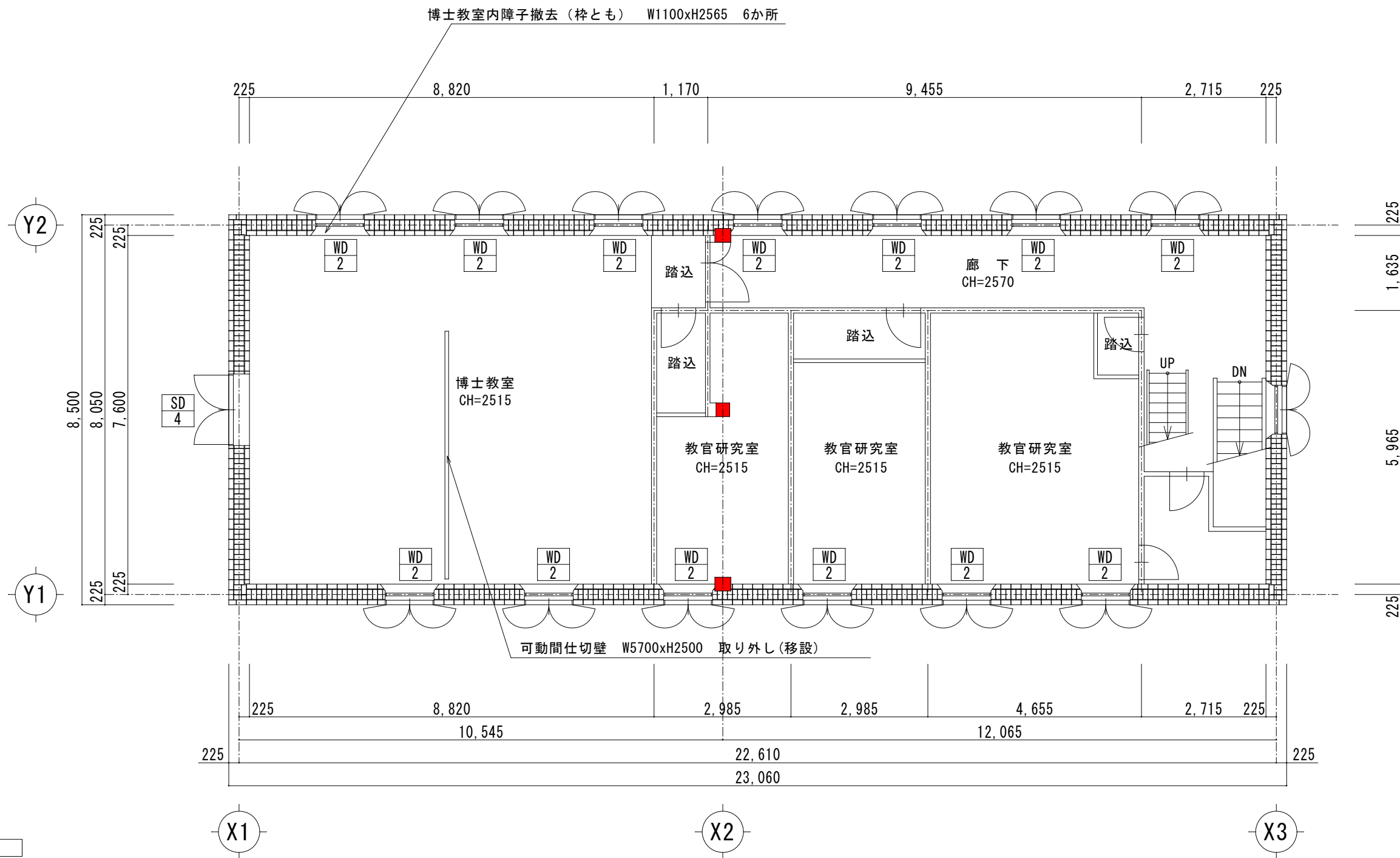
可動間仕切壁 W6000xH2300 取り外し(移設)

建具表 S=1/100

符号	WD1	SD2	SD3
姿図			
W×H	1000×1900	1180×2100	1480×1800
数量	12	1	1
開閉方法	上げ下げ	両開き	両開き
改修内容	建具調整 SOP塗替え 換気扇用アルミ板撤去の上、 ガラス入替えFL3(5か所)	建具調整 ウレタン塗替え シリンダー交換 (ケースロック取替)	建具調整 ウレタン塗替え シリンダー交換 (ケースロック取替)

1階 平面図 S=1/100

記事	建具調整には不良金物取替及び開閉調整を含む	<b>工事名称</b> 東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	東京芸術大学施設課				Architect <b>BANN</b> <b>万 建築設計事務所</b> 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄	業務名 東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務 図名 参考図 既存1階平面図 建具表 年月日 DATE	縮尺 SCALE 1/100
				課長	補佐	係長			係員

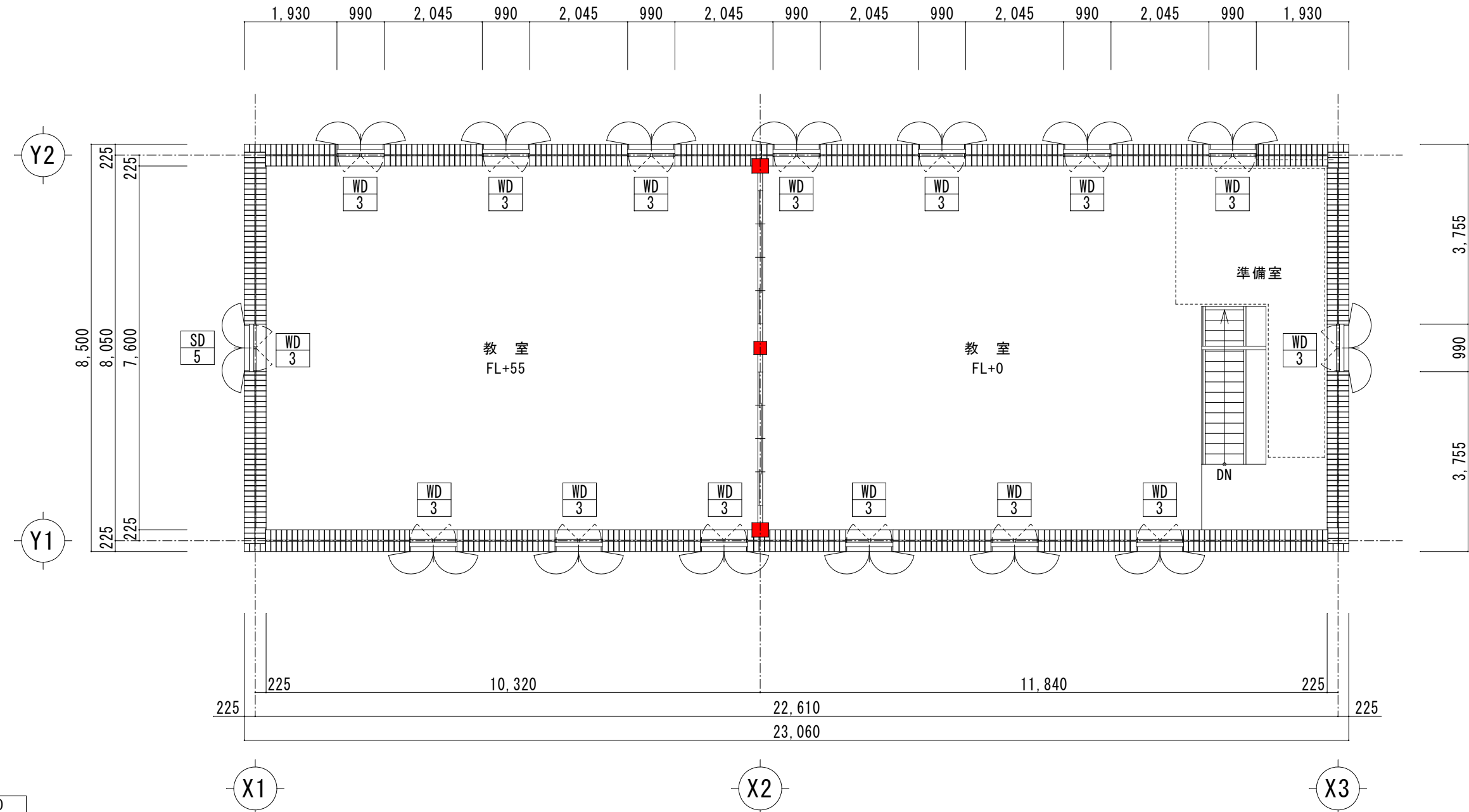


建具表 S=1/100

符号	WD2	SD4
姿図		
W×H	1000×1900	1180×2100
数量	13	1
開閉方法	上げ下げ	両開き
改修内容	建具調整 SOP塗替え 換気扇用アルミ板撤去の上、 ガラス入替えFL3 (2か所)	建具調整 ウレタン塗替え シリンダー交換 (ケースロック取替)

2階平面図 S=1/100

記事	建具調整には不良金物取替及び開閉調整を含む	東京芸術大学 施設課				Architect BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄	印	業務名 PROJECT	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺 SCALE	1/100
		東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長			係員	図名 TITLE	参考図 既存2階平面図 建具表	図番
							年月日 DATE		No.		



3階 平面図 S=1/100

建具表 S=1/100

符号	WD3	SD5
姿図		
W×H	φ1000	φ1100
数量	14	1
開閉方法	両開き	両開き
改修内容	建具調整 SOP塗替え 換気扇用アルミ板撤去の上、 ガラス入替えFL3(1か所)	建具調整 ウレタン塗替え シリンダー交換 (ケースロック取替)

記事  
建具調整には不良金物取替及び開閉調整を含む

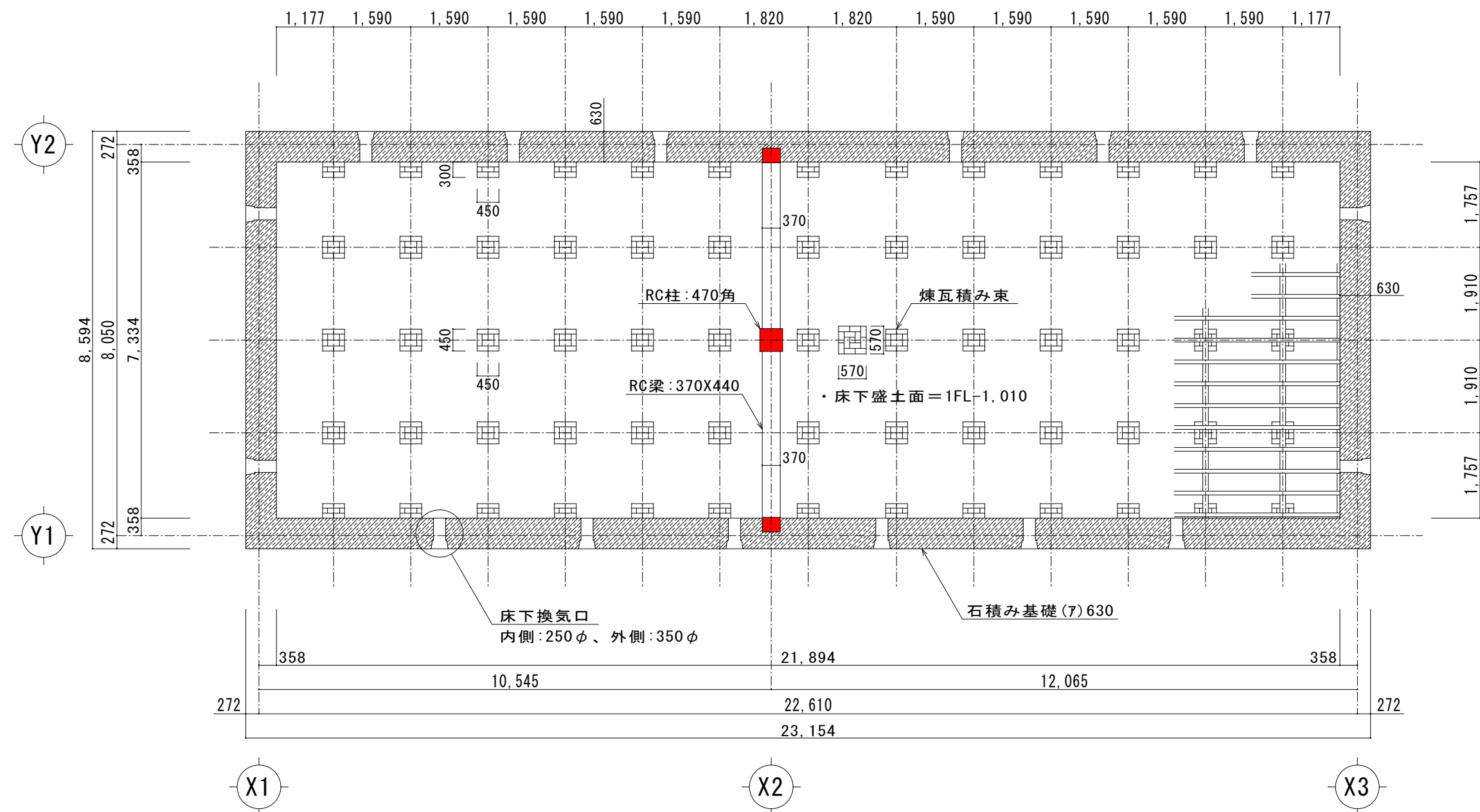
工事名称	東京芸術大学施設課			
	課長	補佐	係長	係員
東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事				

Architect  
BANN  
**万** 建築設計事務所  
一級建築士事務所 登録 20261号  
一級建築士 66587号 木村 秀雄

印

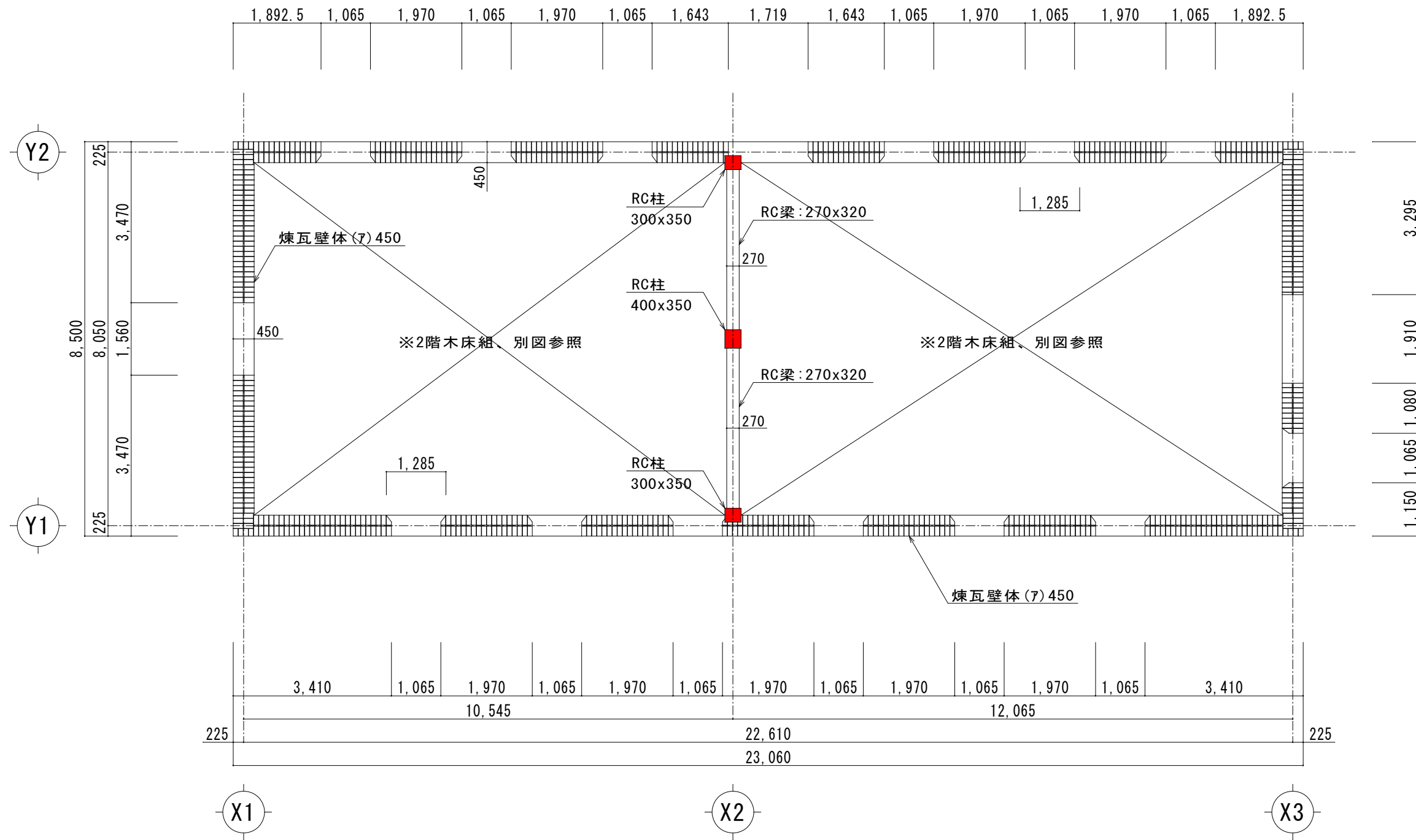
業務名 PROJECT	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務		
図名 TITLE	参考図	既存3階平面図	建具表
年月日 DATE			

縮尺  
SCALE 1/100  
図番  
A-19  
No.



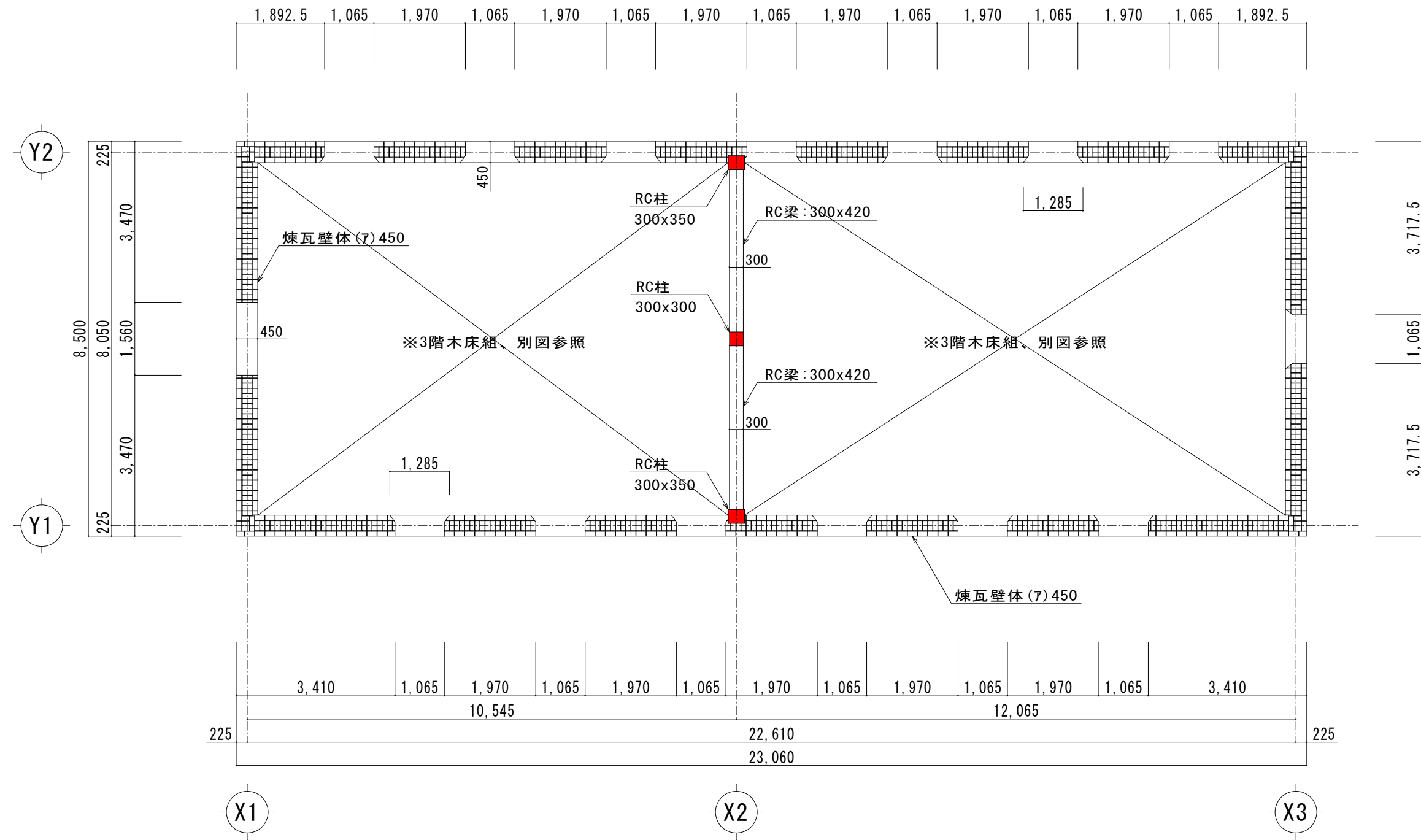
基礎伏図 S=1/100

記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	参考図 既存基礎伏図	図番	A-20
								年月日		No.	



1階 壁伏図 S=1/100 見上げ図

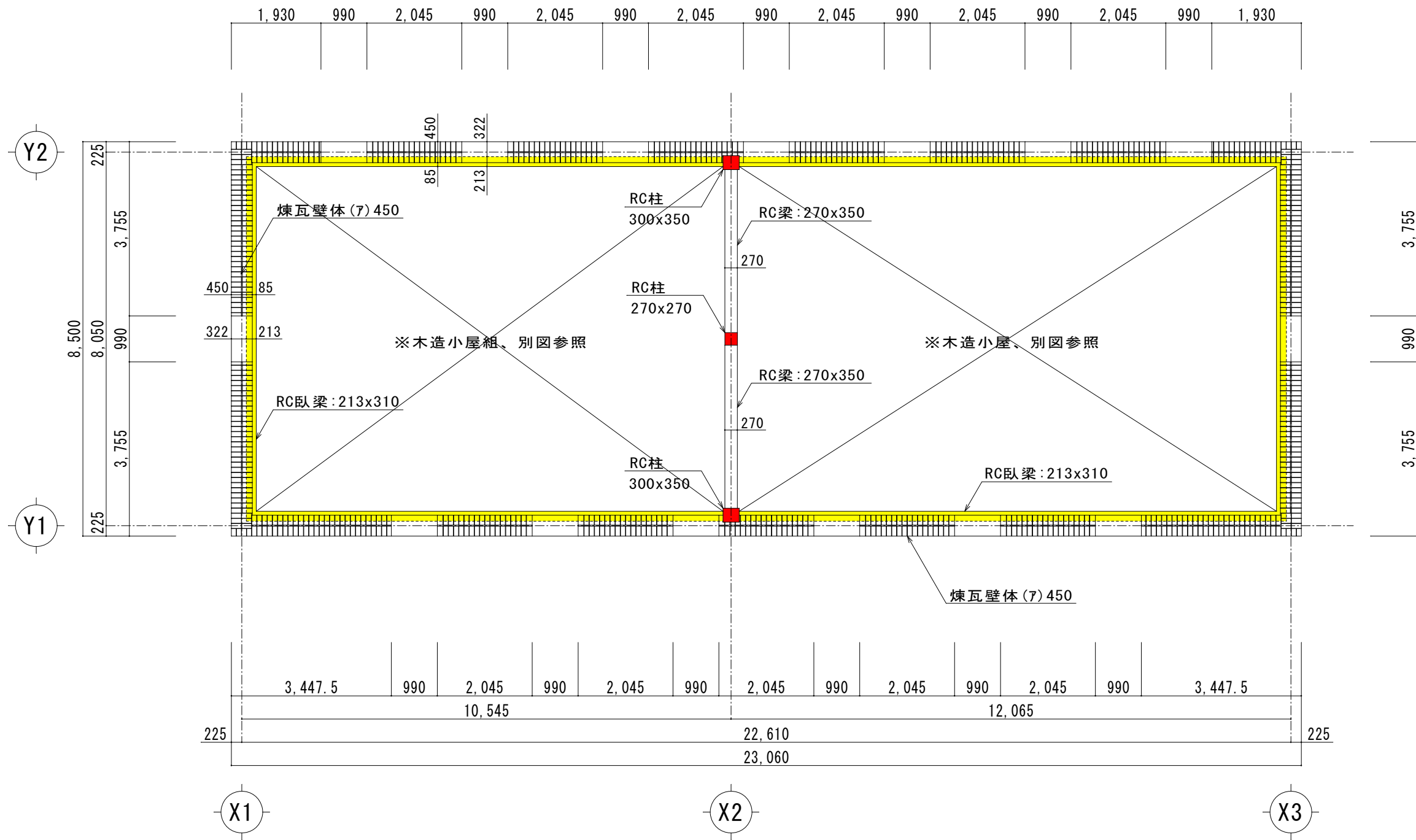
記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	参考図 既存1階壁伏図	図番	A-21
								年月日		No.	
								DATE			



2階 壁伏図 S=1/100 見上げ図

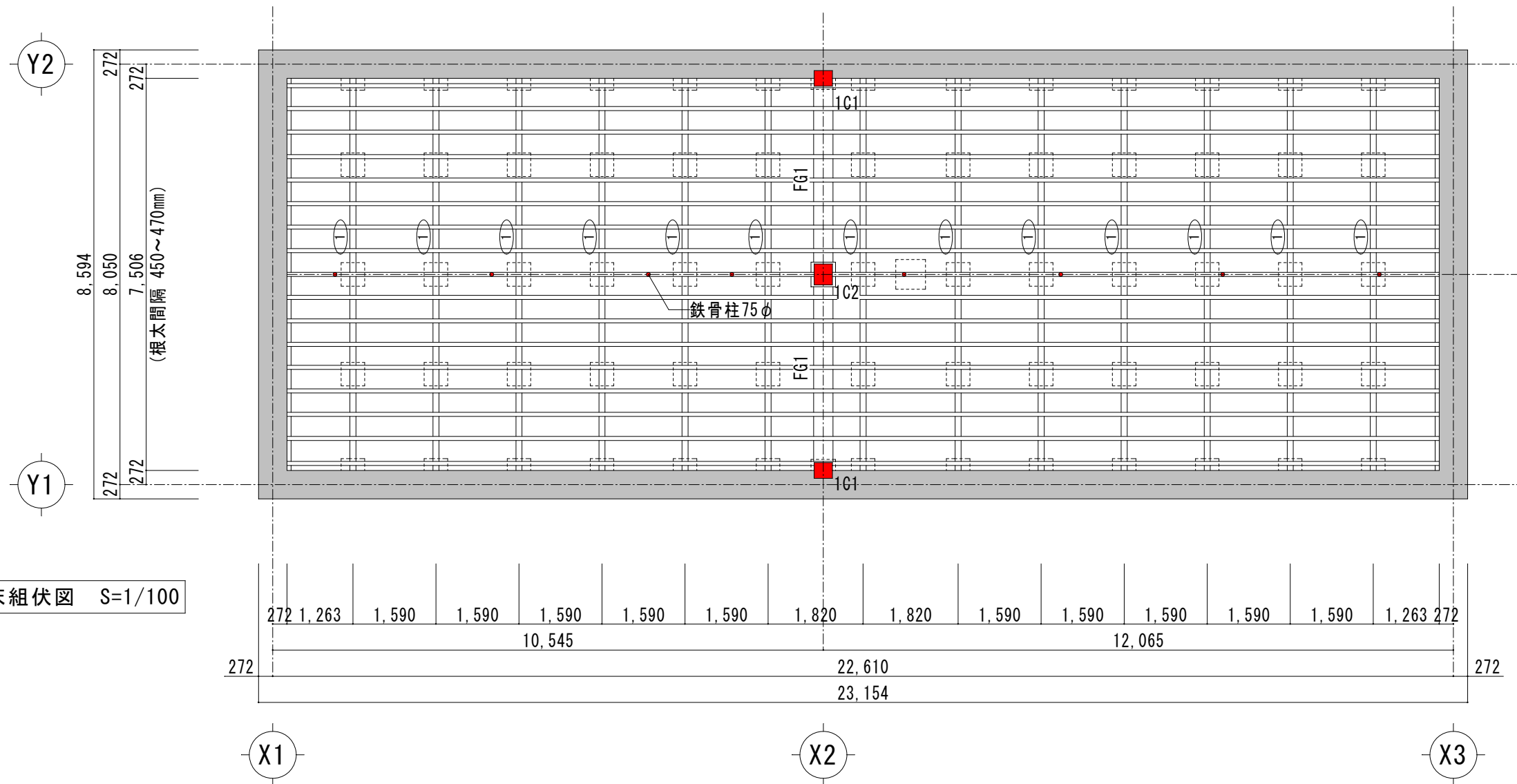
記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	参考図 既存2階壁伏図	図番	A-22
								年月日		No.	
								DATE			





3階 壁伏図 S=1/100 見上げ図

記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	参考図 既存3階壁伏図	図番	A-23
								年月日		No.	
								DATE			



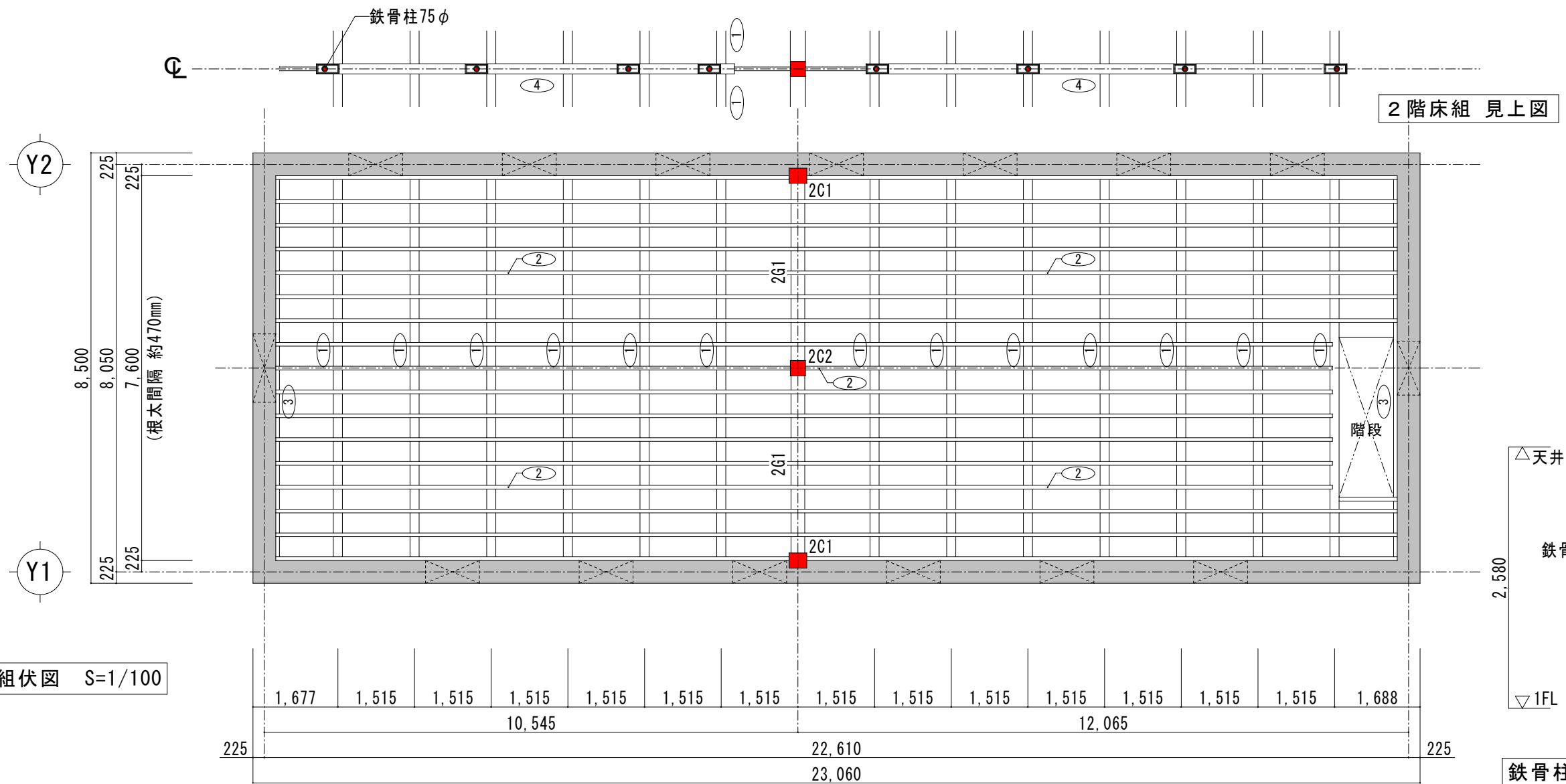
1階床組伏図 S=1/100

1階木造床組 部材リスト

部材番号	1	2
位置	1F床 大引	1F床 根太
部材断面	 115   210	 78   145

1階 RC部材リスト

部材記号	1C1	1C2	FG1	
位置	1F 柱	1F 柱	基礎梁 端部	基礎梁 中央
部材断面		 350   400	 370   540	 370   440



2階床組伏図 S=1/100

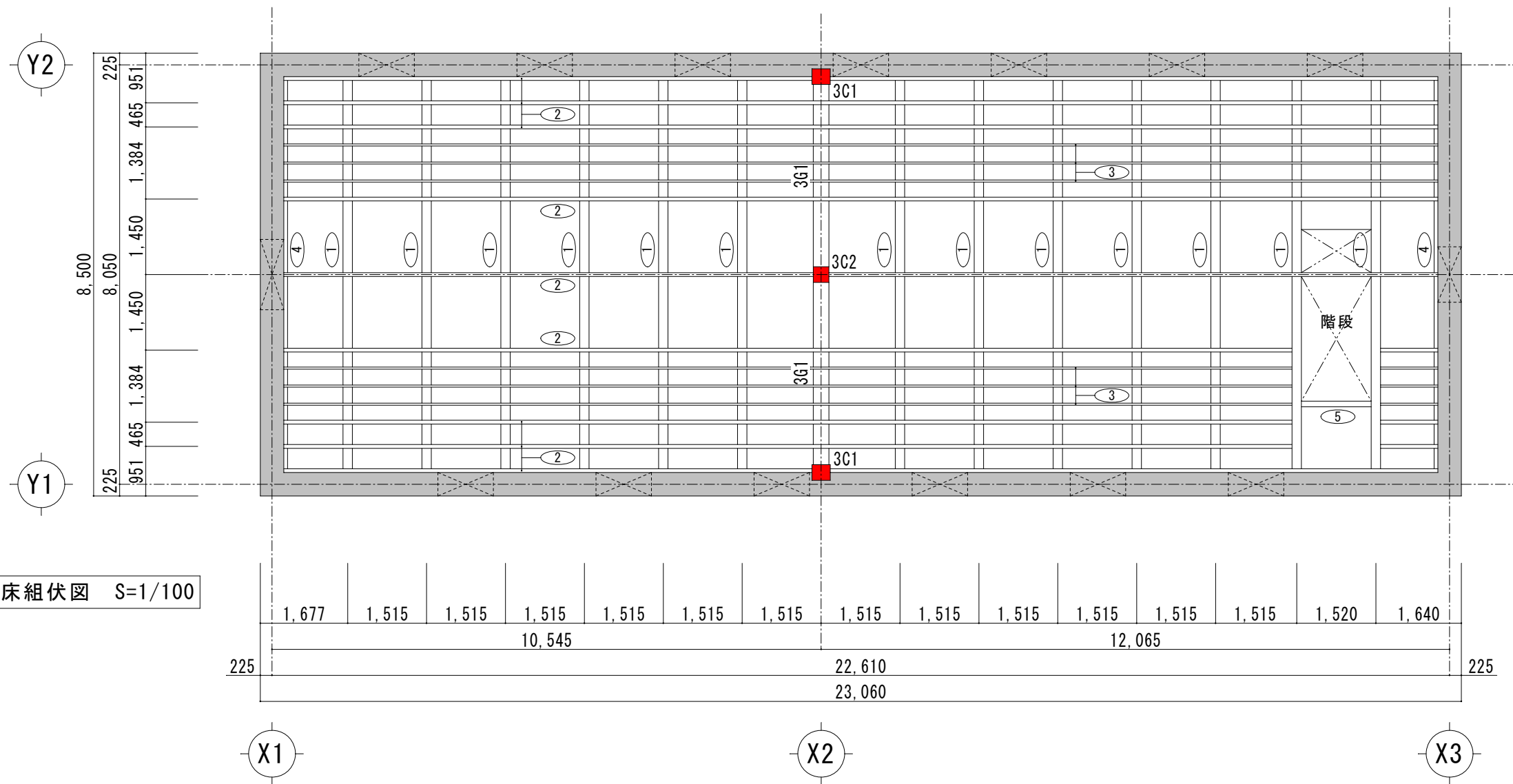
鉄骨柱・梁受け 詳細図

2階木造床組 部材リスト

部材番号	①	②	③	④
位置	2F床梁	2F床根太	2F床根太受け	2F床梁受け
部材断面				
			※幅不明	

2階RC部材リスト

部材記号	2C1	2C2	2G1	
位置	2F柱	2F柱	2F梁端部	2F梁中央
部材断面				

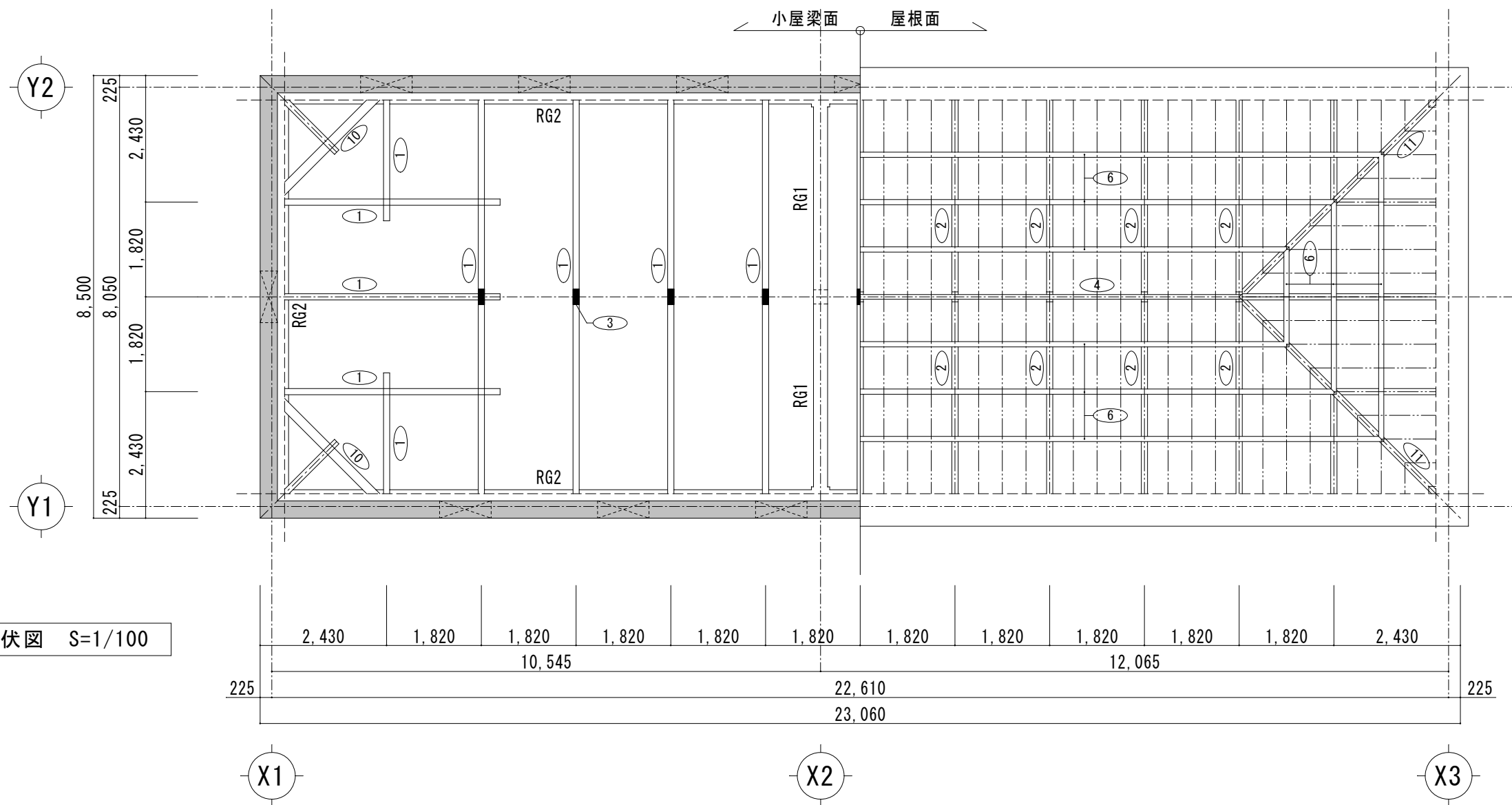


3階木造床組 部材リスト

部材番号	①	②	③	④	⑤
位置	3F床 梁	3F床 根太	3F床 根太	3F床 根太受け	階段受け梁
部材断面					
	180	73	40	※ ※幅不明	108

3階 RC部材リスト

部材記号	3C1	3C2	3G1	
位置	3F 柱	3F 柱	3F梁 端部	3F梁 中央
部材断面				
	350	270	300	300



小屋組伏図 S=1/100

木造小屋組 部材リスト

部材番号	1	2	3	4	6	7	10	11
位置	小屋梁	合掌	真束	棟木	母屋	垂木	火打	隅合掌
部材断面								
	120	120	190	87	103	65	180	120
				※高さ不明				

R階 RC部材リスト

部材記号	RG1		RG2
位置	RF梁 端部	RF梁 中央	RF梁 全断面
部材断面			
	270	270	213

記事

工事名称			
東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事			
課長	補佐	係長	係員

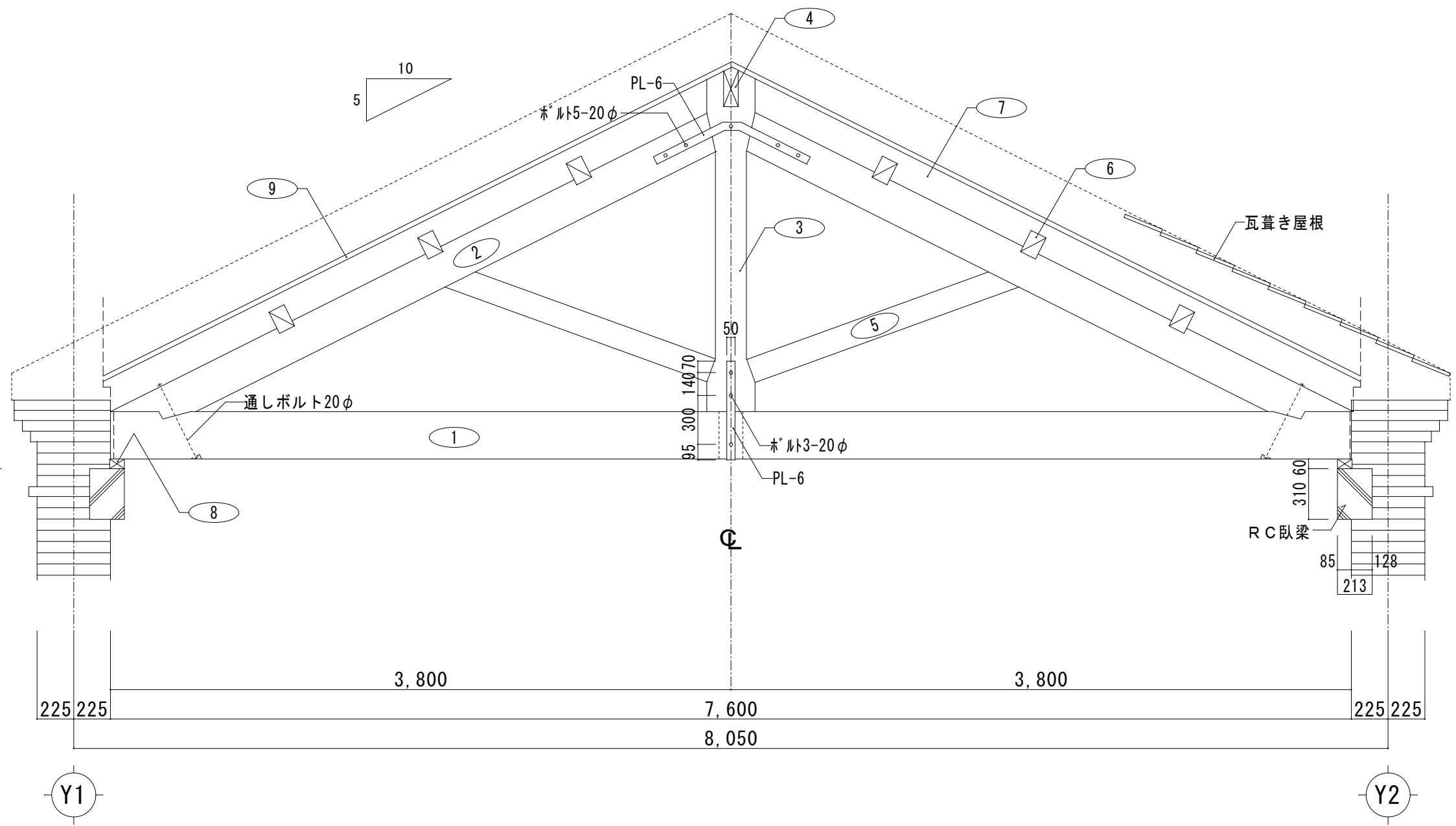
Architect  
 BANN  
**万 建築設計事務所**  
 一級建築士事務所 登録 20261号  
 一級建築士 66587号 木村 秀雄

印

業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務
図名	参考図 既存小屋組伏図
TITLE	
年月日	
DATE	

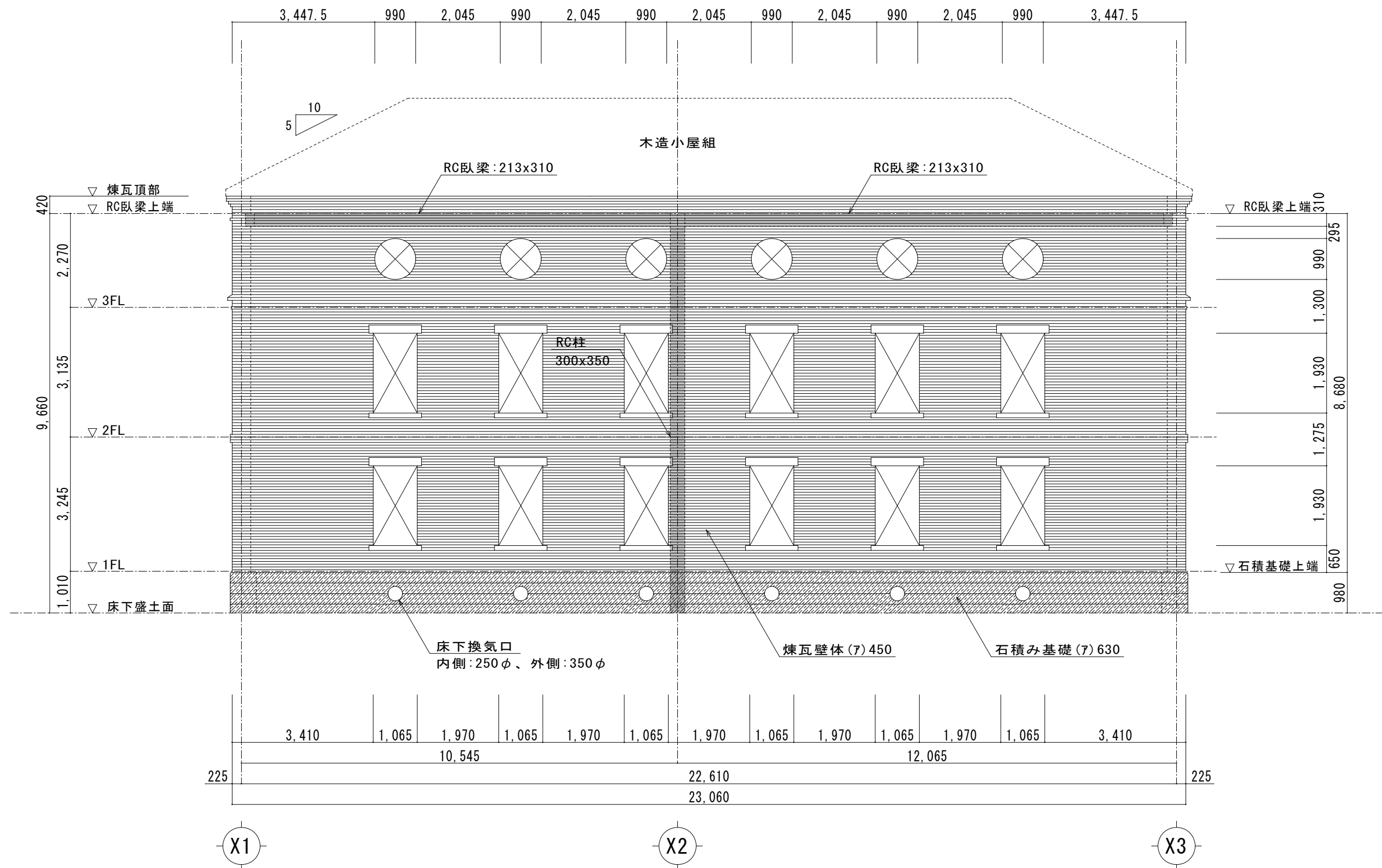
縮尺 1/100  
 SCALE  
 図番  
**A-27**  
 No.

3FLまで 2.270



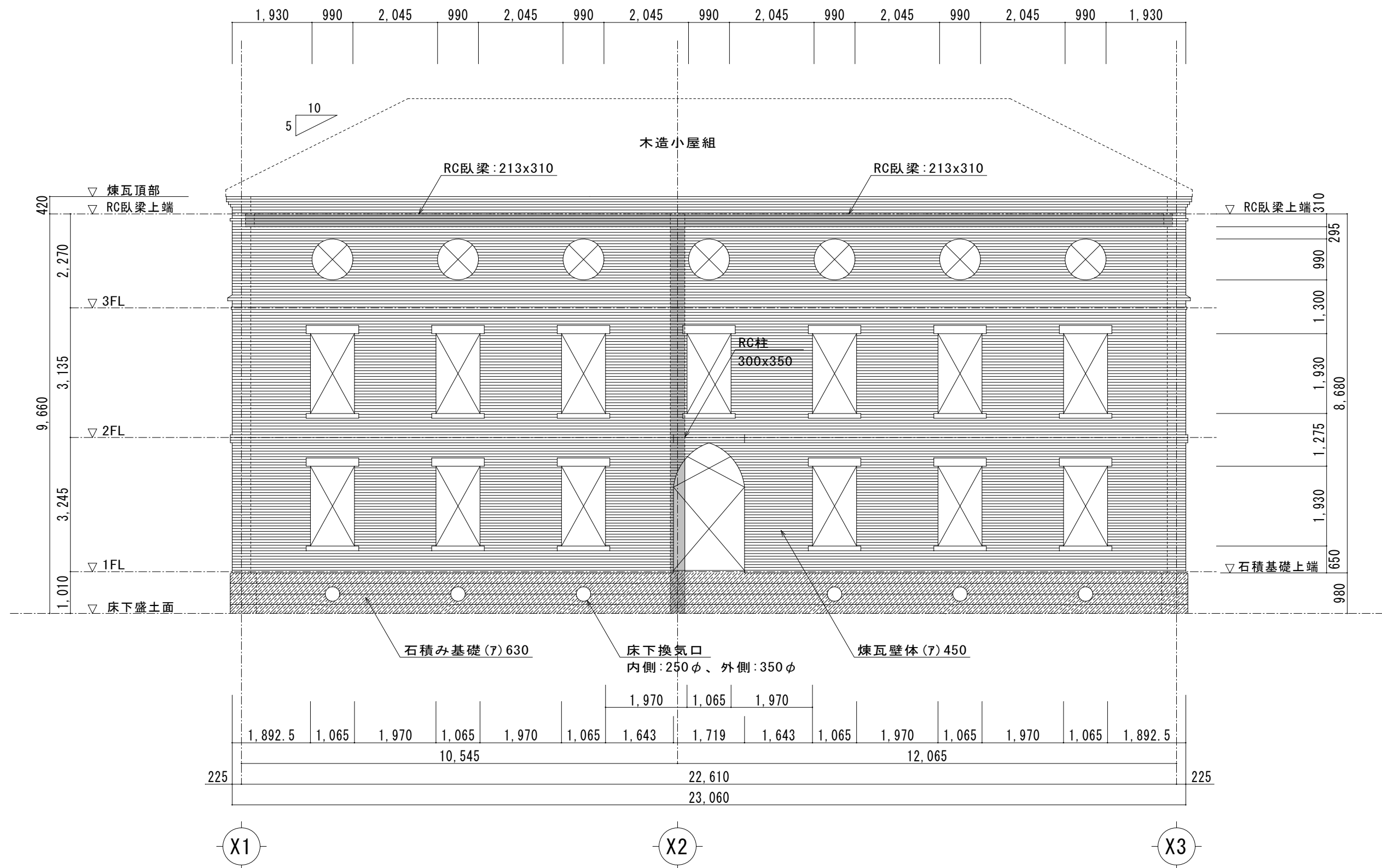
木造小屋組 部材リスト

部材番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
位置	小屋梁	合掌	真束	棟木	方杖	母屋	垂木	敷桁	野地板
部材断面									
				※高さ不明					※厚さ不明



Y1通り 軸組図 S=1/100

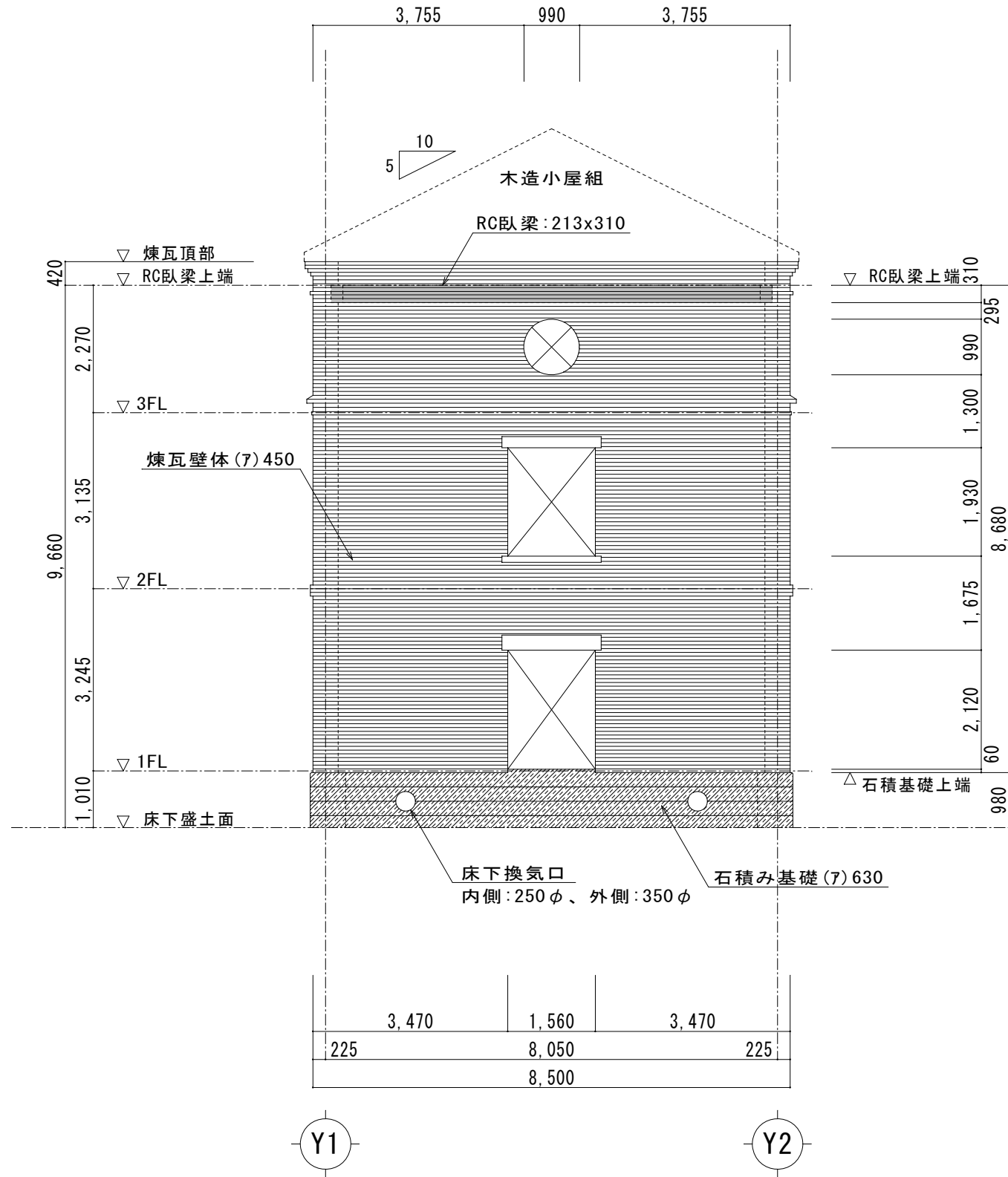
記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	参考図 既存断面図(1)	図番	A-29
								TITLE		No.	
								年月日			
								DATE			



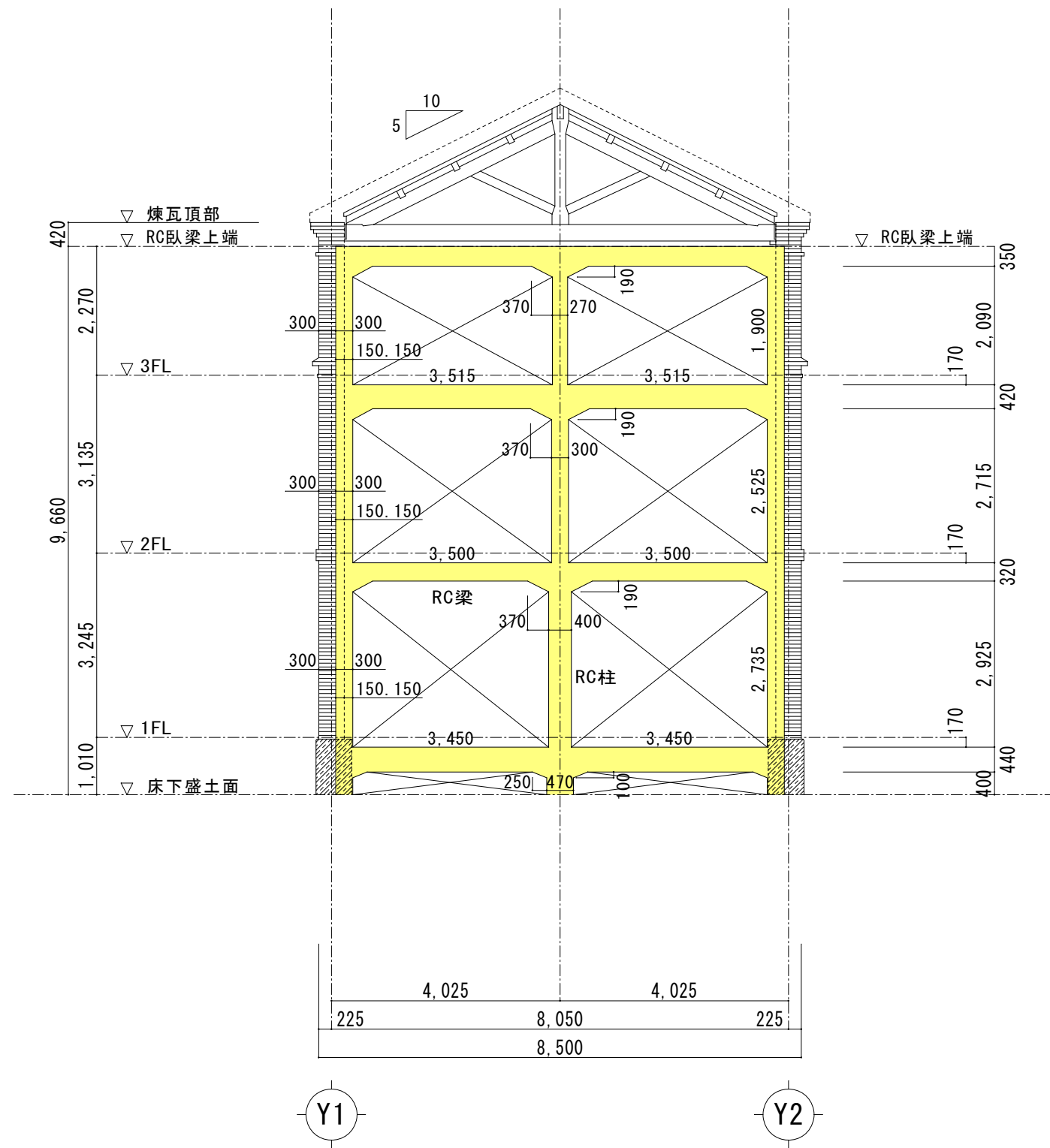
Y2通り 軸組図 S=1/100

記事	工事名称				東京芸術大学施設課		Architect BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄	印	業務名 PROJECT 東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務		縮尺 SCALE 1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事				課長	補佐			係長	係員	図名 TITLE 参考図 既存断面図(2)
								年月日 DATE		No.	



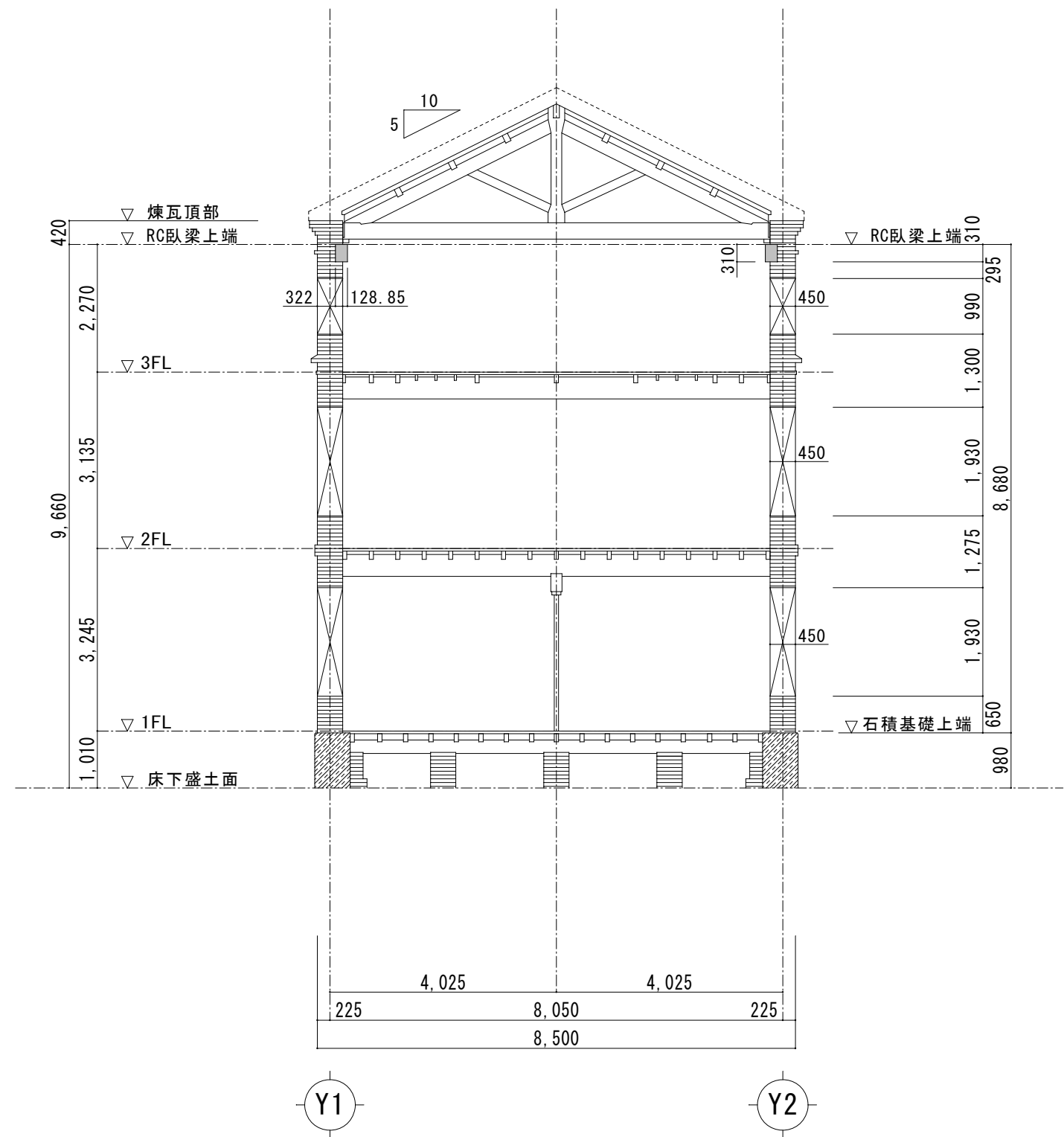
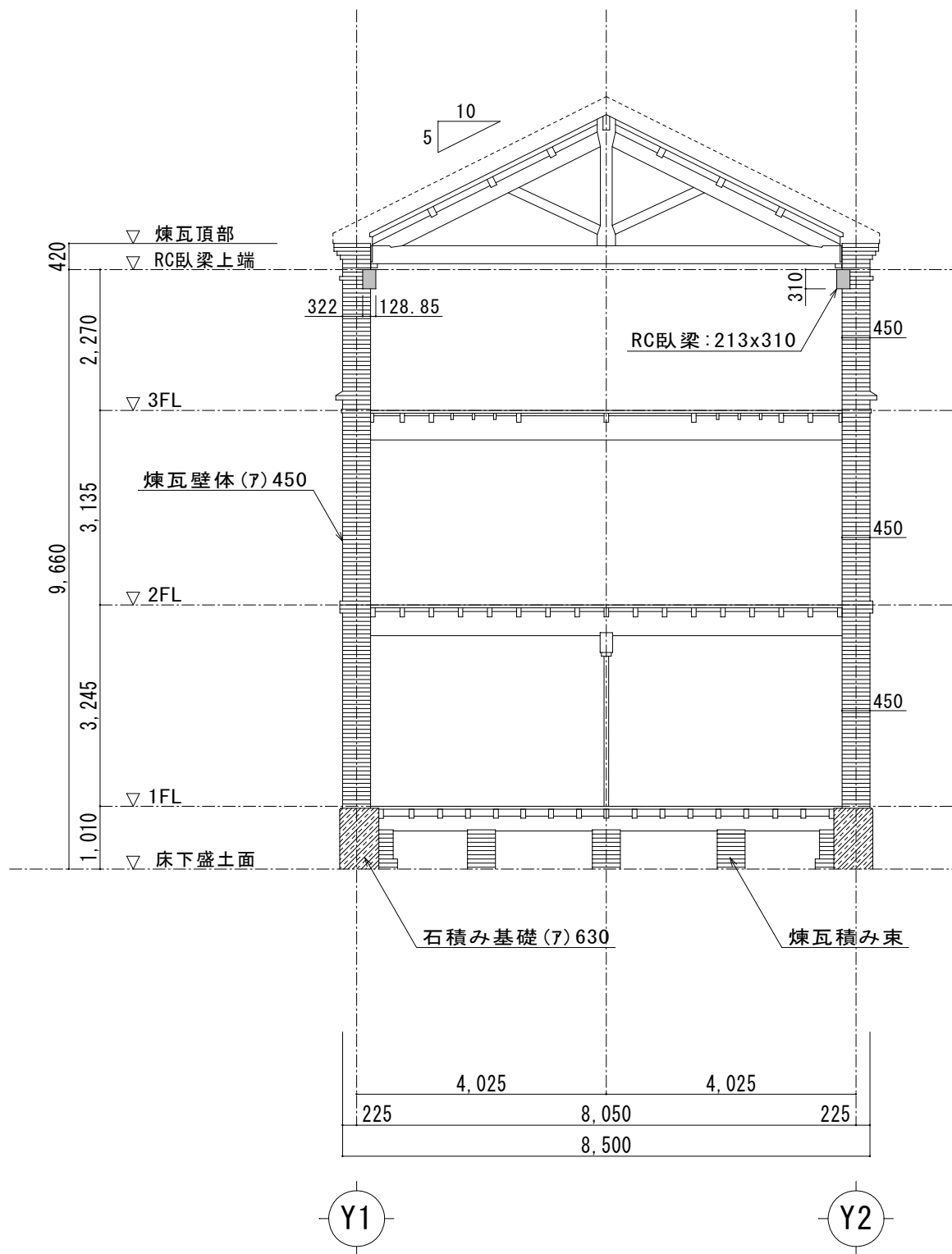


X1通り 軸組図 S=1/100

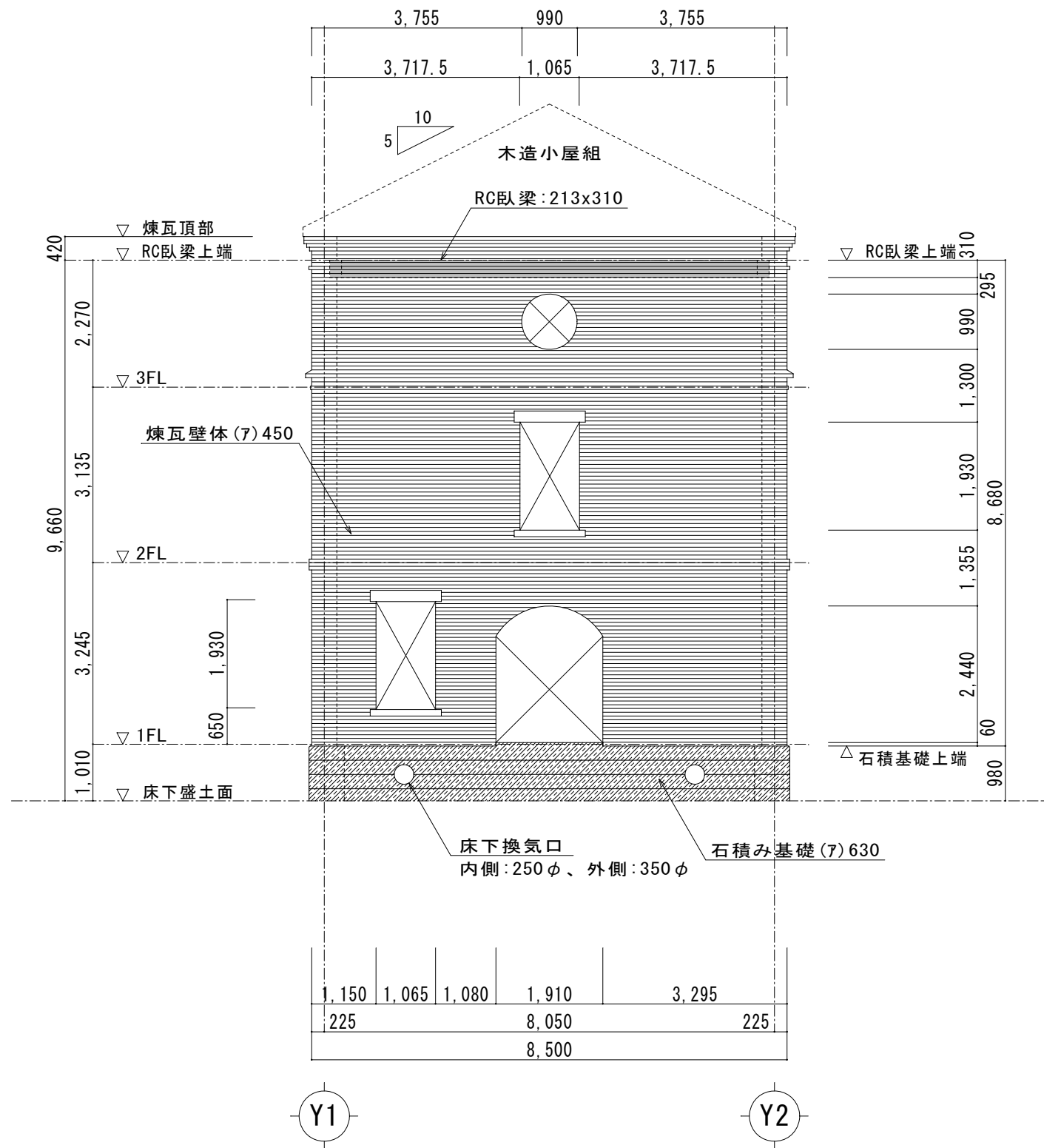


X2通り 軸組図 S=1/100

記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員			図名	参考図 既存断面図(3)	図番	A-31
							年月日		No.		



記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	参考図 既存断面図(4)	図番	A-32
								TITLE		No.	
								年月日			
								DATE			



X3通り 軸組図 S=1/100

記事	工事名称	東京芸術大学 施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	参考図 既存断面図(5)	図番	A-33
								年月日		No.	



南側面（現在の玄関）



西面（公道側）



南西面



南東面



西側中央（出入口）



東側（雨戸開）



西側窓（公道面）



東側中央（建設時の玄関）

		東京芸術大学施設課		課長	補佐	係長	係員
工事名称	東京芸術大学赤レンガ2号館改修工事				平成21年8月		
図面名称	現況写真（外観）（1）	縮尺	NO. SCALE		図面枚数	A-34	



東南外隅（空調屋外機）



1階 南側（玄関）



1階 北側（廊下）



1階 北側（非常口）



1階 北側（アトリエ）



1F～2F 階段室



2階 北側（アトリエ）



2階 北側（アトリエ 水栓回り）

		東京芸術大学施設課		課長	補佐	係長	係員
		工事名称		東京芸術大学赤レンガ2号館改修工事		平成21年8月	
		図面名称		現況写真（内観）（2）	縮尺	NO. SCALE	図面枚数 A-35



2 F ~ 3 F (屋根裏) 階段室



屋根裏 北側 (避難口)



屋根裏 (中央仕切り壁 北面)



屋根裏 (中央仕切り壁 南面)



屋根裏 (南面 階段室)



屋根裏南側 (作業台・吊り板)



屋根裏南西隅面 (階段室 水栓回り)



2階 廊下東側 (避難器具)

		東京芸術大学施設課		課長	補佐	係長	係員
工事名称	東京芸術大学赤レンガ2号館改修工事				平成21年 8月		
図面名称	現況 写真 (内観) (3)	縮尺	NO. SCALE		図面枚数	A-36	



玄関鋼製雨戸  
腐朽部補修、開閉調整、塗装改修

東側玄関正面 雨戸開状況



1、2階、小屋裏 鋼製雨戸：  
腐朽部補修、開閉調整、塗装改修

東側外部 雨戸開状況



雨戸内側 腐朽状況

雨戸：  
腐朽鋼板補修、開閉施錠調整



軒とい・飾り枿：  
とい内清掃、軒とい内落ち葉除け金網取設

軒とい・立てとい 腐朽状況  
立てとい：  
とい脱落部補修、つかみ金物破損部修繕



1階鋼製雨戸：  
腐朽部補修、開閉調整、塗装改修

玄関鋼製雨戸  
腐朽部補修、開閉調整、塗装改修

東側 建設時玄関階段・雨戸  
玄関石階段

取り付け歩道

立てとい：  
とい脱落部補修、つかみ金物破損部修繕



立てとい詰まり壁汚損箇所

1階鋼製雨戸：  
腐朽部補修、開閉調整、塗装改修

1階 雨戸開 状況

鋼製雨戸受け枿：  
雨戸及び受け枿塗装改修



雨戸外側 腐朽状況

雨戸：  
腐朽鋼板補修、開閉施錠調整

鋼製格子：  
鉄部見え掛かり部塗装改修



軒とい・飾り枿：  
とい内清掃、軒とい内落ち葉除け金網取設

東側軒とい・立てとい 腐朽状況

立てとい：  
とい脱落部補修、つかみ金物破損部修繕

注記) 外部鉄部見え掛かり部分(非常階段・スロープ手摺りを除く)は、塗装改修とする。  
外部鋼製雨戸の劣化腐朽箇所は、在来工法又は赤レンガ1号館改修に準じた工法で補修する。  
雨戸金物の不足材は復元製作の上取設、開閉調整を行うものとする。  
軒とい及び飾り枿内部を清掃し腐朽箇所は修繕し軒とい内部に落ち葉が入らない様にとい内に鋼製金網張りとする。

東京芸術大学施設課

課長

補佐

係長

係員

工事名称 東京芸術大学赤レンガ2号館改修工事

平成21年 8月

図面名称 現況写真(外観 建具・とい)(4)

縮尺

NO. SCALE

図面枚数

A-37

# 耐震補強特記仕様書

## 第一章 工事概要

1. 工事件名	東京芸術大学赤レンガ2号館改修工事
2. 工事場所	東京都台東区上野公園12ー8（東京芸術大学構内）
3. 工事計画	本工事は、レンガ組積体（外壁）の室内側に鉄筋コンクリート造の壁を構築して、建物の保有水平耐力を向上させること、レンガ組積体の面外方向への損傷を抑制させることによって、既存建物の耐震性を向上させるものである。本建物は、明治19年(1886年)に東京図書館書籍庫として建造され、数度の改修を経て現在に至っている。当初の設計図面が保存されていないことに加え、その後の改修内容など不明な部分が多く、工事に際しては特に次の点に注意しなければならない。 <ul style="list-style-type: none"><li>a) 既存躯体寸法、補強部材製作寸法は実測による。</li> <li>b) 既存仕上げ材等の撤去に際しては、既存レンガ組積体を傷めないように十分注意する。</li> <li>c) 既存躯体（レンガ）等に著しい劣化・損傷が確認された場合は、監督職員と協議すること。</li></ul>
4. 工事内容	本工事の主な内容は、以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"><li>a) 根切り工事に際して、既存基礎下の地盤を乱さないように既存布基礎の周囲（室内側）に矢板を打ち込む。</li> <li>b) 新たに構築する上部構造を支持するためのベタ基礎（ピット形式）を造る。</li> <li>c) レンガ組積体の室内側、また建物中央部の階段室を鉄筋コンクリート造の壁を立ち上げ、建物内部に新たにRCコアを形成させる。</li> <li>d) 軒レベルにはコア隅部に鋼管の火打ち材を設置する。</li> <li>e) 2，3階床組は、一部、既存の梁（松：180x386）を再利用する。</li></ul>

## 第二章 総 則

1. 摘要範囲	本工事は、設計図及び本仕様書に基づくものとし、これらの記載無き場合は次に定める優先順位の仕様書に拠ることとする。 <ul style="list-style-type: none"><li>a) 本特記仕様書</li> <li>b) 「2001年改訂 既存鉄筋コクリート造建築物の耐震基準 耐震改修設計指針同解説」（国土交通省住宅局建築指導課）</li> <li>c) 「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」平成19年版（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）</li> <li>d) 「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」平成19年版（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）</li> <li>e) これらの図書は、現場常備とする。</li></ul>
2. 疑 義	図面と仕様書の内容に相違があった場合や不明な箇所が生じた場合は、すべて監督職員と協議によるものとする。
3. 材料等の試験	<ul style="list-style-type: none"><li>a) 工事に使用する材料について試験を行うときは、監督職員立ち会いのもとで採取し封印または検印を受ける。</li> <li>b) 各種材料の試験・性能等の確認・試験は公的試験機関を受け、その成績書を監督職員に提出する。</li></ul>

## 第三章 撤去工事

1. 撤去工事の施工内容	<ul style="list-style-type: none"><li>a) 撤去作業に際し、予め事前調査を行い、かつ建物の内外にわたって写真撮影をしておくこと。</li> <li>b) 補強壁等の増設に伴い、これらの増設部材が設置される構面の既存仕上げ・躯体、1，2，3階の木造床組や間仕切り壁を撤去する。</li></ul>
2. 撤去工事における注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>a) コンクリート柱・梁及びしっくい仕上げを撤去する場合には、既存のレンガ組積体に損傷を与えないように充分注意する。</li> <li>b) 既存仕上げ撤去後に躯体（レンガ組積体）状態を確認して、補修が必要と認められる場合は、監督職員と協議すること。</li> <li>c) 各階床組み（木造）の撤去に際しては、外壁レンガ組積体の安全性に配慮して施工手順、必要に応じて仮設サポートを計画する。</li></ul>

<p>第四章 コンクリート工事</p> <p>1. 材 料</p> （1）使用材料 <ul style="list-style-type: none"><li>a) 普通コンクリート <ul style="list-style-type: none"><li>1) 設計基準強度と使用部位は次表の通りとする。</li></ul></li></ul> <table border="1"> <tbody><tr> <td>設計基準強度（N/mm<sup>2</sup>）</td> <td>使用部位</td></tr> <tr> <td>24</td> <td>RC補強壁、床スラブ、ベタ基礎</td></tr> <tr> <td>18</td> <td>捨てコンクリート</td></tr> </tbody></table> <ul style="list-style-type: none"><li>2) 水セメント比 65%以下、単位水量 185kg／m<sup>3</sup> 以下 単位セメント量 300kg／m<sup>3</sup> 以上</li> <li>3) レディミキストコンクリートは、JIS A 5308に規定する規格品を使用する。なお、セメントは、ポゾライトセメント（JIS R5210）を用いるものとする。</li> <li>4) 流動化混和材を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。</li> <li>5) 粗骨材の最大寸法 20mm 以下</li> <li>6) スラブ 18 ± 2.5cm （但し、捨てコンクリートは 15cm±2.5cm） 空 気 量 4.5 ± 1.5% 塩 化 物 0.3kg／m<sup>3</sup> 以下</li> <li>7) 型枠 型枠は、打放し用複合針葉樹を使用する。</li></ul> <p>（2）試験・確認等</p> <p>施工者の責任において、試験体を作製し圧縮試験の確認を行う。試験体はJIS A 1132に準じ材令28日3本を、施工1日毎に作製する。試験は、JIS A 1108に準じ公的機関にて行う。試験を行う機関は、監督職員の承諾を受けること。</p>	設計基準強度（N/mm <sup>2</sup> ）	使用部位	24	RC補強壁、床スラブ、ベタ基礎	18	捨てコンクリート							
設計基準強度（N/mm <sup>2</sup> ）	使用部位												
24	RC補強壁、床スラブ、ベタ基礎												
18	捨てコンクリート												
<p>第五章 鉄筋工事</p> <p>1. 鉄筋</p> <p>鉄筋は、JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に規定する規格品を用いる。鉄筋の種類と使用箇所は次表の通りとする。</p> <table border="1"> <tbody><tr> <td>種 類</td> <td>径</td> <td>使用箇所</td></tr> <tr> <td>SD295A</td> <td>D16以下</td> <td>図示による</td></tr> <tr> <td>SD345</td> <td>D19以上</td> <td>図示による</td></tr> </tbody></table> <p>2. 鉄筋の継手</p> <p>鉄筋の継手は、D16以下は重ね継手、D19以上はガス圧接による。圧接作業は、JIS Z 3811による資格を有する者および日本溶接協会等の認定した溶接工が行う。</p>	種 類	径	使用箇所	SD295A	D16以下	図示による	SD345	D19以上	図示による				
種 類	径	使用箇所											
SD295A	D16以下	図示による											
SD345	D19以上	図示による											
<p>第六章 接着系アンカー工事</p> <p>1. アンカー</p> （1）アンカー <p>接合筋は、JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に規定されている、熱間圧延異形棒鋼 SD295A、SD345 規格品、全ねじボルトは JIS B 0205（メトル並目ねじ）SS400とする。頭部はネジ切り加工し、ナット取り付けのこと。また、ナットからネジ山を三山以上確保する。</p> <p>アンカーは、軒部の既存RC臥梁にカブセルガラス管型樹脂アンカー（ポリエステル系又はアクリル系）、既存レンガ組積体に注入型樹脂アンカー（2液注入方式）を用いる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>カブセルガラス管型樹脂アンカーは、（社）日本建築あと施工アンカー協会の接着系あと施工アンカー品質性能判定表の性能を満足する製品とする。</li> <li>施工は、工事内容に相应した施工の指導を行う施工管理技術者及び施工に関する十分な経験と技能を有する技能者により実施する。施工管理者及び施工技能者は、（社）日本建築あと施工アンカー協会（JCAA）が実施する資格を有するものとする。</li> <li>アンカー打設前に孔内を清掃する。</li> <li>アンカー用穴の深さを確認する。</li> <li>アンカー打設後、24時間以内は振動、衝撃等加えない様にする。</li> <li>タメ穴は樹脂モルタル等により、穴埋め補強をする。</li></ul> <p>*標準外穿孔（最大30°以内）は原則行わない。</p> <p>（2）試験・確認等</p> <p>使用材料の内、次のものは施工業者の責任において工事検査・試験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>a) カブセルガラス管型樹脂アンカー <ul style="list-style-type: none"><li>・全数打音確認</li> <li>・引張試験 計4箇所（既存RC臥梁）</li></ul></li> <li>b) 注入型樹脂アンカー（2液注入方式） <ul style="list-style-type: none"><li>・全数打音確認</li> <li>・引張試験 計12箇所（既存レンガ組積体 各階4箇所）</li></ul></li></ul> <p>引張試験に際しての確認張力は以下による。</p> <table border="1"> <tbody><tr> <td>アンカータイプ</td> <td>接合筋</td> <td>確認張力（kN）</td> <td>備考</td></tr> <tr> <td>カブセルガラス管型樹脂アンカー</td> <td>D16</td> <td>39</td> <td></td></tr> <tr> <td>注入型樹脂アンカー</td> <td>D13</td> <td>25</td> <td></td></tr> </tbody></table>	アンカータイプ	接合筋	確認張力（kN）	備考	カブセルガラス管型樹脂アンカー	D16	39		注入型樹脂アンカー	D13	25		
アンカータイプ	接合筋	確認張力（kN）	備考										
カブセルガラス管型樹脂アンカー	D16	39											
注入型樹脂アンカー	D13	25											

<ul style="list-style-type: none"><li>c) アンカーの埋め込み深さと定着長さは、図示による。</li> <li>d) 注水しながら穴開け作業を行う場合は、作業終了後穴の中のコンクリートが十分乾燥するように熱風送気するなどの措置を講ずる。</li> <li>e) 作業途中で中止した穴については、充填モルタルまたは、充填用樹脂接着剤を用いて充填補修を行う。</li> <li>f) 樹脂接着アンカー部の穴開け用ドリルは、JIS C 9605(携帯用電気ドリル)に規定するものを用いて、穴の周辺の躯体に損傷を与えないものでなければならない。レンガ組積体への穿孔は特に注意が必要で、レンガ部に関してはコアドリルを使用する。</li></ul>	
---	--

## 第七章 鉄骨工事

1. 材 料	本項は軒部の火打ち補強（鉄骨）に関して定めるもので、使用材料は下記による。 <ul style="list-style-type: none"><li>a) 鉄骨 <p>鋼材は、JIS G 3136に規定されている SN400B 規格品とする。火打ち材（鋼管）は STKN400 とする。</p></li> <li>b) アンカーボルト <p>鋼種は、JIS G 3101に規定されている SS400 規格品とする。</p></li> <li>c) 錆止め塗装 <p>錆止め塗装は、JISK5622(塩丹さび止めペイント)工場2回塗りとする。</p></li></ul>
2. 施工内容	<ul style="list-style-type: none"><li>a) 新設RC臥梁内に火打ち材のエンドプレート接合用のアンカーボルトをセットする。</li> <li>b) 鉄骨の加工組立（工場で行う）</li> <li>c) 鉄骨建て方</li> <li>d) 樹脂モルタル注入（新設RC臥梁とエンドプレートとの隙間）</li></ul>
3. 施工上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>a) 鉄骨の加工に先立ち、工作図及び原寸図を作成し、承諾を受ける。</li> <li>b) 鉄骨の製作工場は下記以上とし、監督職員の承諾を受けること。 <ul style="list-style-type: none"><li>・社団法人 全国鉄構工業協会 ：Mグレード以上</li> <li>・株式会社 日本鉄骨評価センター ：Mグレード以上</li> <li>・東京都鉄骨加工工場登録制度 ：分類T 1</li></ul></li> <li>c) 樹脂モルタル注入後、硬化するまでの間は火打ち材に付加外力を与えないように養生する。</li></ul>


## 第八章 鉄筋コンクリート工事

1. 材 料	第四～第六章に準じる。
2. 施工内容	<ul style="list-style-type: none"><li>a) 既存躯体の実測とスミ出し</li> <li>b) 既存レンガ壁側面にアンカー孔を施し樹脂接着系アンカー設置後、接合筋を定着</li> <li>c) 鉄筋の加工及び組立</li> <li>d) 清掃及び水湿</li> <li>e) 型枠組立</li> <li>f) コンクリート打設</li> <li>g) コンクリート養生</li> <li>h) 型枠撤去及び清掃 <ul style="list-style-type: none"><li>コンクリート打設前には粉塵、はつりガラ等を清掃し数日前から水湿めを行う。</li></ul></li> <li>i) 圧縮試験</li></ul>
3. 施工上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>a) 型枠等の加工にさきがけて、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確実になるよう十分な注意を払う。</li> <li>b) コンクリートの打設は、パンプレータ等を用いて密実なコンクリートとする。</li> <li>c) コンクリート強度の発現中（7日間程度）は、十分な湿潤養生を行う。また、養生期間中は振動等を与えないように注意する。</li> <li>d) 膨張性混和材については、用いてよいものとし、材料・配合量については監督職員と協議の上決定する。</li> <li>e) 1階床面及び階段室床面で15mm、壁仕上げ面で20mmのコンクリート増打ちを行う。</li> <li>f) レンガ壁に接する片面型枠は、側圧に対する型枠の検討、必要に応じて仮設計画を行うこと。</li></ul>

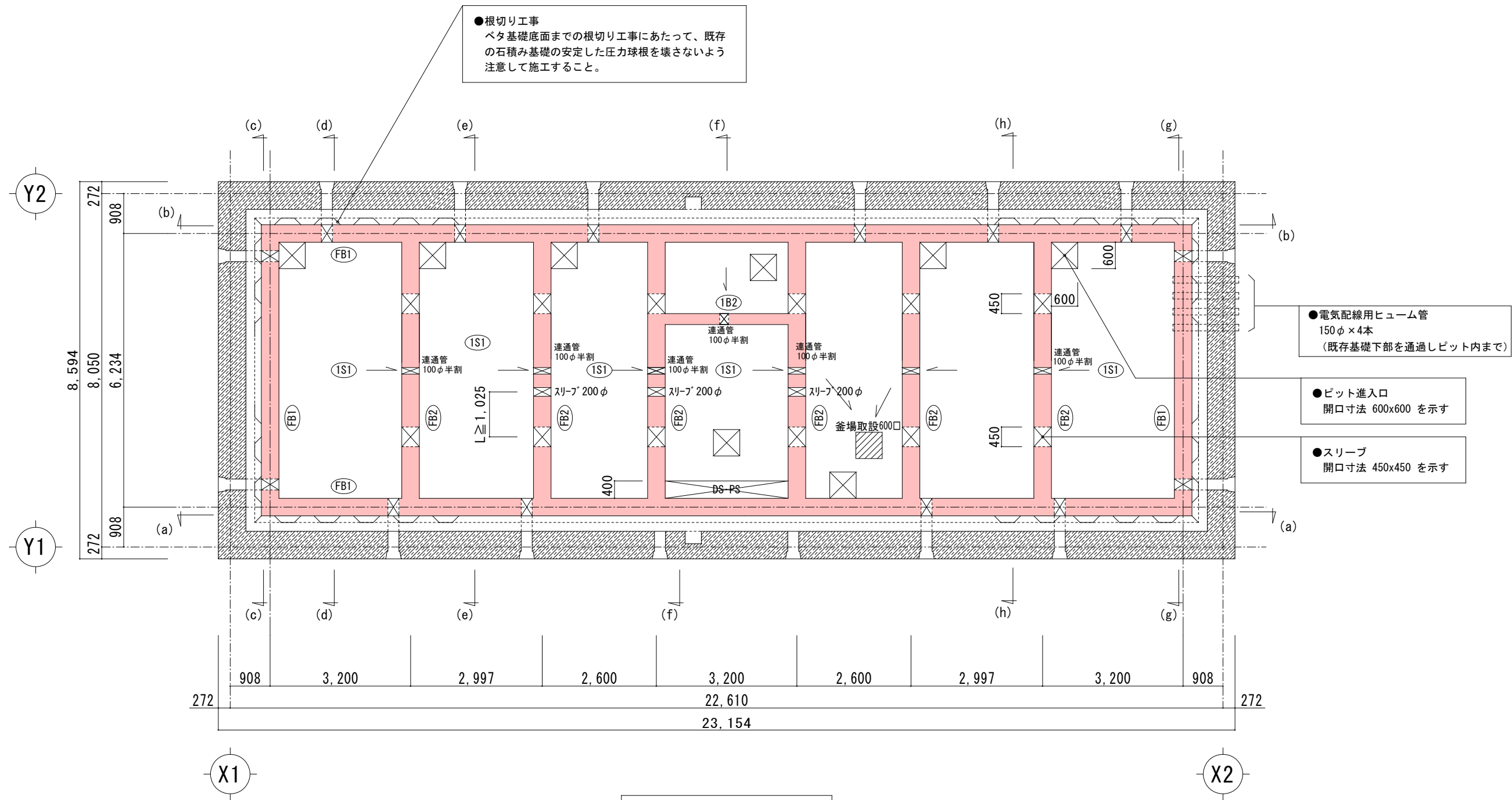
## 第九章 木工事

1. 材 料	<ul style="list-style-type: none"><li>a) 樹種 <p>新設する火打ち材・根太受け・転び止め・根太は、原則、松を使用する。</p></li> <li>b) アンカーボルト <p>鋼種は、JIS G 3101に規定されている SS400 規格品とする。</p></li> <li>c) 接合ボルト <p>大梁と火打ち材との接合は普通ボルトを使用する。</p></li></ul>
2. 施工内容	<ul style="list-style-type: none"><li>a) 補強RC架構を構築後、躯体の実測とスミ出しを行う。</li> <li>b) 再利用する木梁(180x386)は、適切な材長となるように端部を切除する。また、根太と上端をそろえる場合(3階床)は、受材に20mm以上大入れ、釘打ちとする。これに伴う、再利用梁の加工を施す。</li></ul>

記事	
_____	
_____	
_____	
_____	

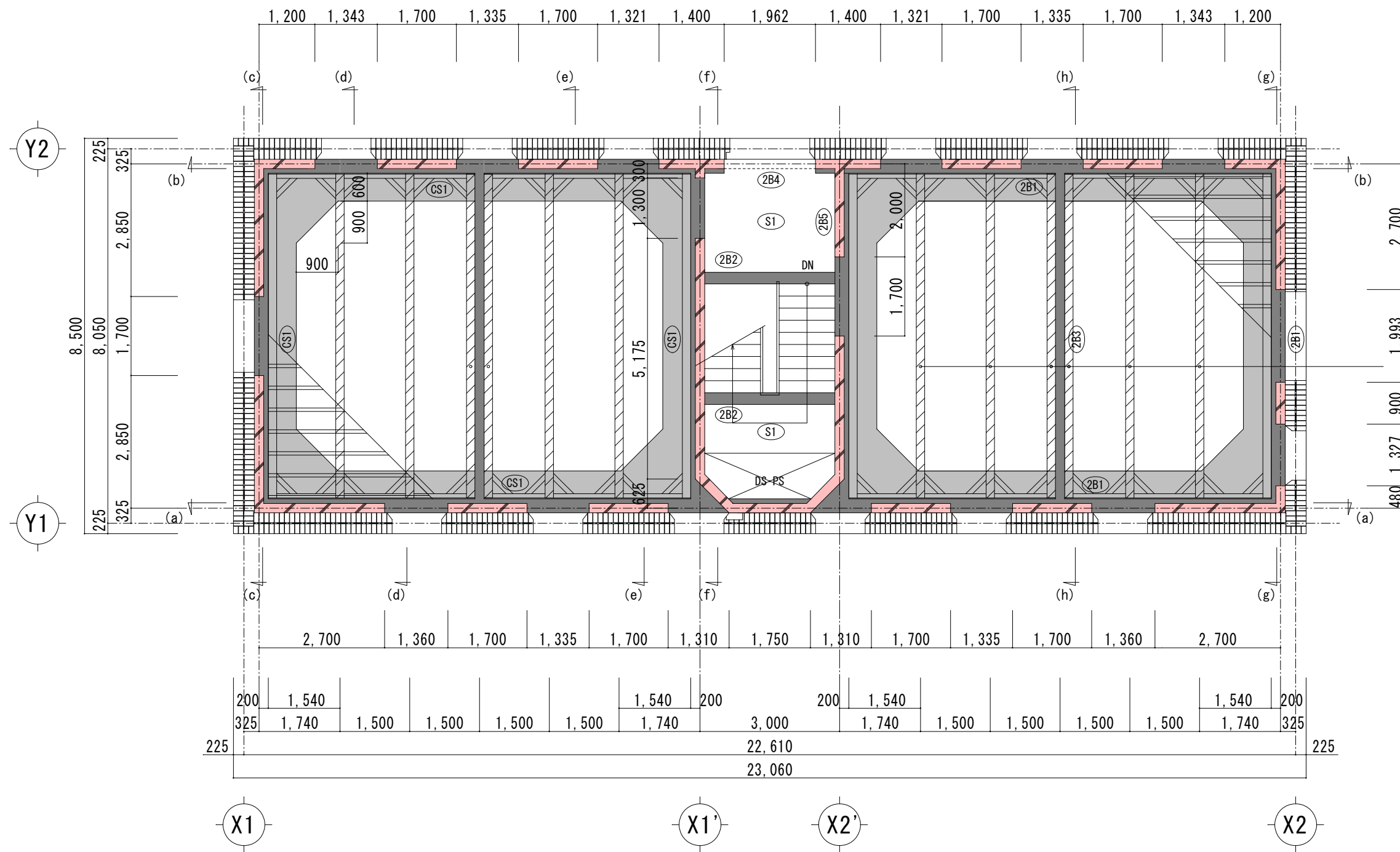
	工 事 名 称				Architect	印	業務名 PROJECT	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺 SCALE
	東京芸術大学	課 長	補 佐	係 長	係 員	 <b>BANN</b>	図名 TITLE	耐震補強特記仕様書	図番
	赤レンガ2号館改修工事					<b>万 建築設計事務所</b>	年月日 DATE	2009. 09. 30	<b>S-01</b>
						一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄			No.





基礎伏図 S=1/100

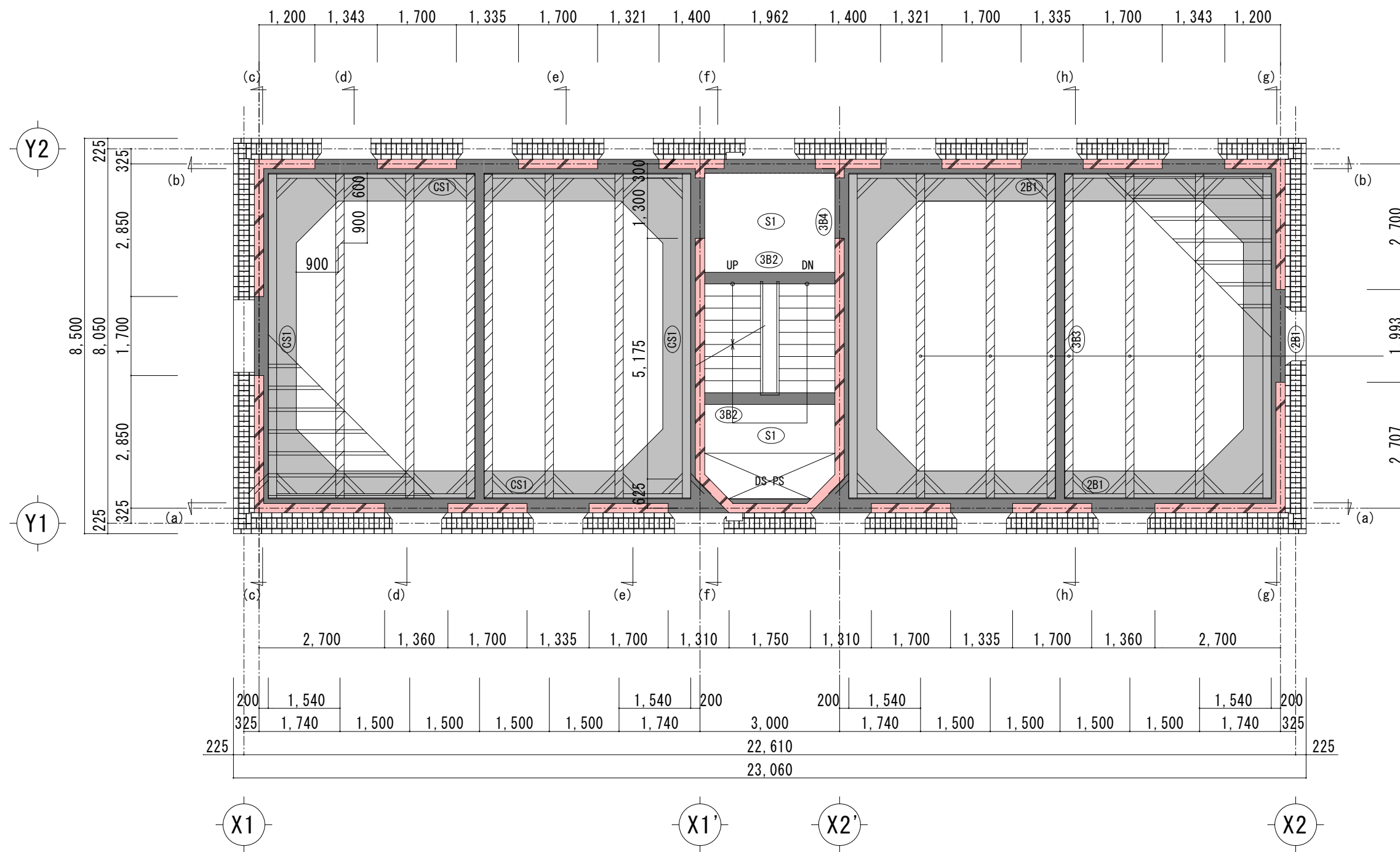
記事	工事名称				Architect	印	業務名 PROJECT	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺 SCALE	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事									
東京芸術大学 施設課				Architect		年月日 DATE	2009.09.30	No.		
課長				補佐						
係長				係員						
根切りの際の矢板は設けない (以下共通)										



1階 壁伏図 S=1/100 見上げ図

W20 を示す

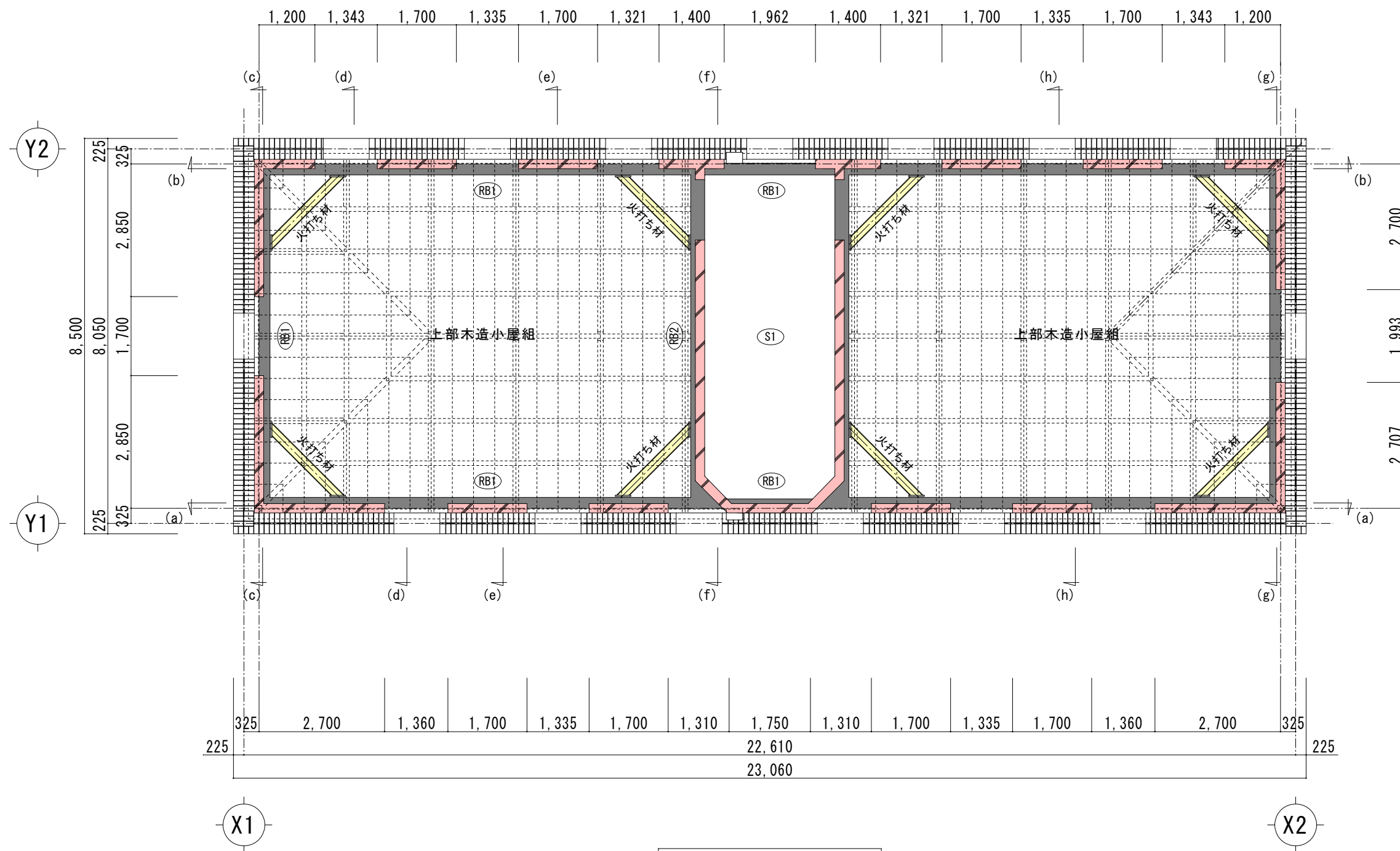
記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	1階壁 2階床伏図	図番	S-03
								年月日	2009.09.30	No.	



2階 壁伏図 S=1/100 見上げ図

W20 を示す

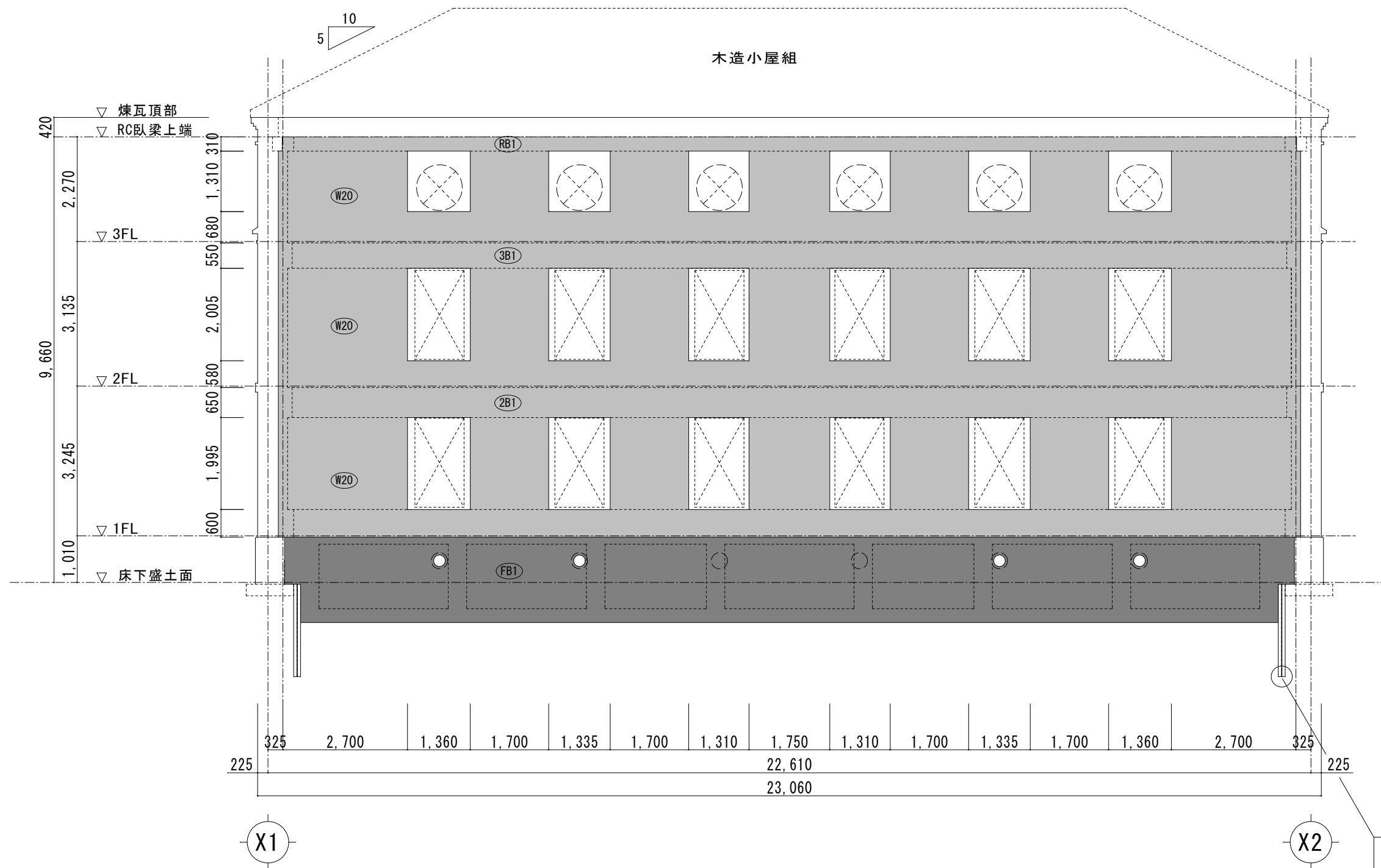
記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	2階壁 3階床伏図	図番	S-04
								年月日	2009.09.30	No.	



3階 壁伏図 S=1/100 見上げ図

： W20 を示す

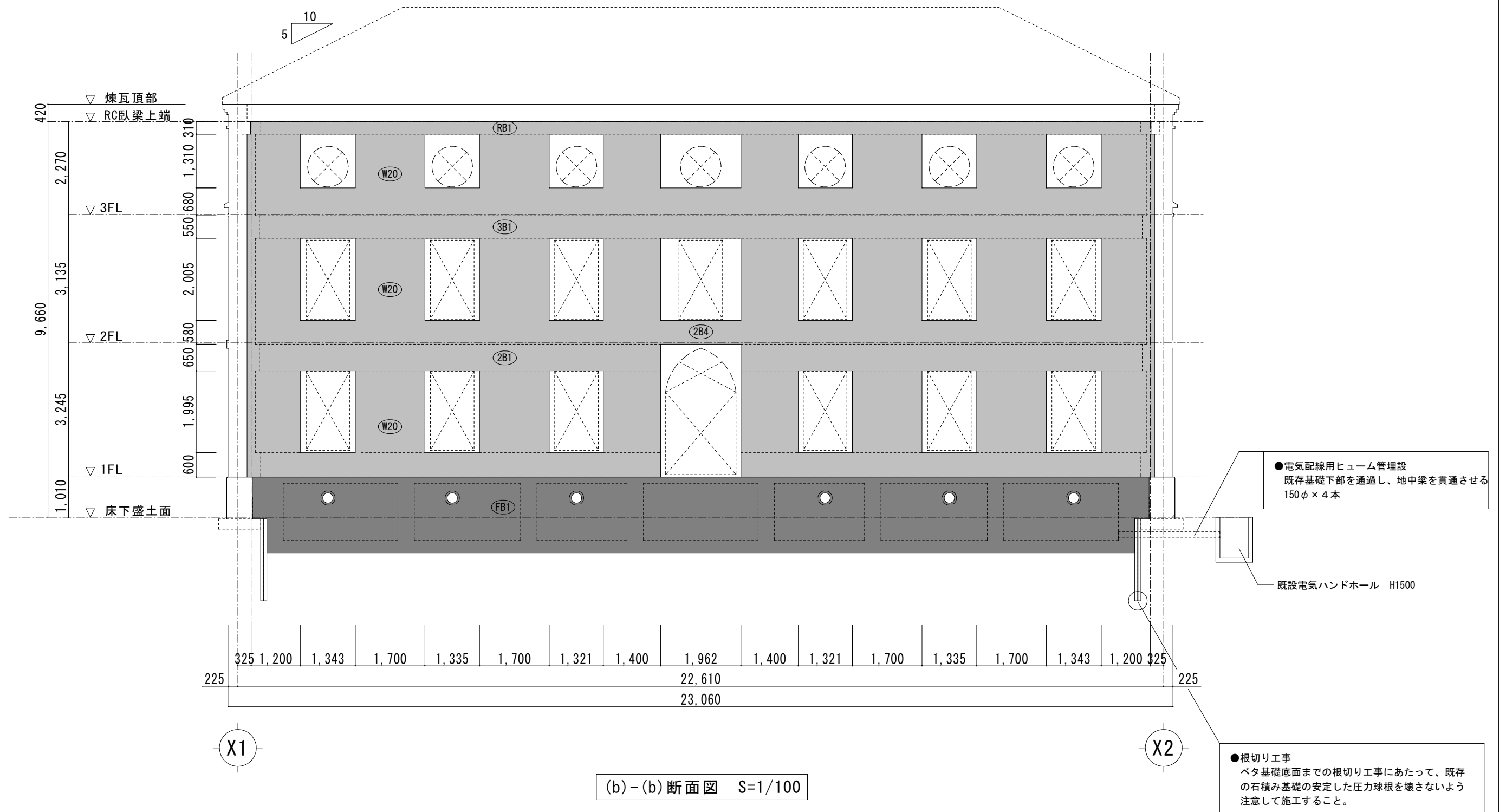
記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	3階壁 小屋伏図	図番	S-05
								年月日	2009.09.30	No.	



(a)-(a) 断面図 S=1/100

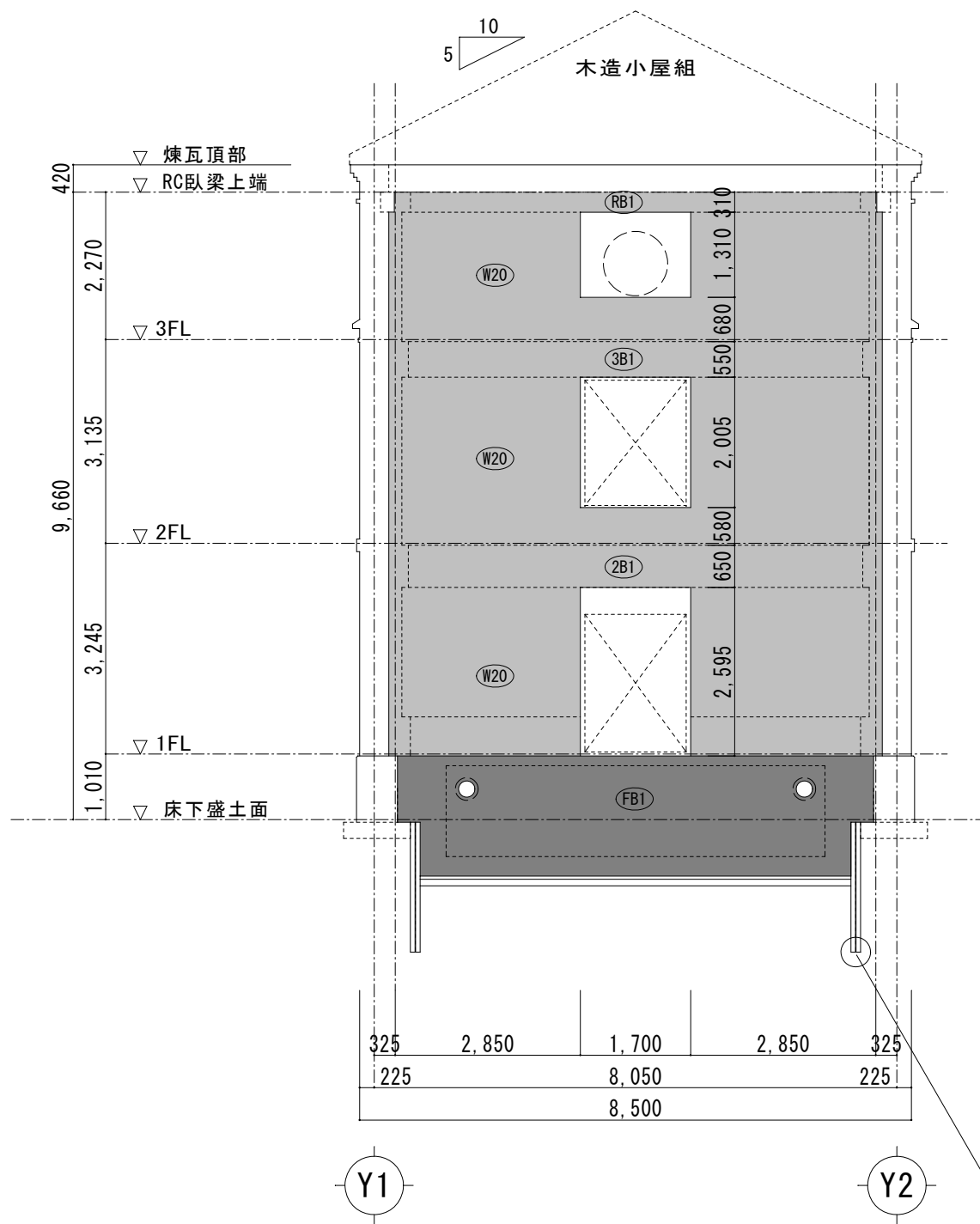
●根切り工事  
 ベタ基礎底面までの根切り工事にあたって、既存の石積み基礎の安定した圧力球根を壊さないよう注意して施工すること。

記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	断面図(1)	図番	S-06
								年月日	2009.09.30	No.	

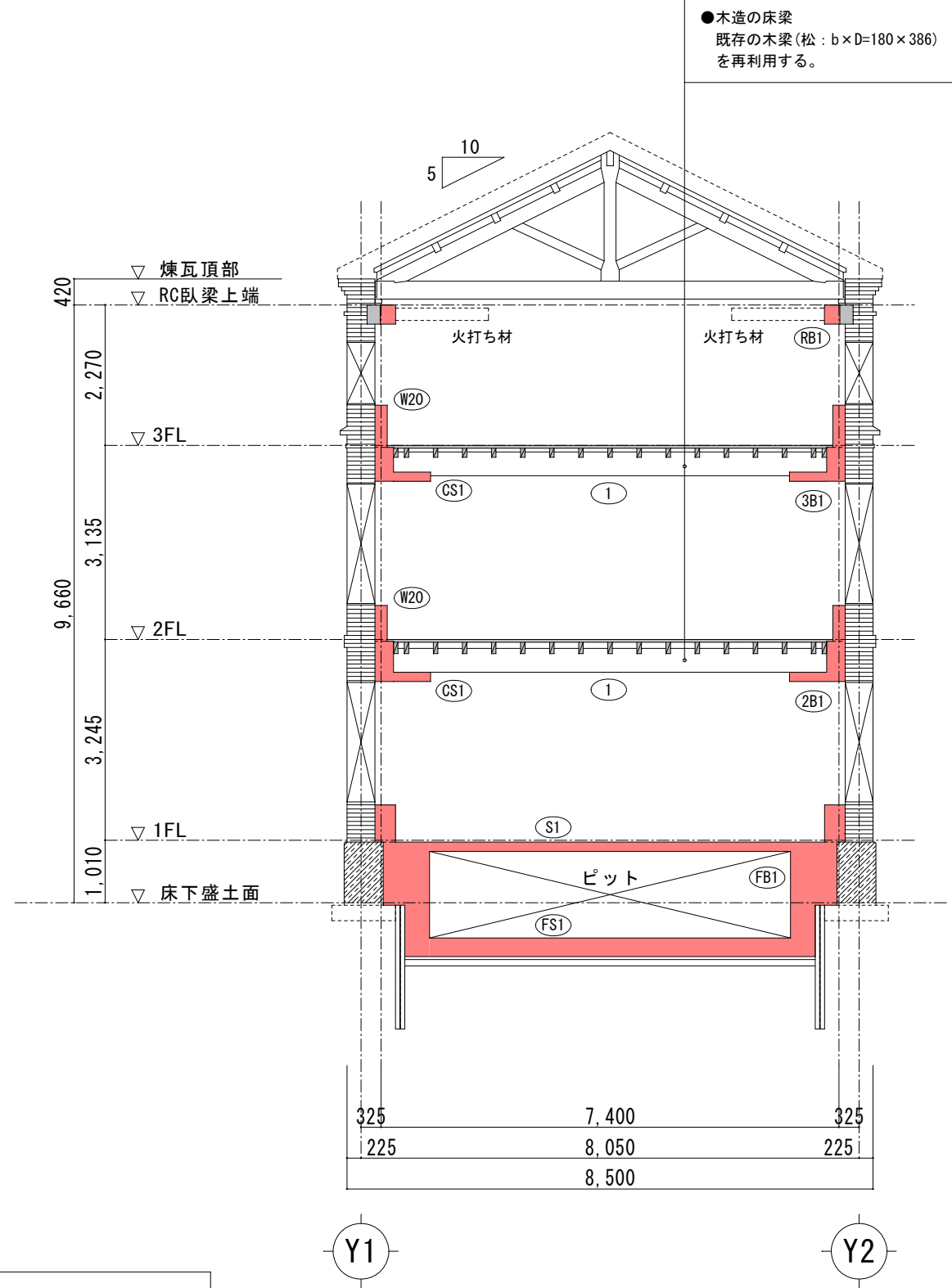


(b)-(b) 断面図 S=1/100

記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	断面図(2)	図番	S-07
								年月日	2009.09.30	No.	



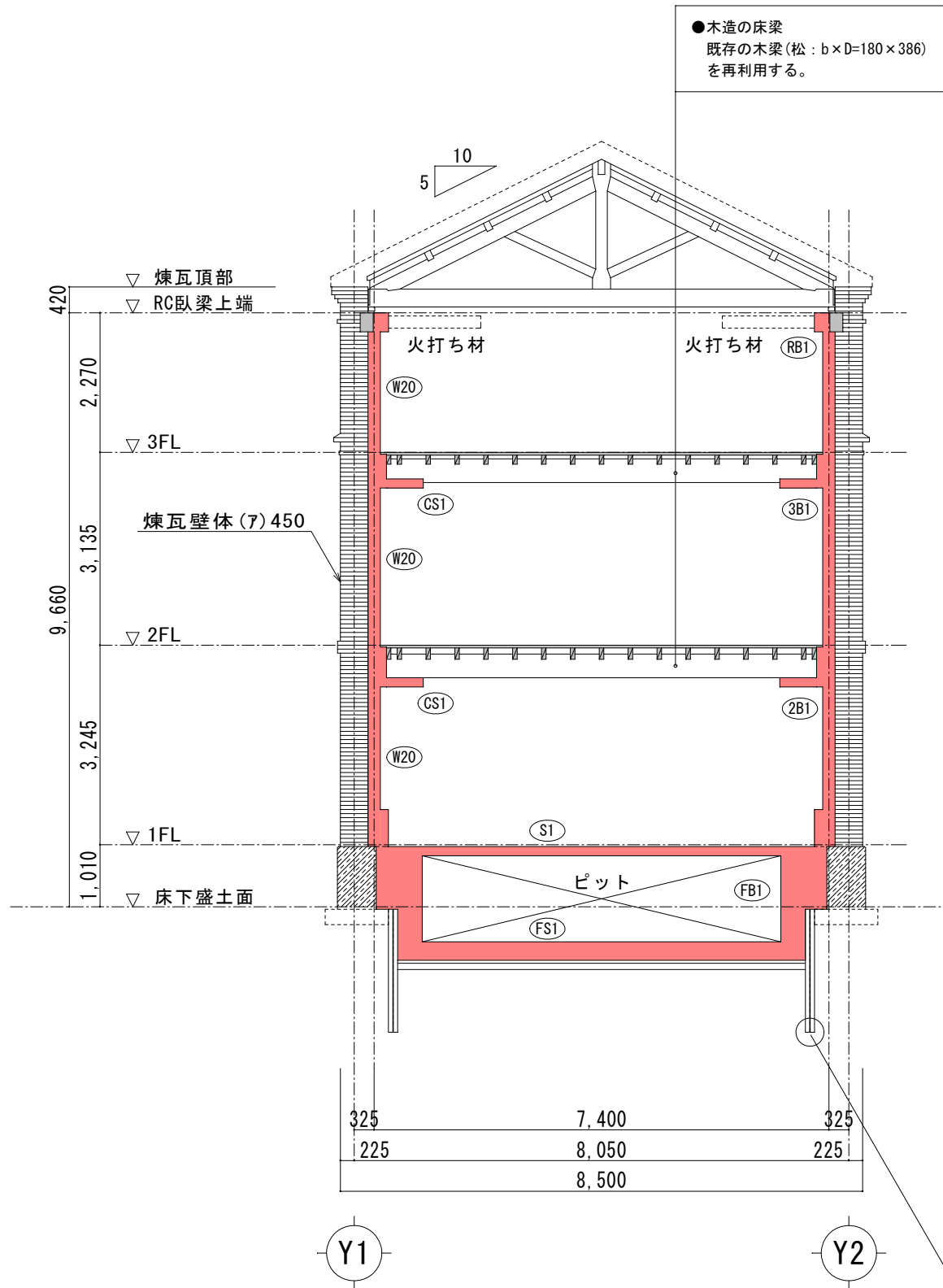
(c)-(c) 断面図 S=1/100



(d)-(d) 断面図 S=1/100

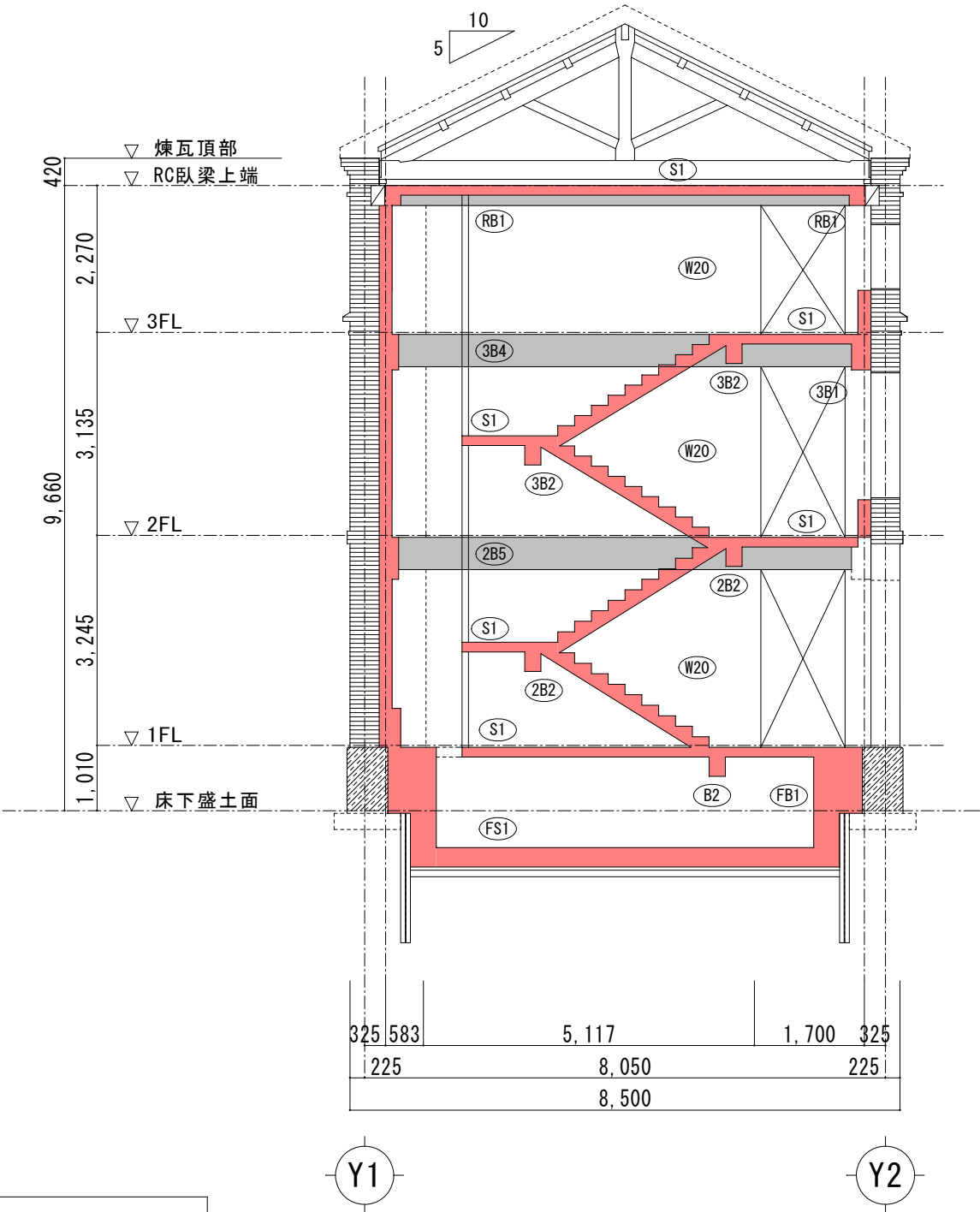
●根切り工事  
ベタ基礎底面までの根切り工事にあたって、既存の石積み基礎の安定した圧力球根を壊さないよう注意して施工すること。

記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	断面図(3)	図番	S-08
								年月日	2009.09.30	No.	



(e)-(e) 断面図 S=1/100

●木造の床梁  
既存の木梁(松: b×D=180×386)  
を再利用する。

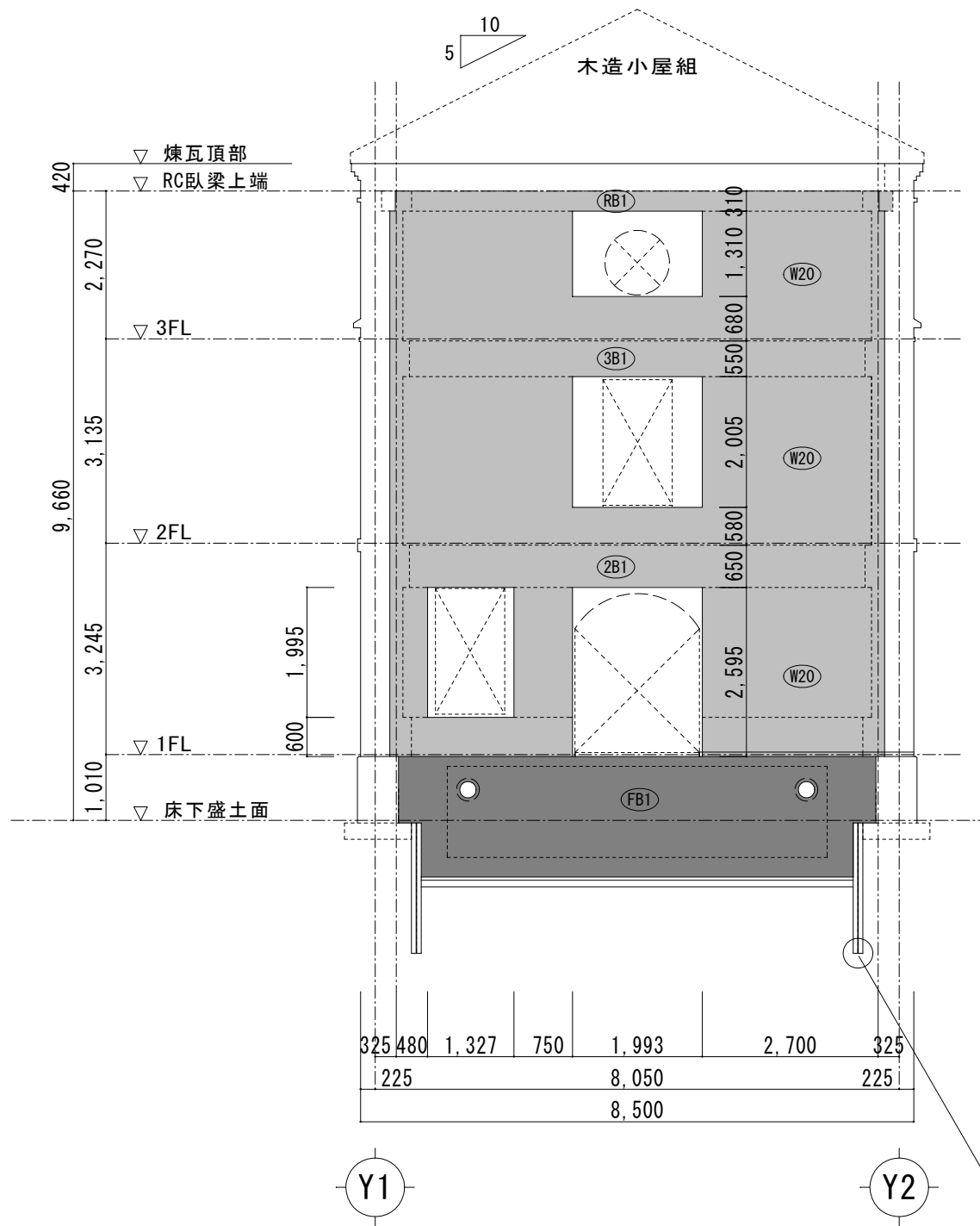


(f)-(f) 断面図 S=1/100

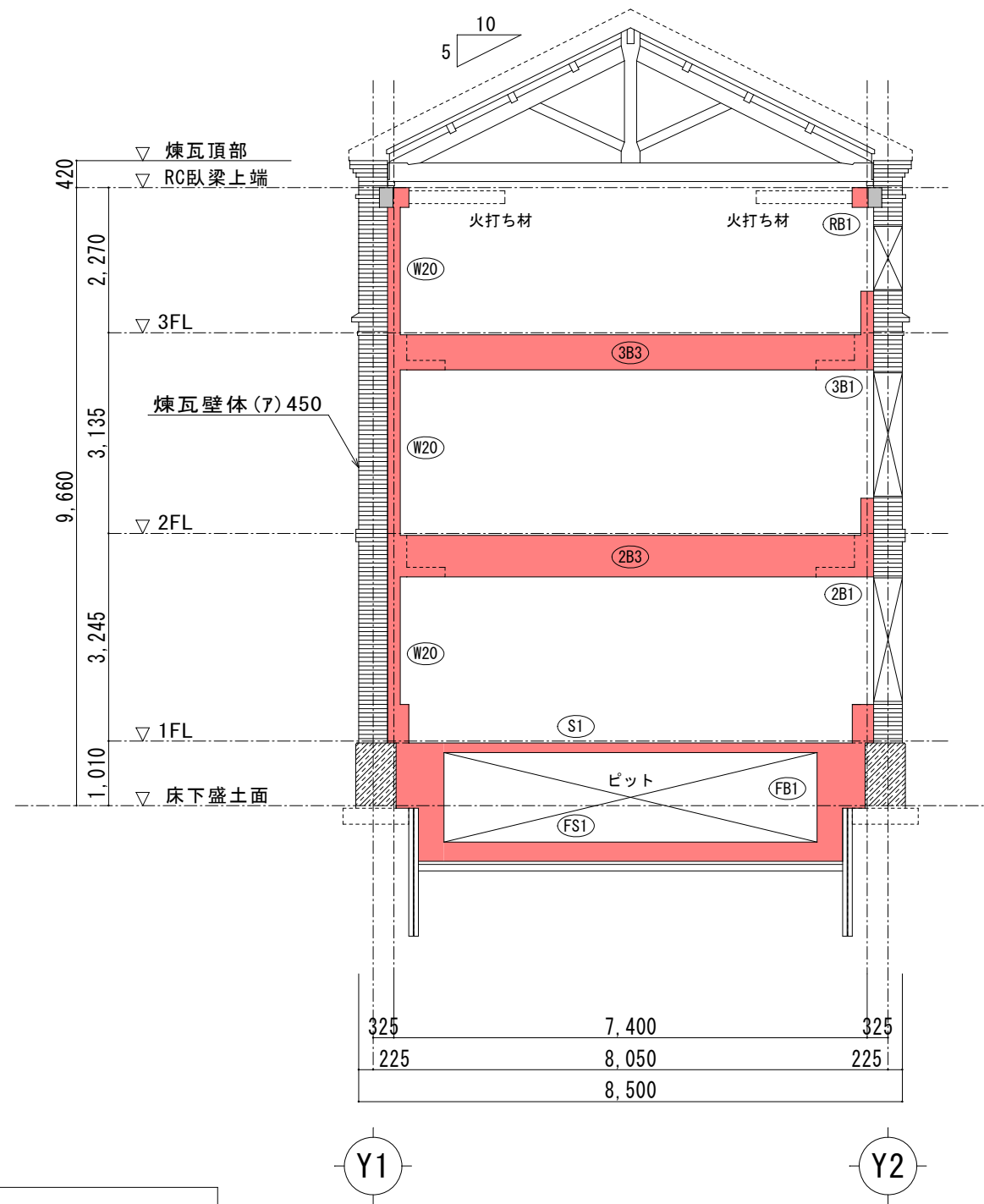
●根切り工事  
ベタ基礎底面までの根切り工事にあたって、既存  
の石積み基礎の安定した圧力球根を壊さないよう  
注意して施工すること。

記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員			図名	断面図(4)	図番	S-09
							TITLE				
							年月日	2009.09.30			
							DATE			No.	





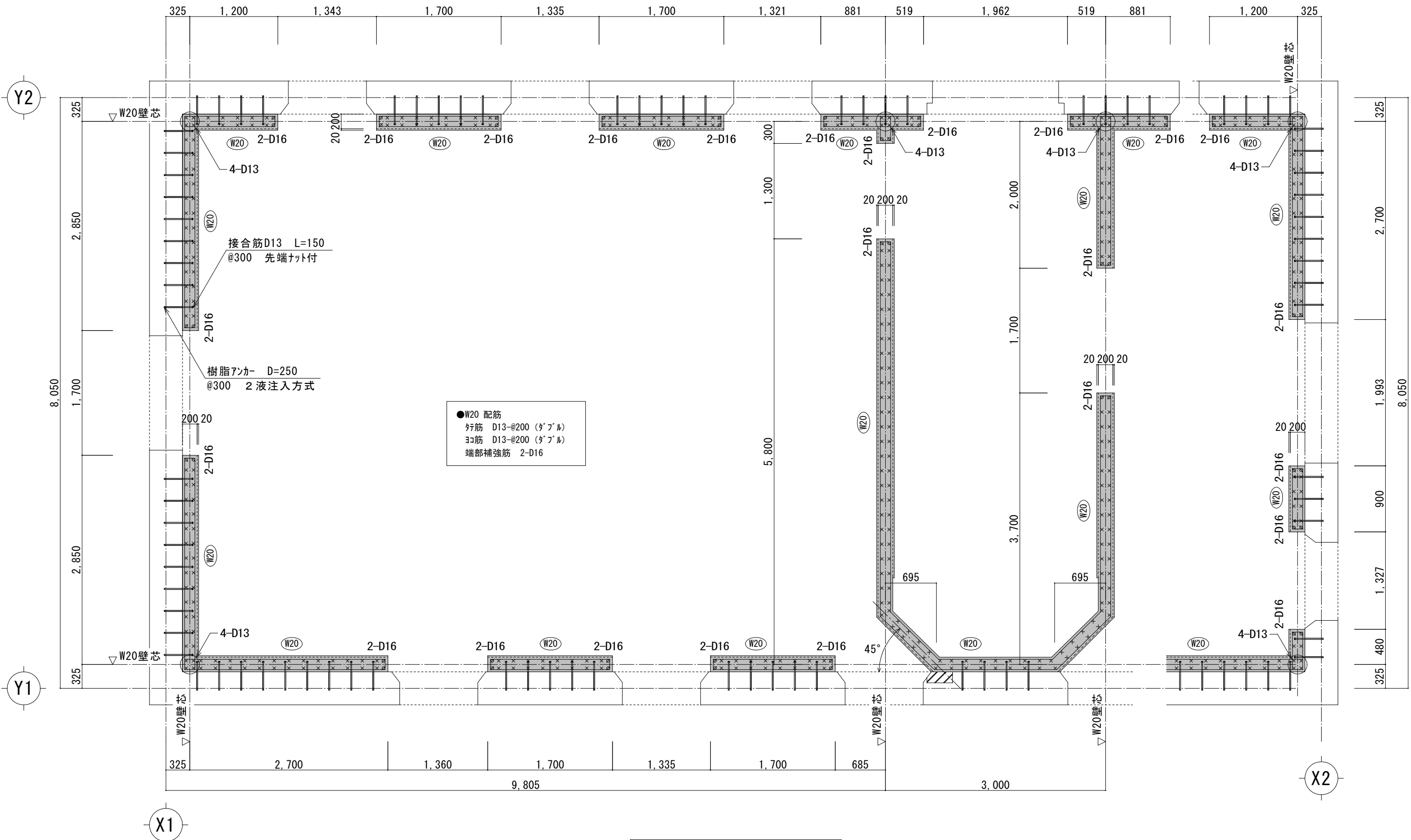
(g)-(g) 断面図 S=1/100



(h)-(h) 断面図 S=1/100

●根切り工事  
ベタ基礎底面までの根切り工事にあたって、既存の石積み基礎の安定した圧力球根を壊さないよう注意して施工すること。

記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/100
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	断面図 (5)	図番	S-10
								年月日	2009.09.30	No.	



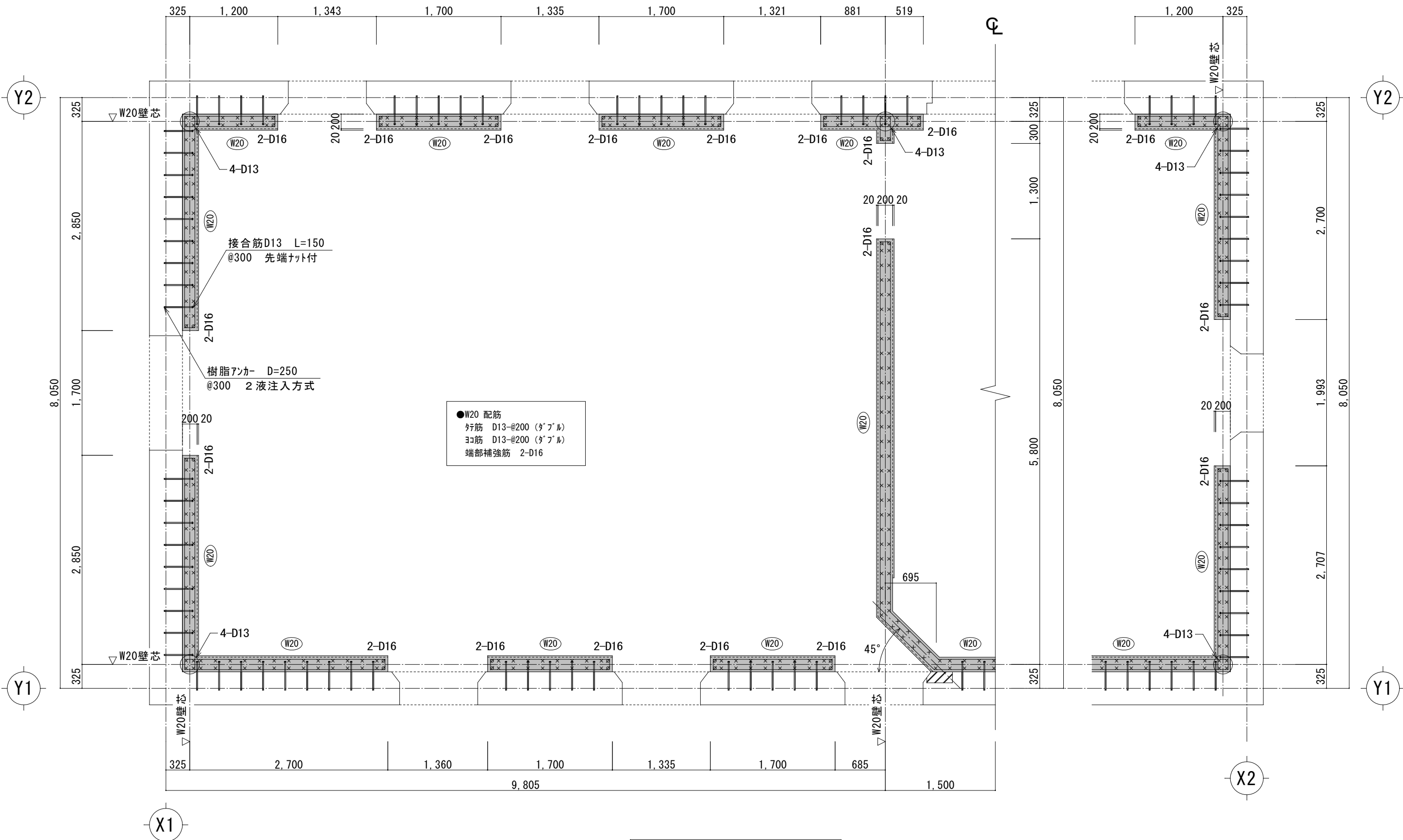
●W20 配筋  
 主筋 D13-@200 (ダブル)  
 ココ筋 D13-@200 (ダブル)  
 端部補強筋 2-D16

接合筋D13 L=150  
 @300 先端ナット付

樹脂アンカー D=250  
 @300 2液注入方式

1階壁 配筋図 S=1/50

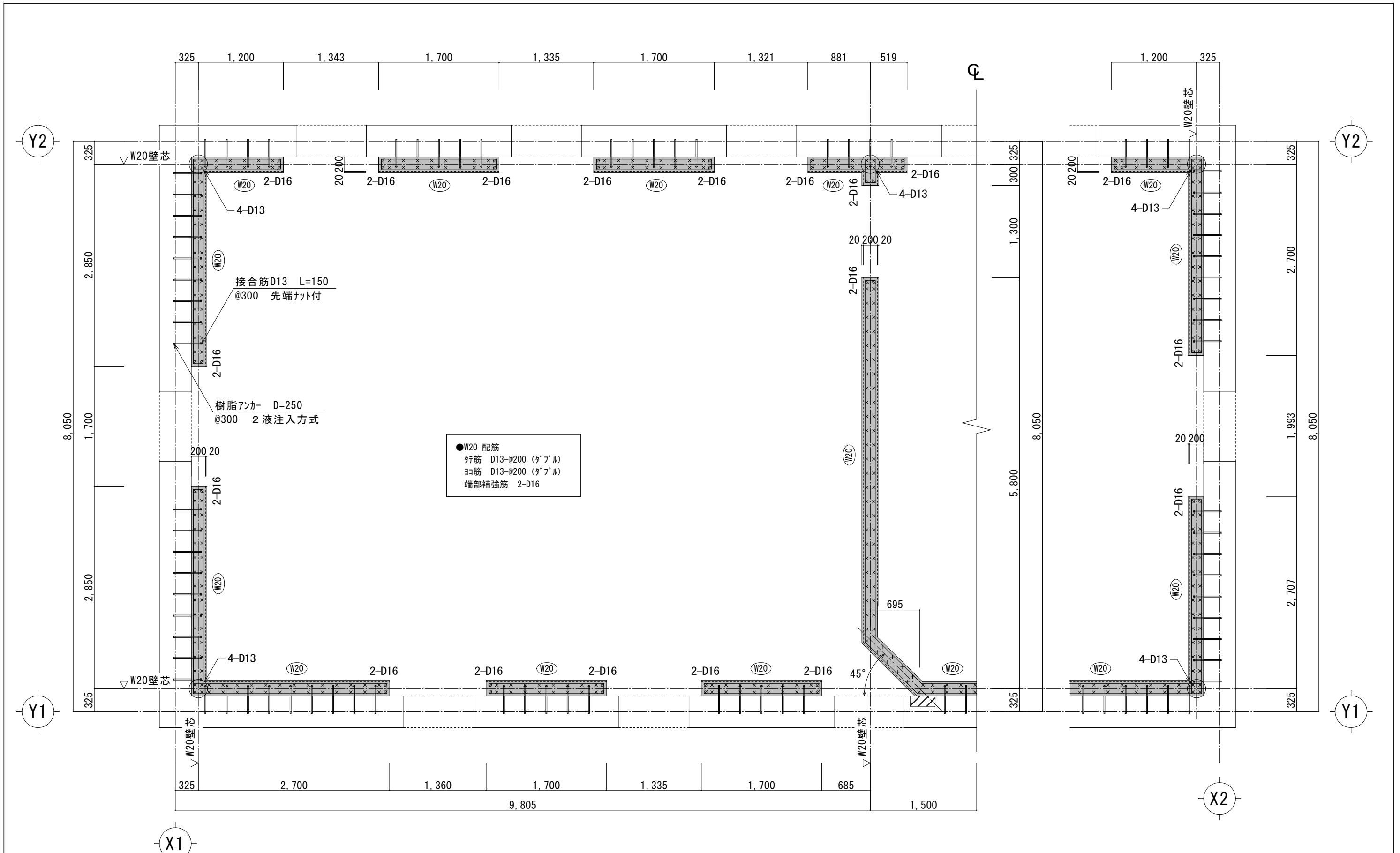
記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/50
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員			図名	1階壁 配筋図	図番	S-11
							年月日	2009.09.30	No.		



●W20 配筋  
 対筋 D13-@200 (ダブル)  
 コ筋 D13-@200 (ダブル)  
 端部補強筋 2-D16

2階壁 配筋図 S=1/50

記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/50
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員			図名	2階壁 配筋図	図番	S-12
							年月日	2009.09.30	No.		



3階壁 配筋図 S=1/50

記事	

工事名称	
東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	

東京芸術大学施設課			
課長	補佐	係長	係員

Architect

BANN  
 万 建築設計事務所  
 一級建築士事務所 登録 20261号  
 一級建築士 66587号 木村 秀雄

印

業務名 PROJECT	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務
図名 TITLE	3階壁 配筋図
年月日 DATE	2009.09.30

縮尺 SCALE	1/50
図番	S-13
No.	

RC梁断面リスト S=1/20

符号	RB1	RB2	3B1	3B2, 2B2, 1B2	3B3
断面					
B × D	250 × 310	300 × 310	300 × 550	250 × 450	250 × 550
主筋(上/下)	2-D16 / 2-D16	3-D16 / 3-D16	3-D19 / 3-D19	3-D16 / 3-D16	3-D19 / 3-D19
Stp	D10-@200	D10-@200	D13-@200	D10-@150	D10-@150
腹筋					

符号	3B4	2B1	2B3	2B4	2B5
断面					
B × D	300 × 500	300 × 650	250 × 650	200 × 580	300 × 500
主筋(上/下)	3-D19 / 3-D19	3-D19 / 3-D19	3-D19 / 3-D19	4-D16 / 4-D16	3-D19 / 3-D19
Stp	D13-@200	D13-@200	D10-@150	D10-@100	D13-@200
腹筋		D13	D13		

符号	FB1	FB2
断面		
B × D	400 × 1,850	400 × 1,850
主筋(上/下)	4-D25 / 4-D25	6-D25 / 6-D25
Stp	D13-@200	D13-@200
腹筋	D13	D13

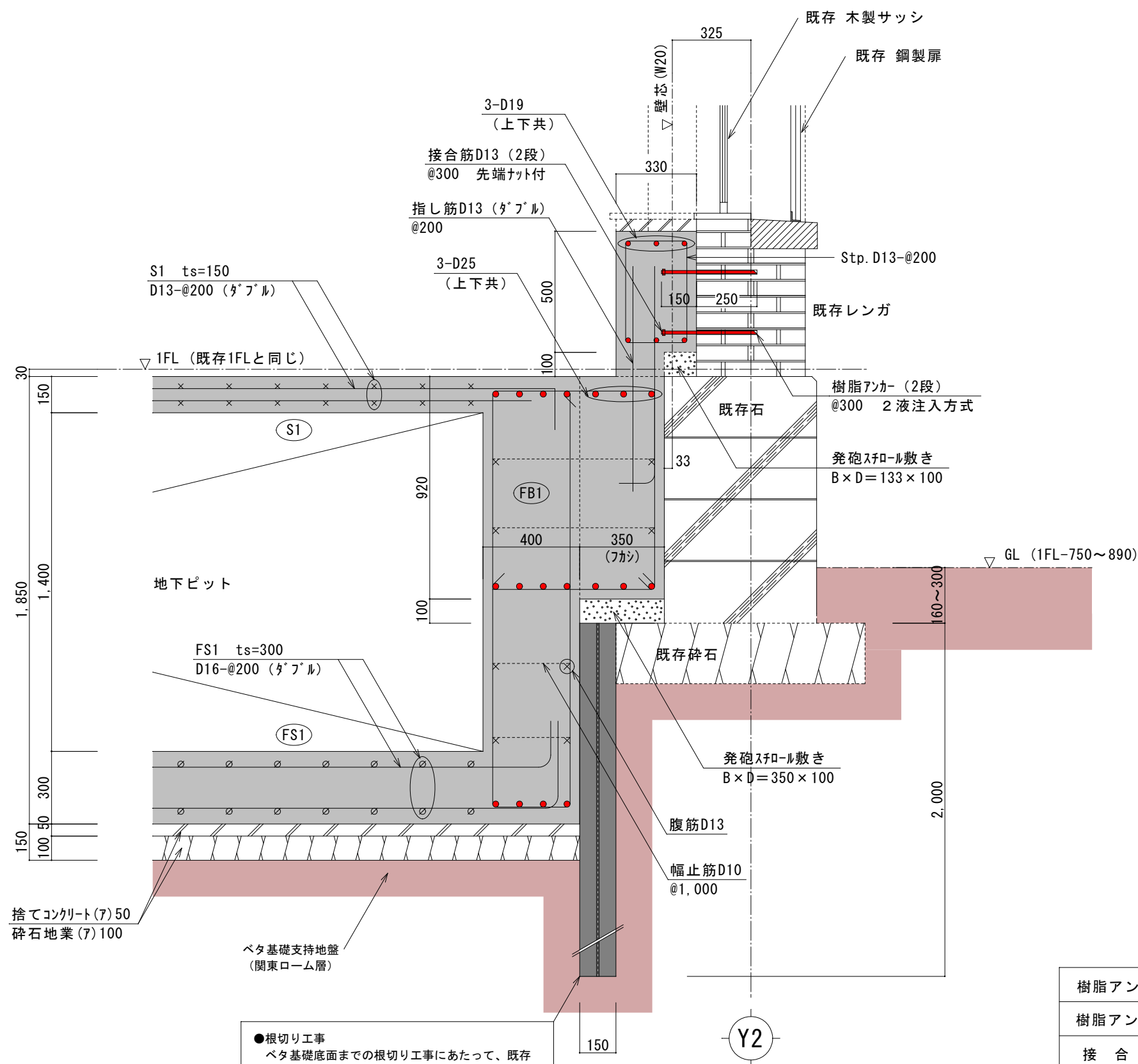
記事

工事名称			
東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	東京芸術大学施設課 課長	補佐	係長 係員

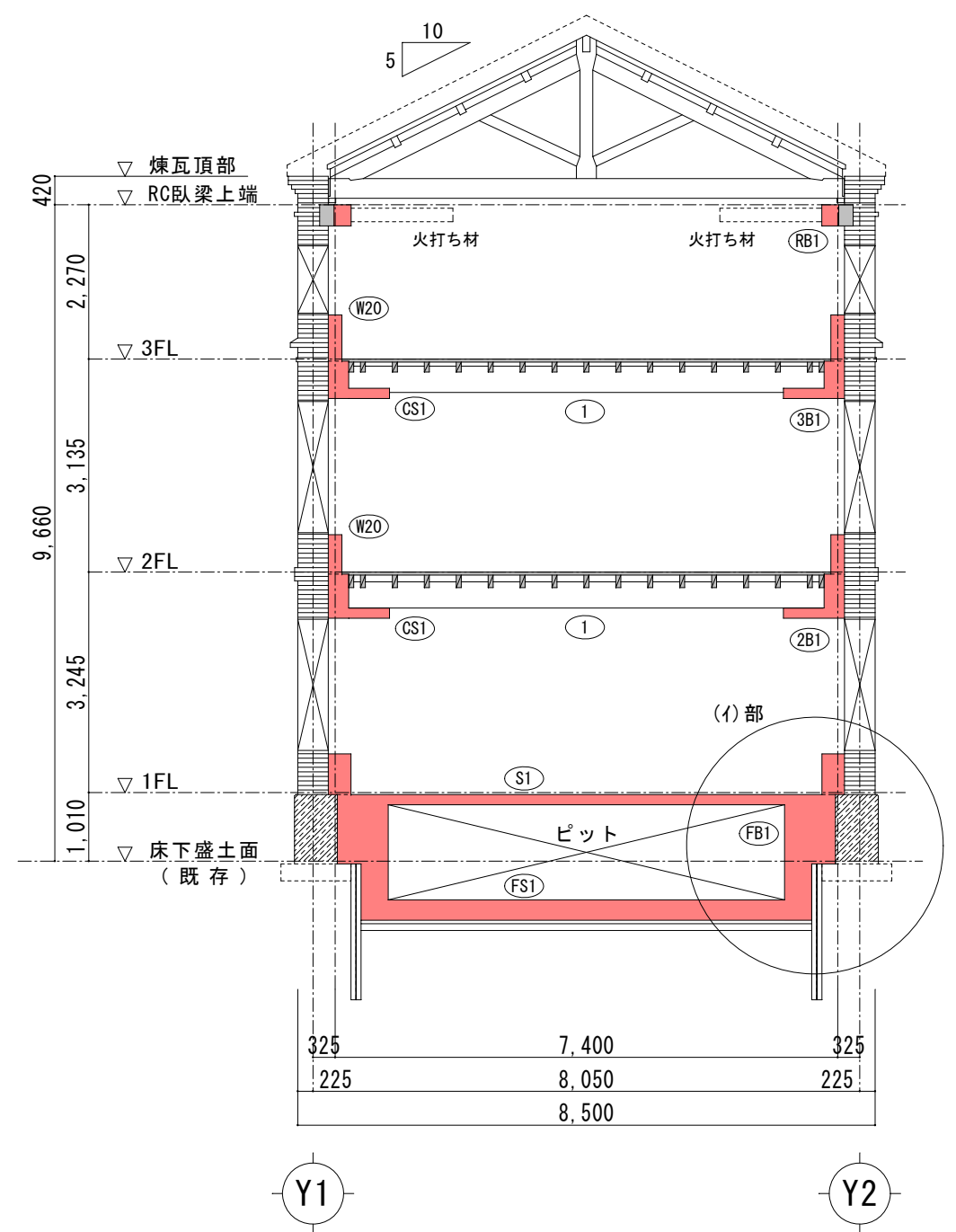
Architect  
BANN  
万 建築設計事務所  
一級建築士事務所 登録 20261号  
一級建築士 66587号 木村 秀雄

印

業務名 PROJECT	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺 SCALE	1/20
図名 TITLE	RC梁断面リスト	図番	S-14
年月日 DATE	2009.09.30	No.	

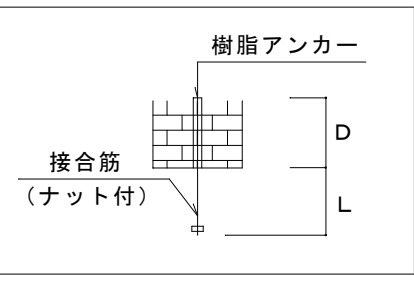


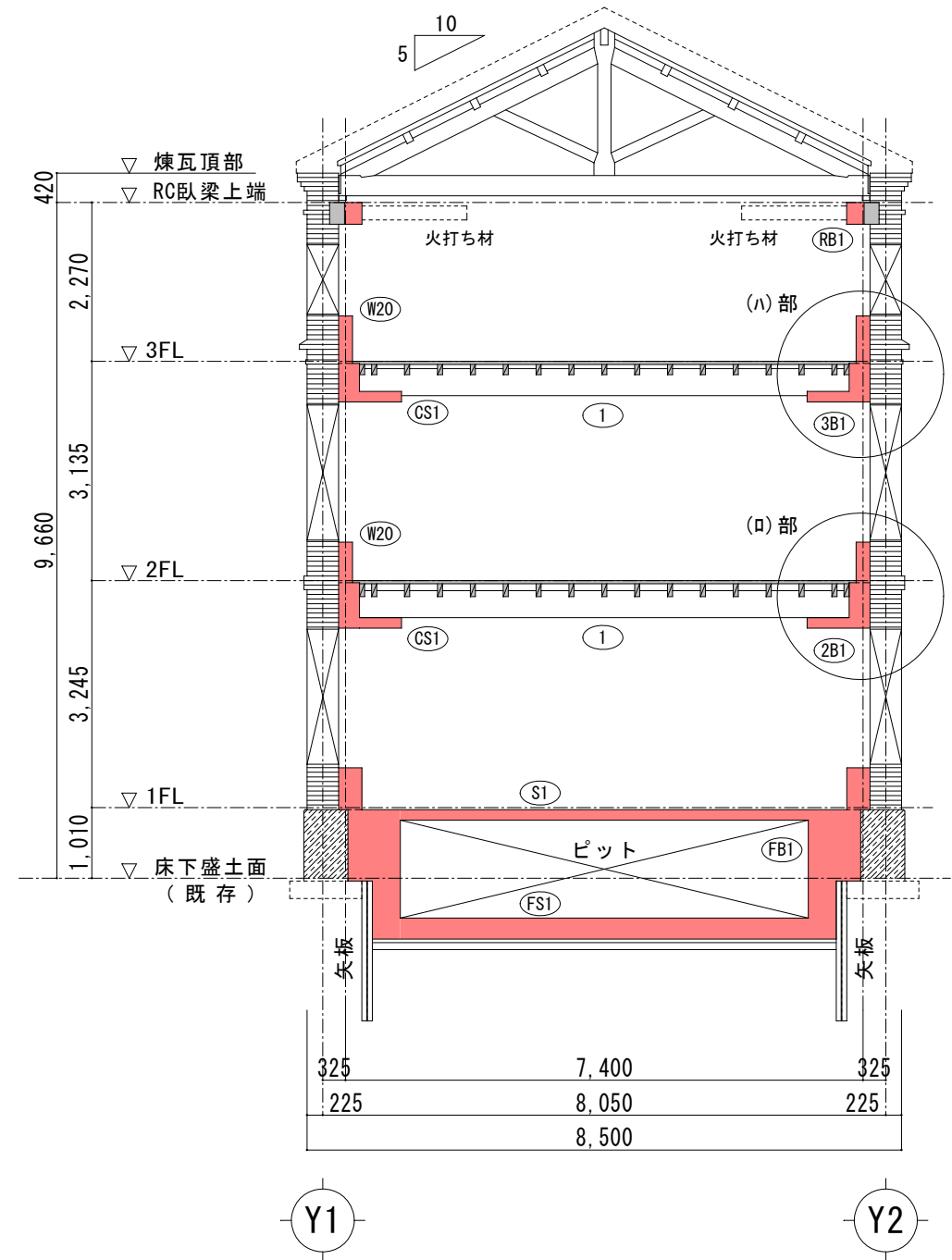
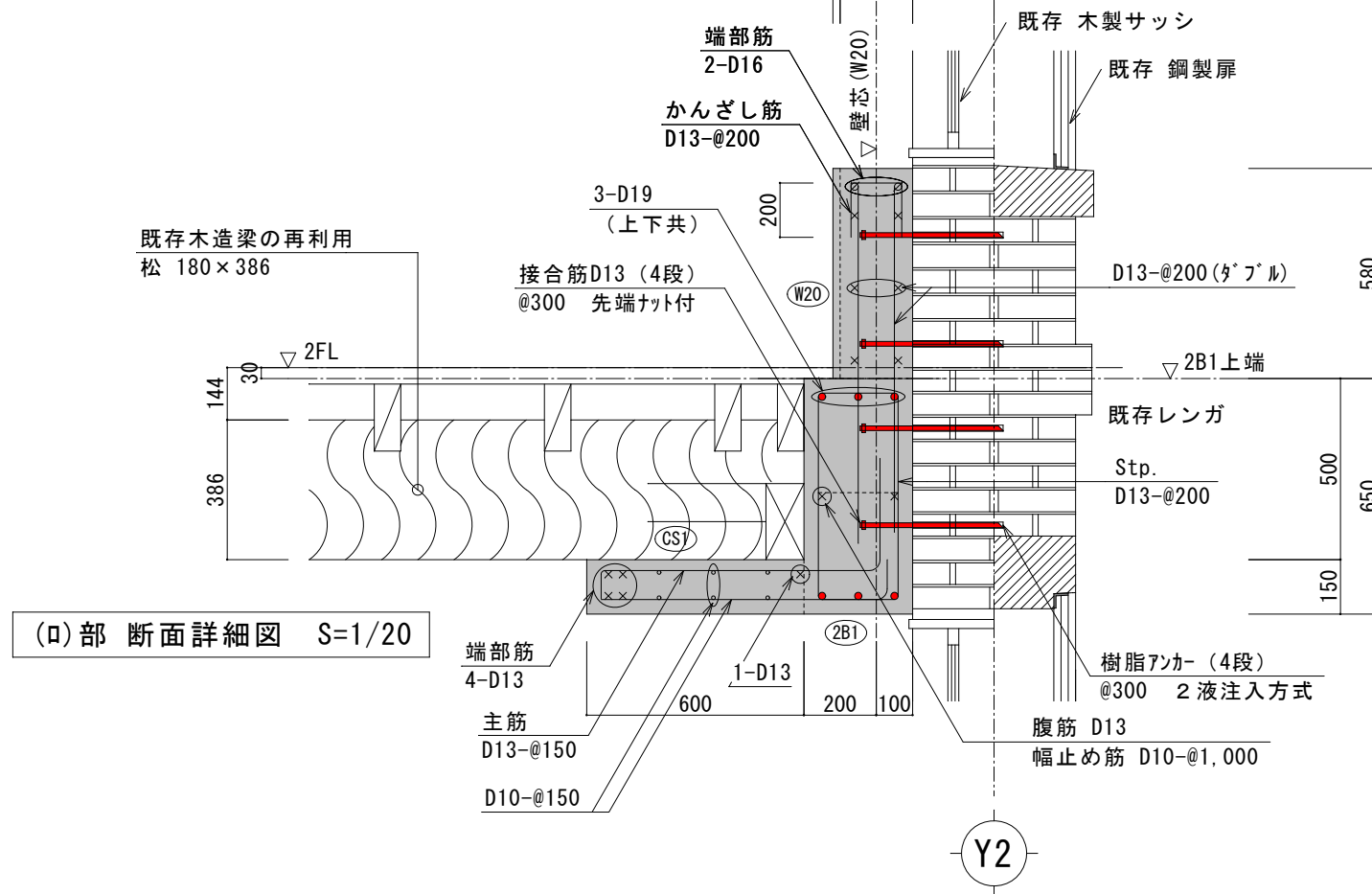
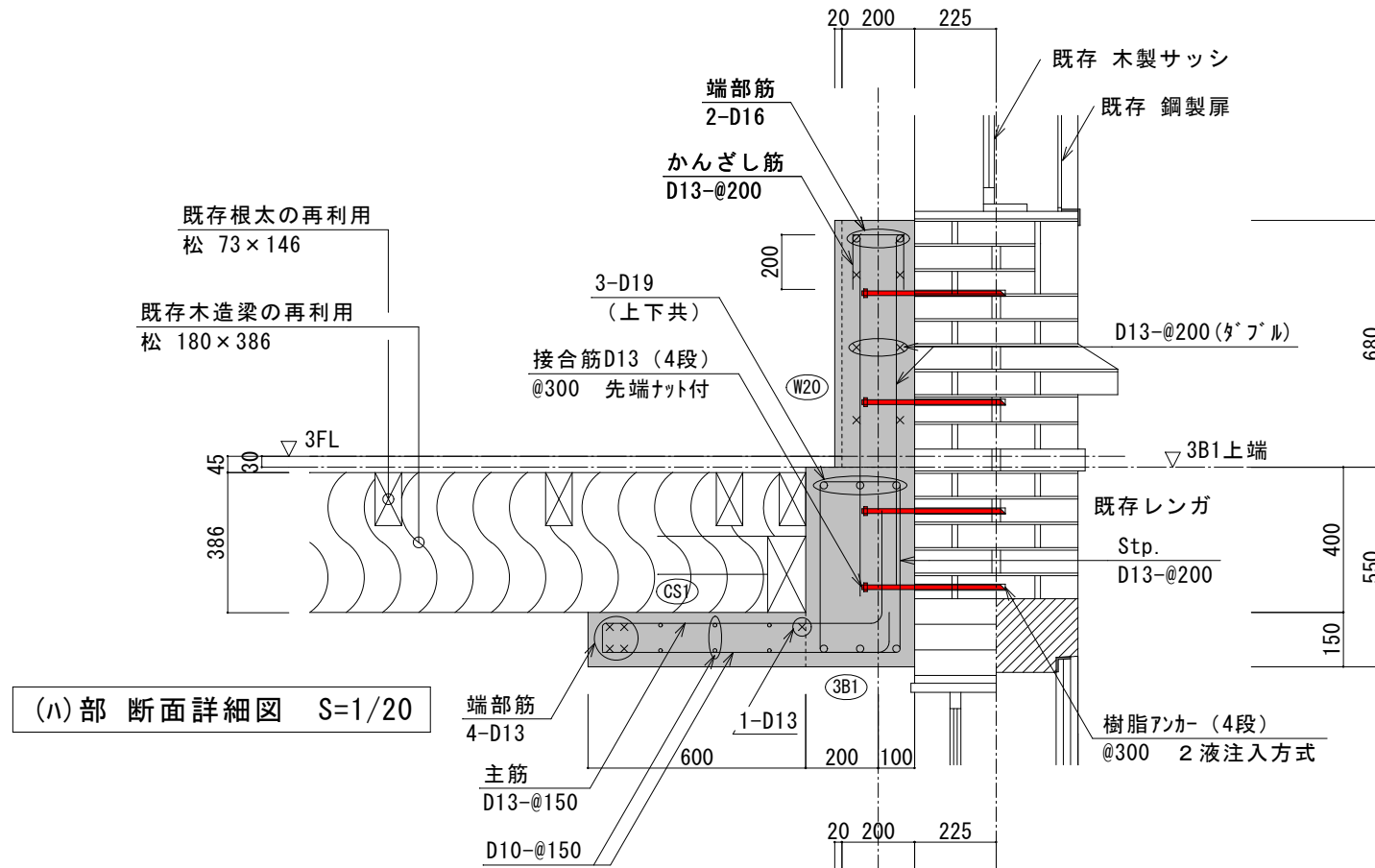
(I)部 断面詳細図 S=1/20



(d)-(d) 断面図 S=1/100

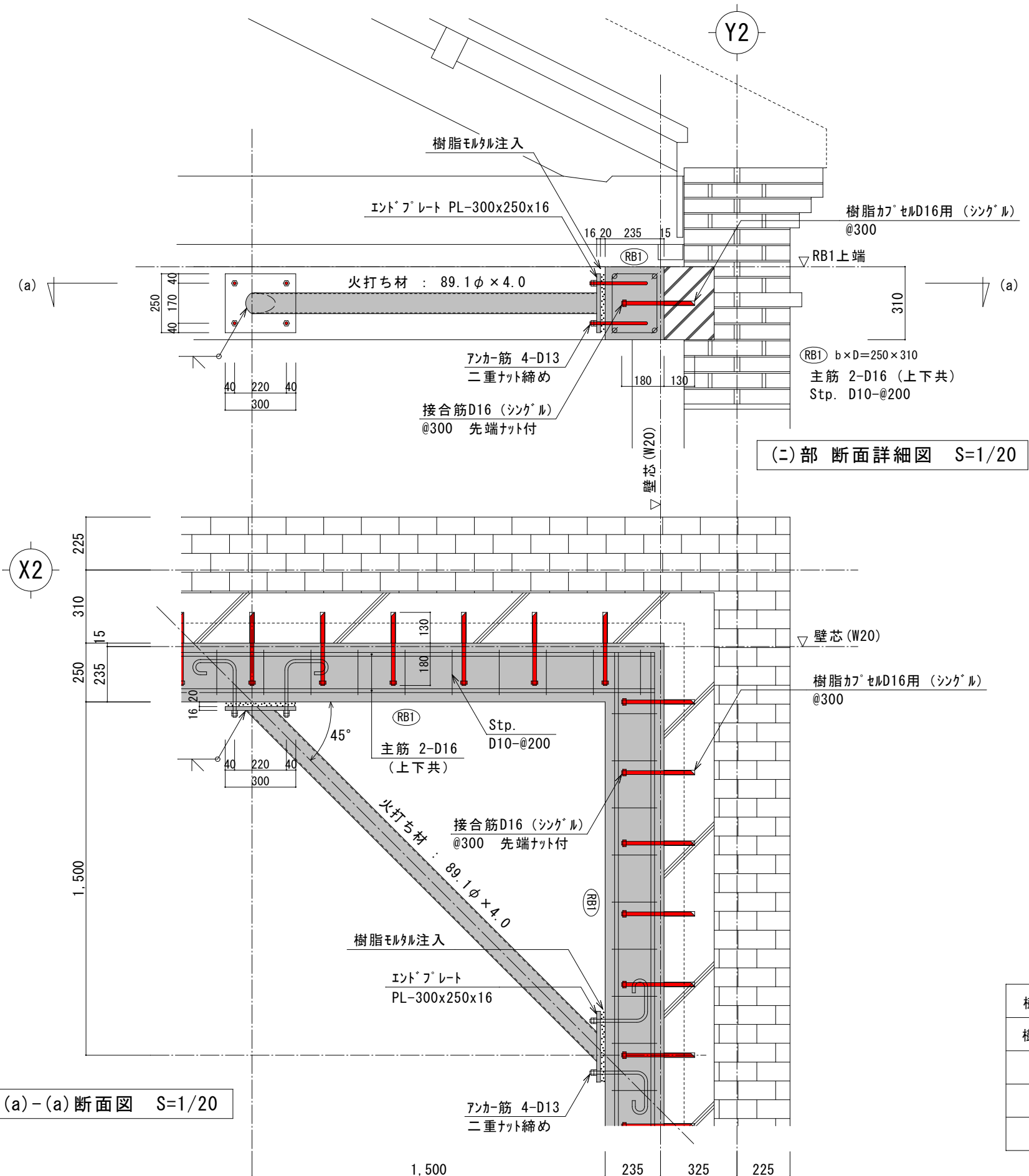
樹脂アンカー リスト	
樹脂アンカー	2液注入方式
接合筋	D13
D	250
L	150





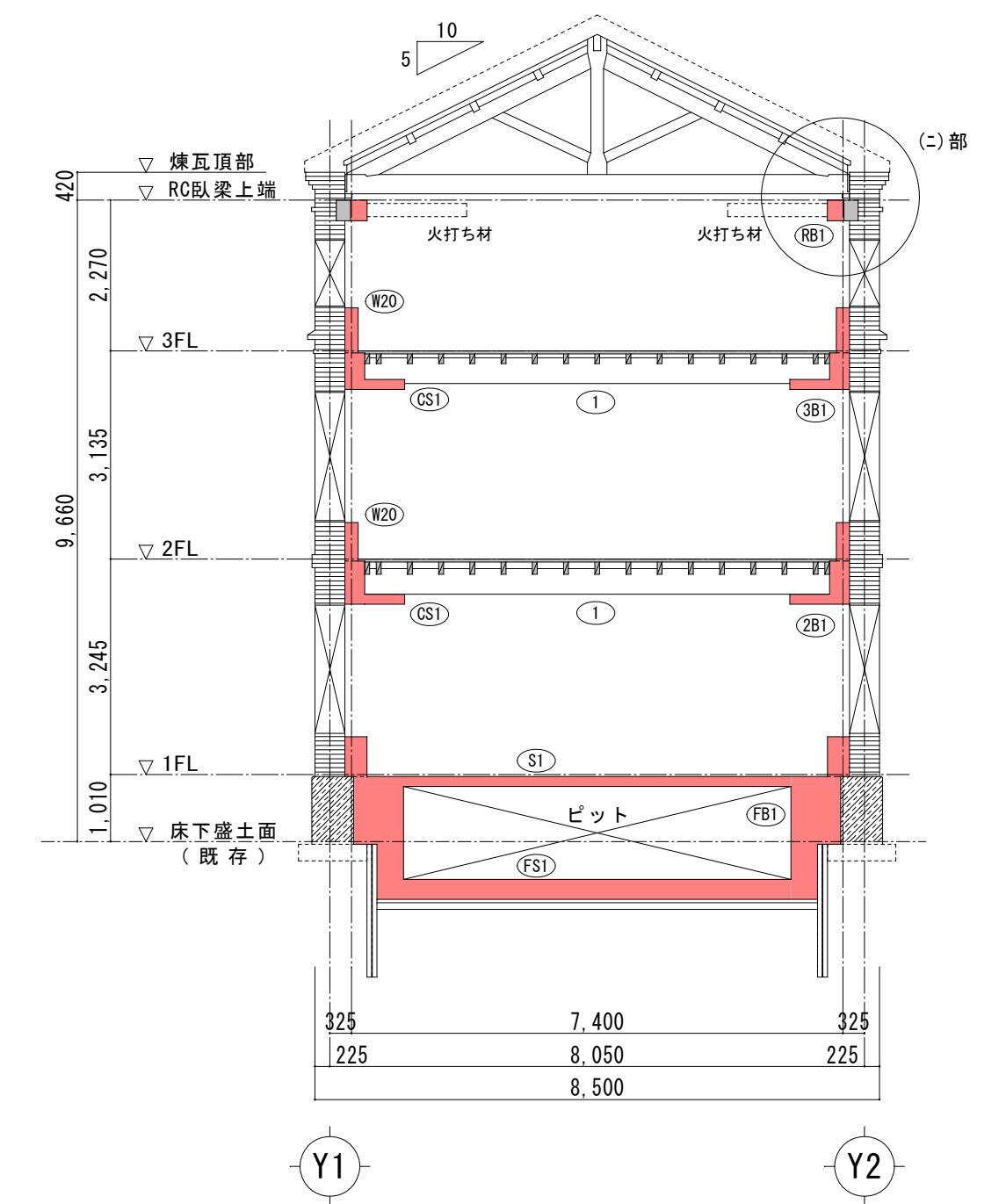
樹脂アンカー リスト	
樹脂アンカー	2液注入方式
接合筋	D13
D	250
L	150

樹脂アンカー



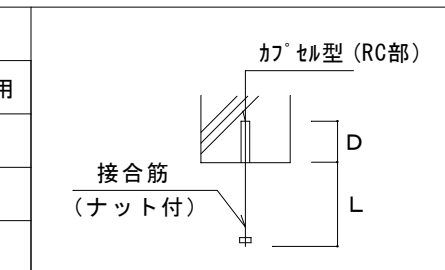
(ニ)部 断面詳細図 S=1/20

(a)-(a) 断面図 S=1/20

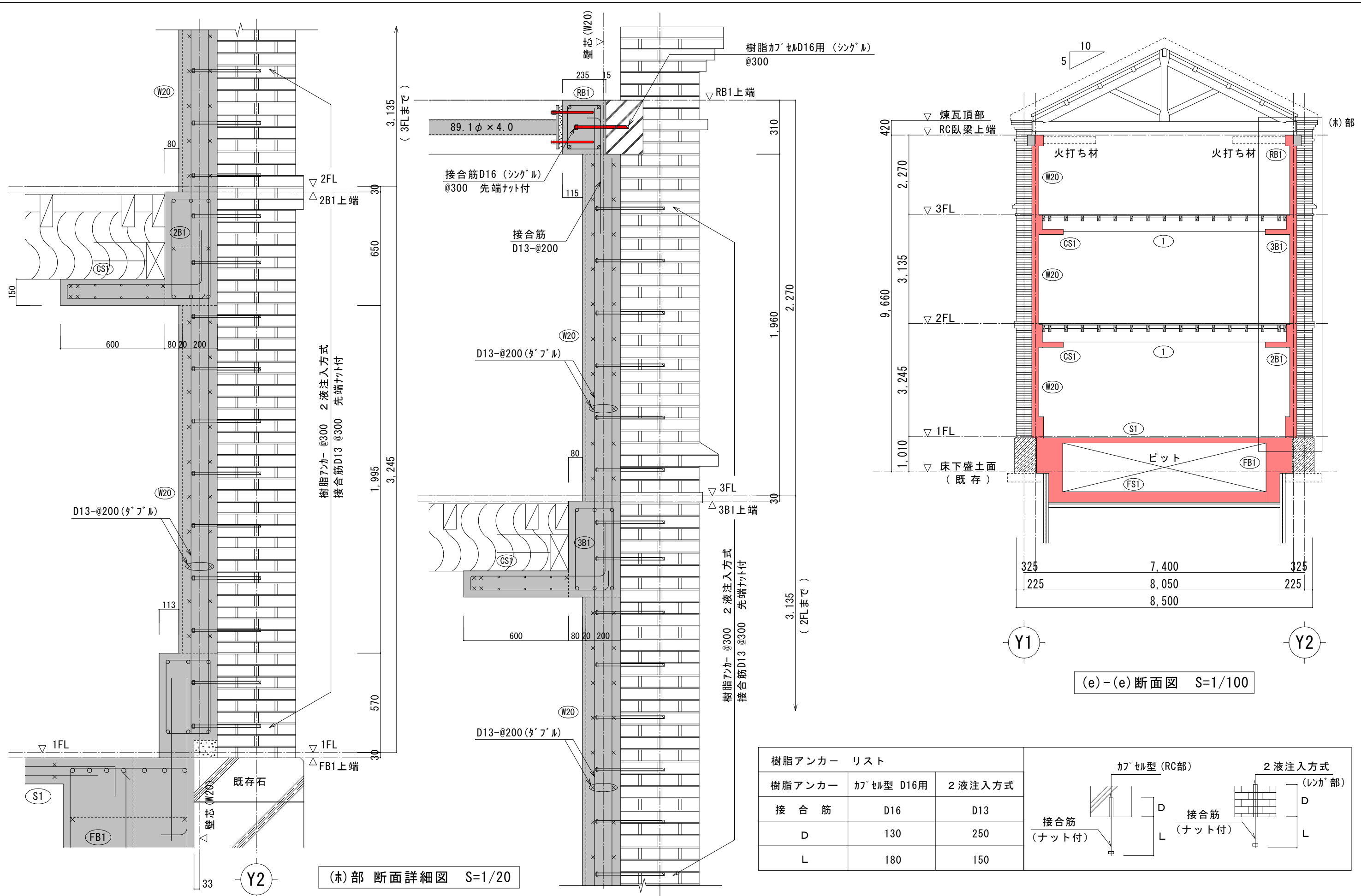


(d)-(d) 断面図 S=1/100

樹脂アンカー リスト	
樹脂アンカー	カプセル型 D16用
接合筋	D16
D	130
L	180







記事

工事名称  
東京芸術大学  
赤レンガ2号館改修工事

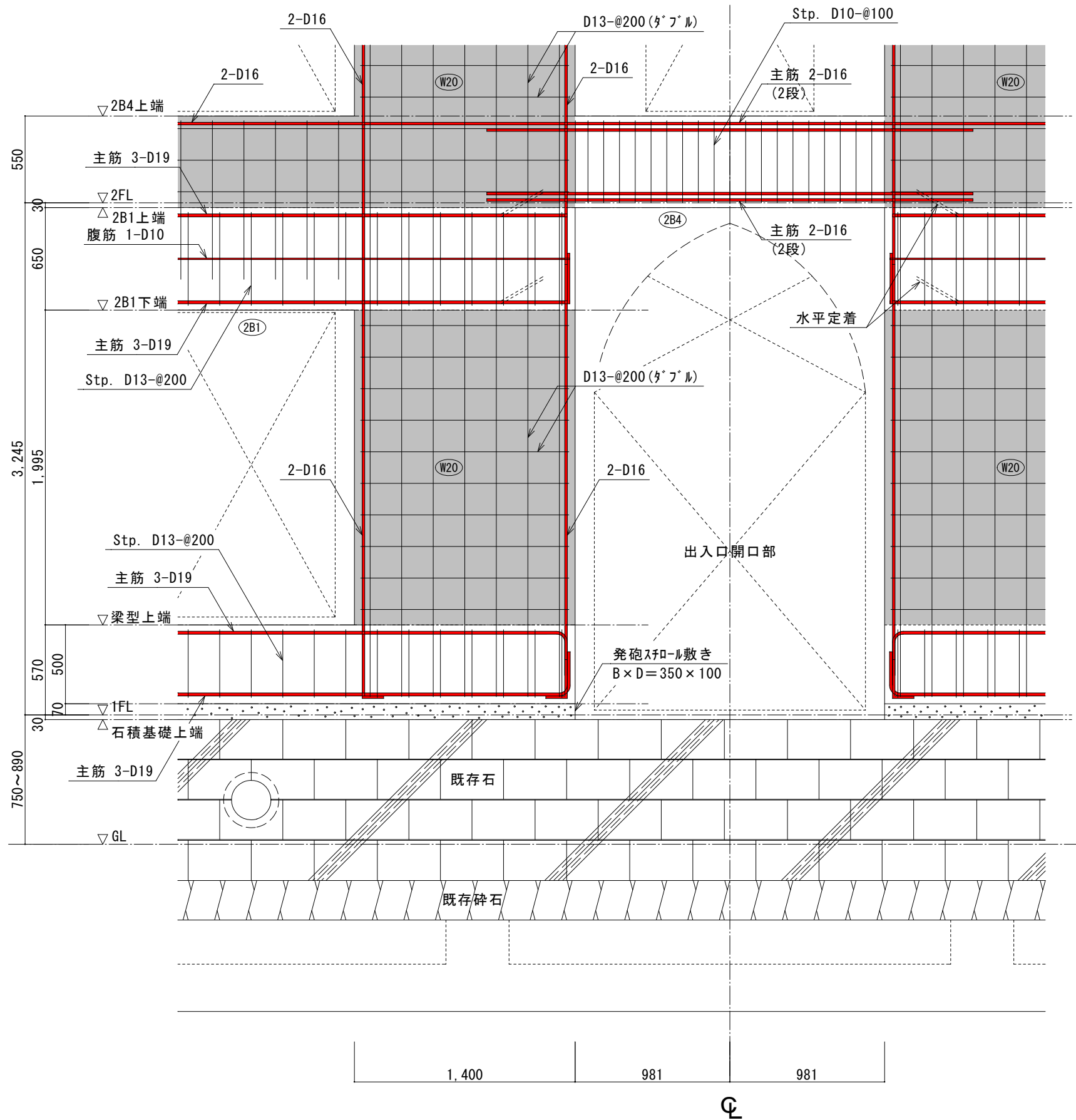
東京芸術大学施設課  
課長 補佐 係長 係員

Architect  
BANN  
万 建築設計事務所  
一級建築士事務所 登録 20261号  
一級建築士 66587号 木村 秀雄

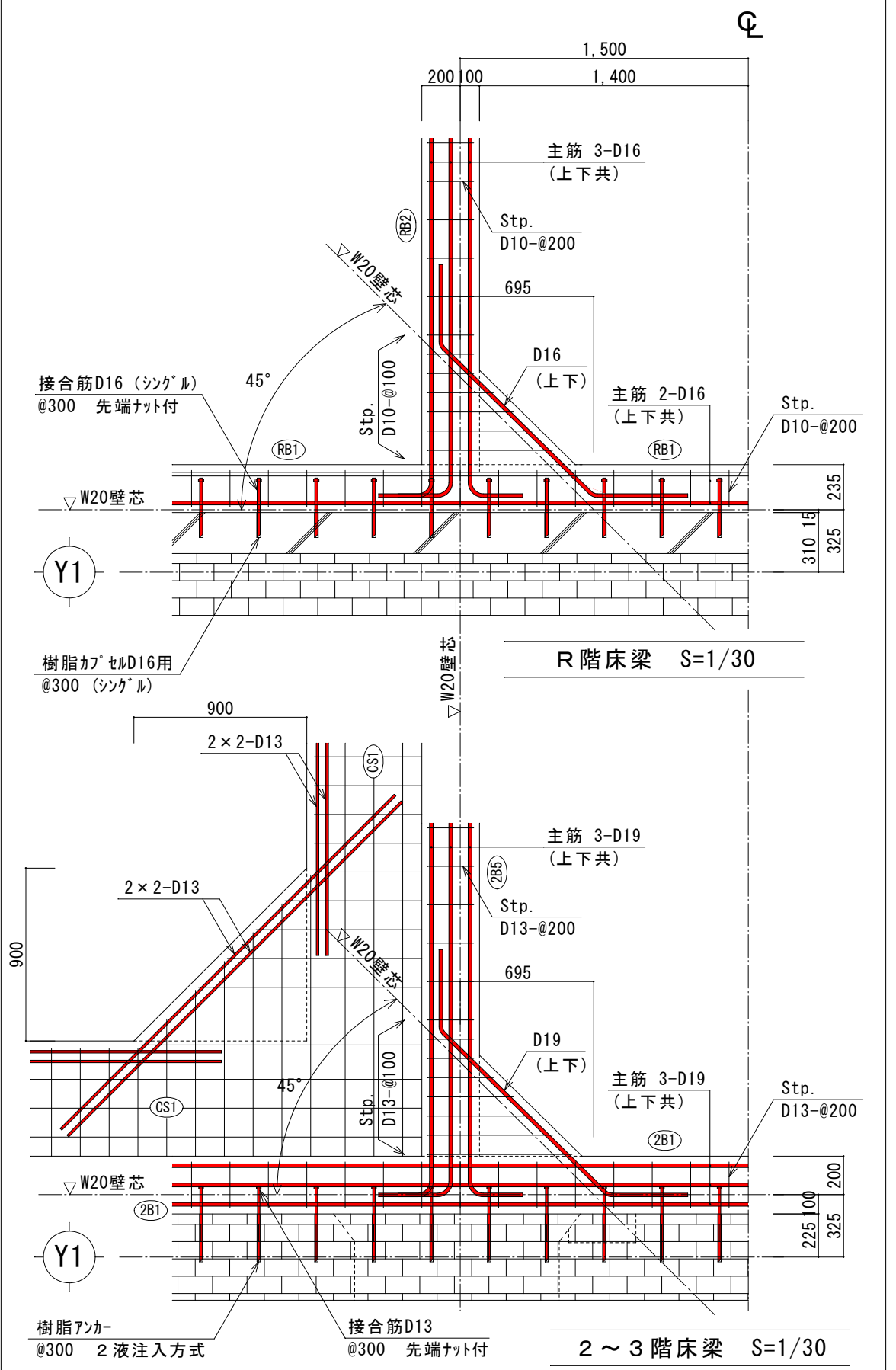
印

業務名  
PROJECT 東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務  
図名  
TITLE 断面詳細図(4)  
年月日  
DATE 2009.09.30

縮尺  
SCALE 1/20  
図番  
S-18  
No.



Y2通り出入口廻り配筋図 S=1/30



PS部水平ハンチ梁詳細図 S=1/30

記事	

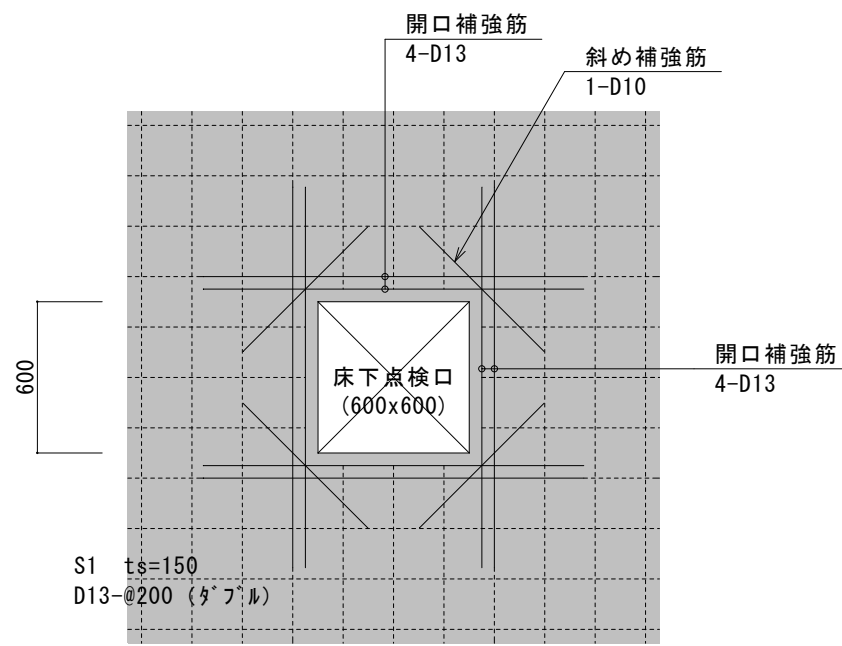
工事名称		東京芸術大学施設課			
		課長	補佐	係長	係員
東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事					

Architect

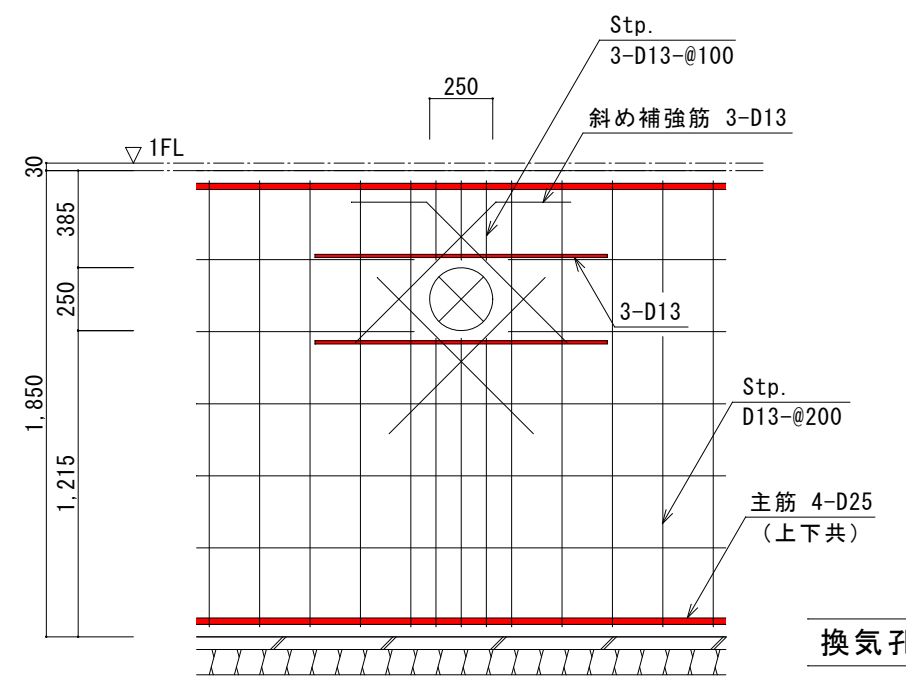
BANN  
万 建築設計事務所

一級建築士事務所 登録 20261号  
一級建築士 66587号 木村 秀雄

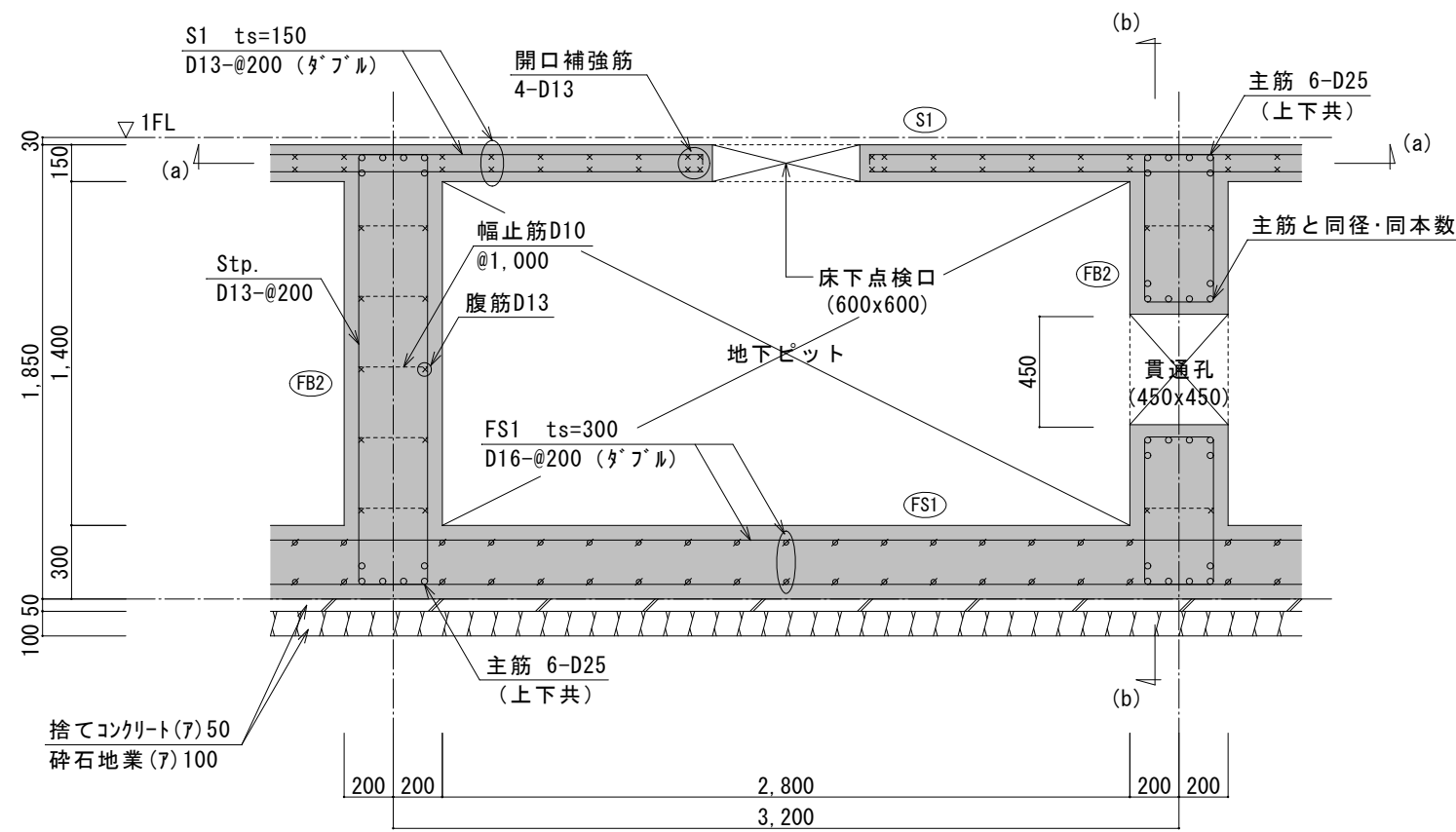
業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/30
PROJECT		SCALE	
図名	断面詳細図(5)	図番	S-19
TITLE		No.	
年月日	2009.09.30		
DATE			



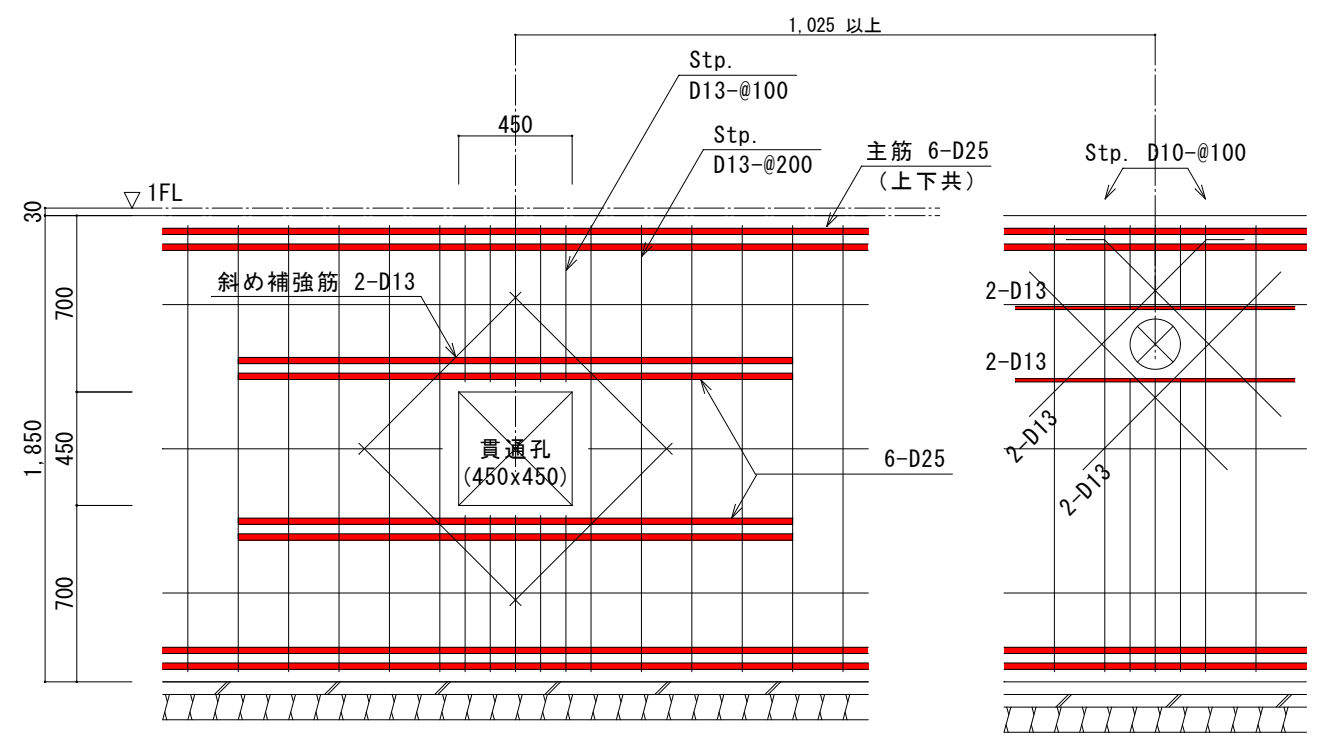
(a)-(a) 断面図 S=1/30



換気孔配筋要領図 S=1/30



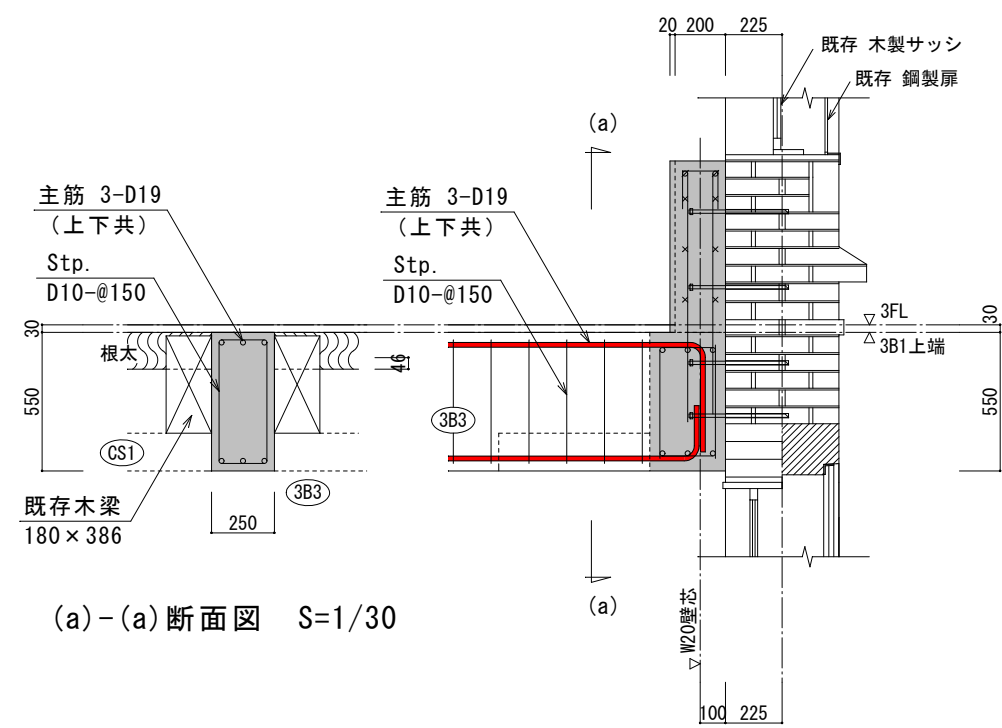
Y2通り出入口廻り配筋図 S=1/30



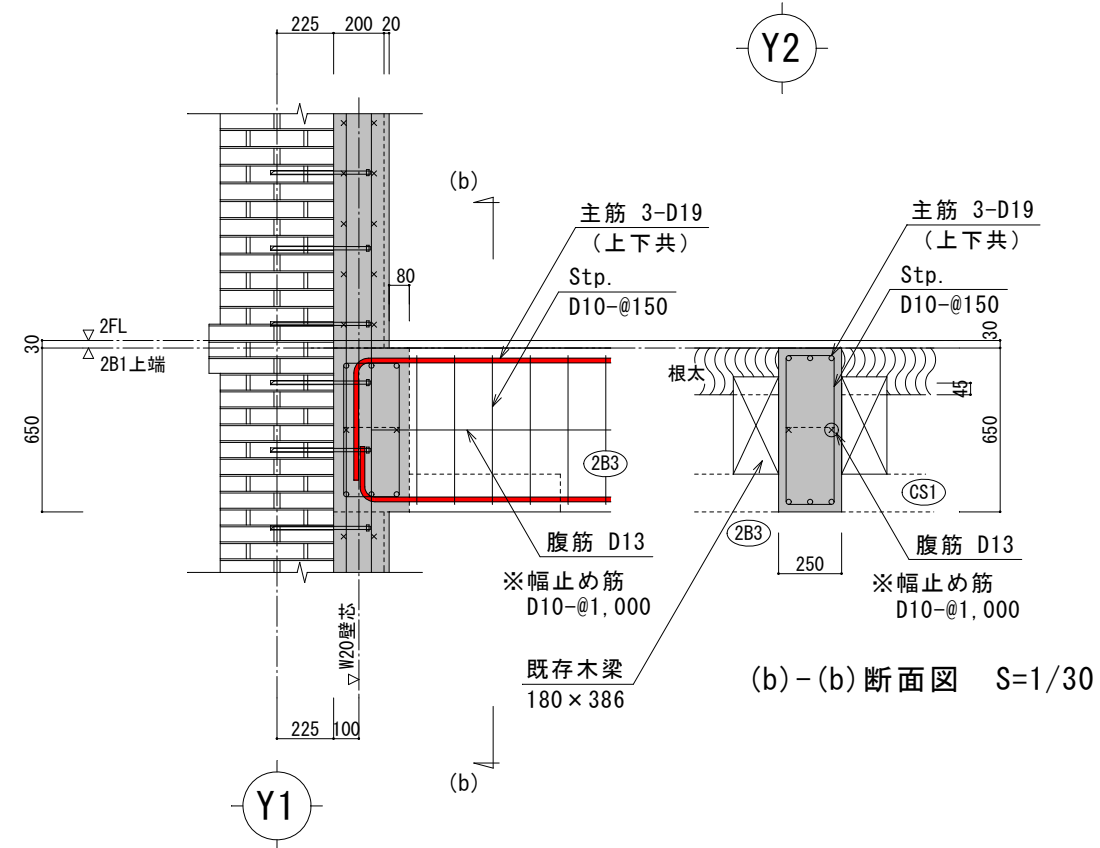
(b)-(b) 断面図 S=1/30

排水リ-フ 200φ 配筋要領図 S=1/30

記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄	業務名 PROJECT 東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺 SCALE	1/30
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員			図名 TITLE 断面詳細図(6)	図番 S-20
						年月日 DATE 2009.09.30	No.		

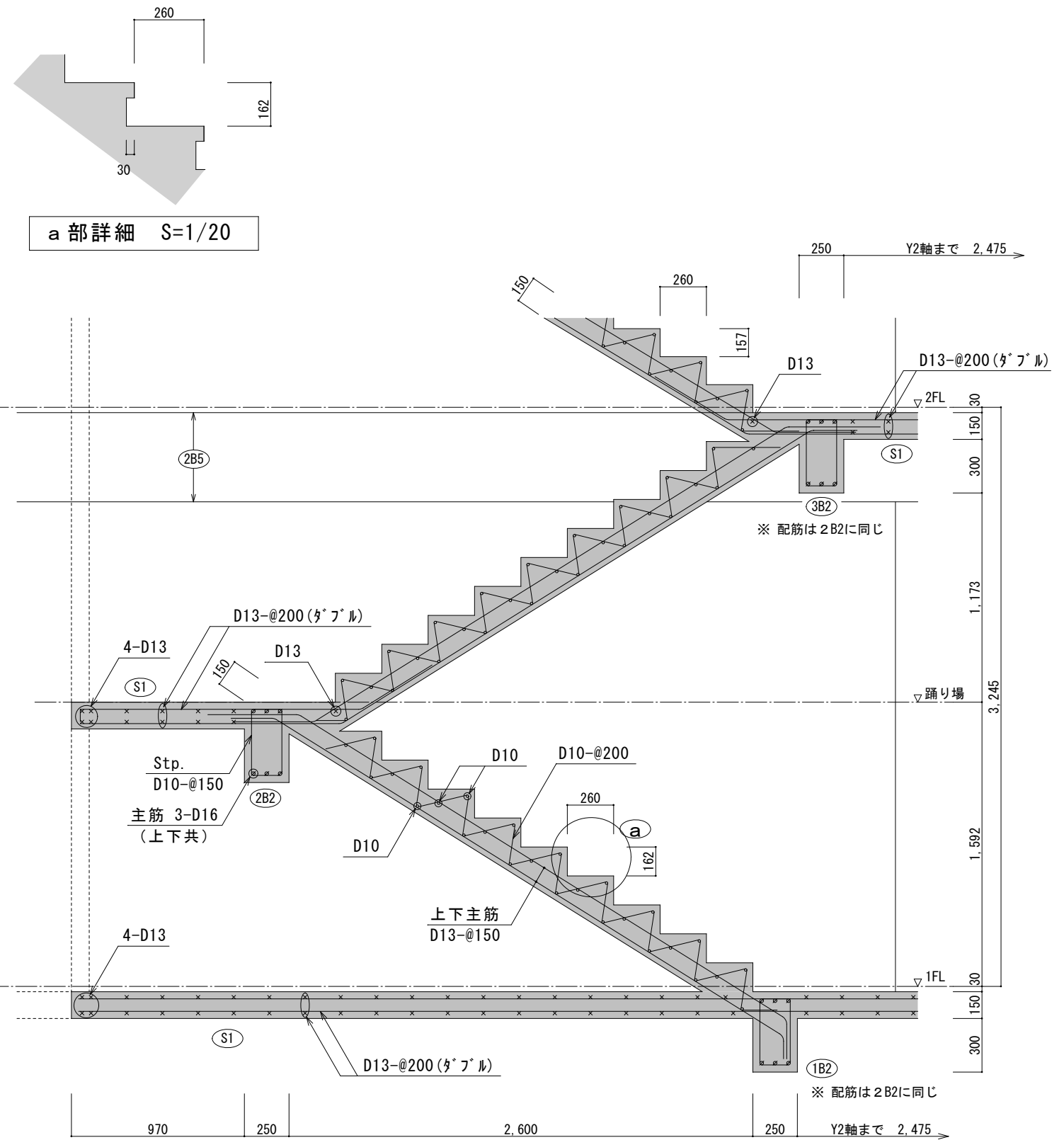


(a)-(a) 断面図 S=1/30



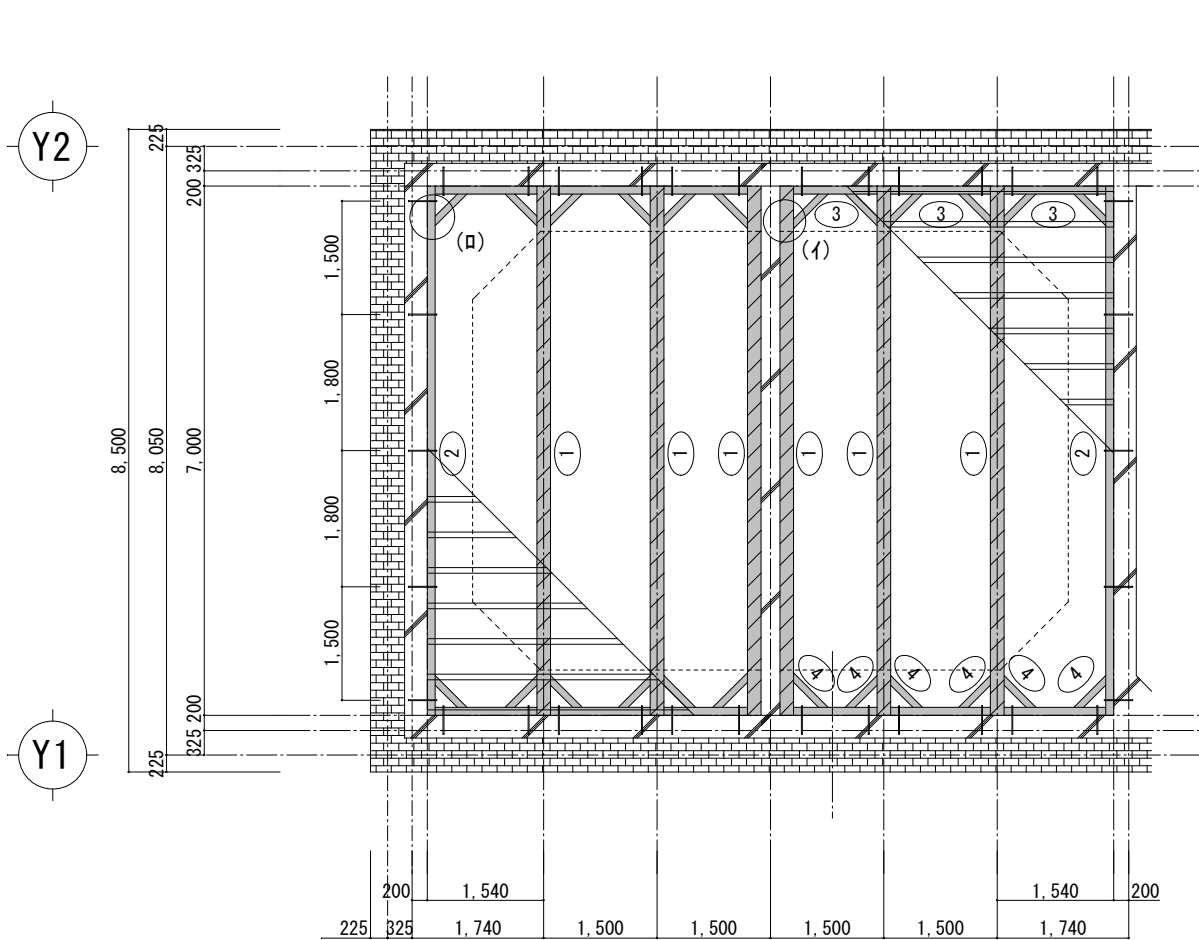
(b)-(b) 断面図 S=1/30

B3廻り断面詳細図 S=1/30

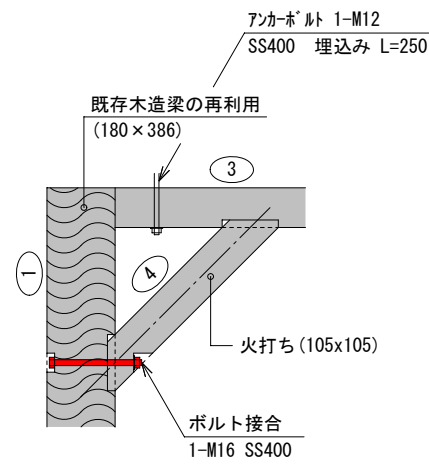


階段配筋要領図 S=1/30

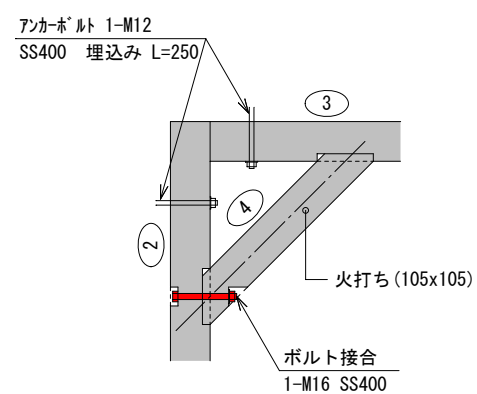
記事	工事名称	東京芸術大学施設課				Architect	印	業務名	東京芸術大学赤レンガ2号館 耐震改修設計業務	縮尺	1/30
	東京芸術大学 赤レンガ2号館改修工事	課長	補佐	係長	係員	BANN 万 建築設計事務所 一級建築士事務所 登録 20261号 一級建築士 66587号 木村 秀雄		図名	断面詳細図(7)	図番	S-21
								年月日	2009.09.30	No.	



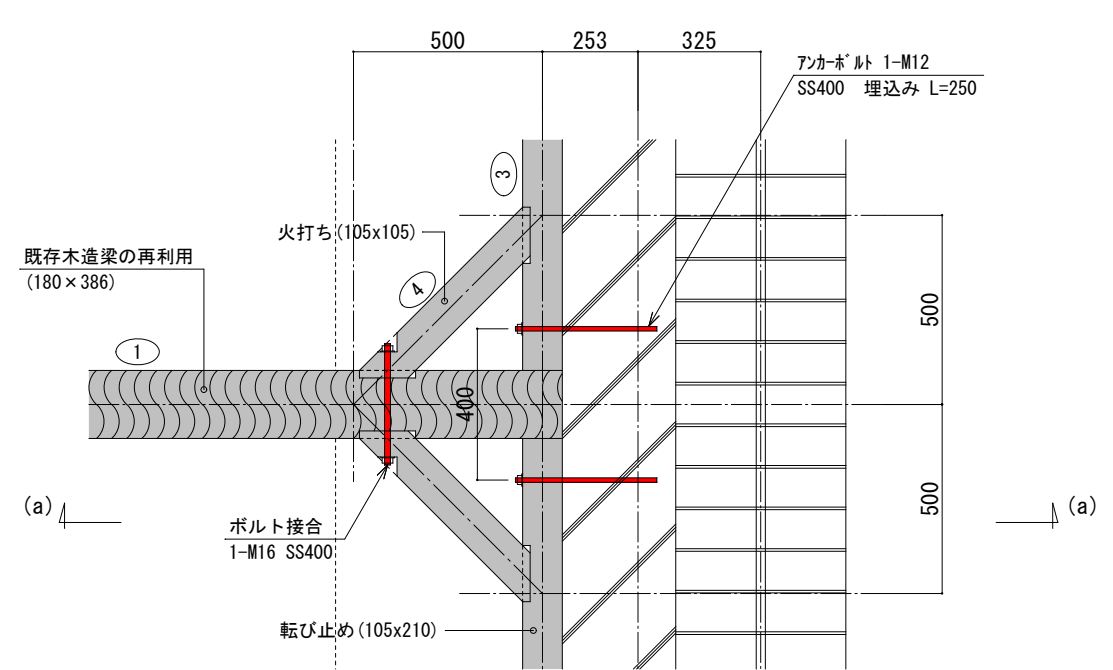
2階床伏図 S=1/100



(イ)部 接合部 S=1/20



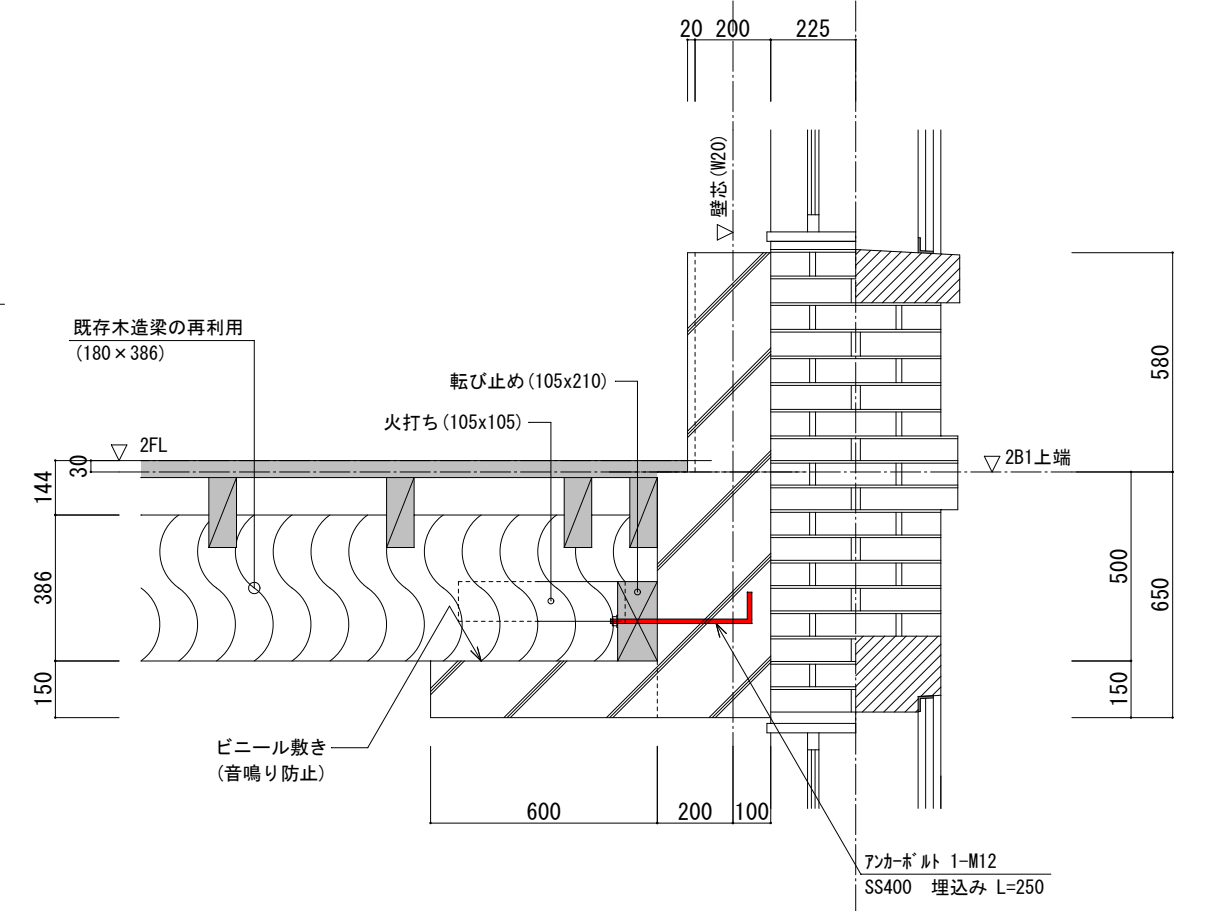
(ロ)部 接合部 S=1/20



木造床組詳細図 S=1/20

木造床組 部材リスト S=1/20

部材番号	1	2	3	4
部材断面				
備考	既存梁再利用	根太受け新設	転び止め新設	火打ち新設



(a)-(a) 断面図 S=1/20